

高塚・三本桐分岐ジャンクションから大台連峰（大峰前衛 本文76P参照）

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて31年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

北米最高峰を望むハイキングと
野生動物の王国！

**マッキンリー-展望ハイキング
とデナリ国立公園 7日間**

6月20日(水)～6月26日(火)
7月 4日(水)～7月10日(火)
8月29日(水)～9月 4日(火)
<関空発着>

旅行代金 ¥386,000～¥428,000

※詳細パンフレットをご請求下さい。

**初夏のスイス・アルプス・ハイキングと氷河急行
古都ワルン8日間 特別企画 <関空発着>**

出発日 ●5/26 ●6/9 ●6/16
¥285,000～¥315,000

**スイス・アルプス・サツツと山上の村、氷河展望
ハイキングと氷河特急8日間 <関空発着>**

出発日 ●6/30 ●7/14 ●8/18 ●9/8
¥325,000～¥375,000

**カナディアン・ロッキー・パノラマ
ハイキング 10日間 <関空発着>**

出発日 ●6/22 ●7/6 ●7/13 ●7/20
¥456,000～¥538,000

**アシニボイン・ロッジとレイクルイズ
8・9日間 <関空発着>**

出発日 ●7/17 ●8/9 ●9/6
¥412,000～¥498,000

**ボリブ・アデスの山旅5,300m峰登頂と
チチカカ湖 12日間 <関空発着>**

出発日 ●5/30 ●6/13・27 ¥398,000

**ドイツ・カールシュタットとナンガパルバット
トレッキング 8日間 <成田発着>**

出発日 ●5/25 ●6/8 ¥262,000

藤本高嶺先生(探検家・ジャーナリスト)同行

カコムとパミール高原の旅 12日間
出発日 ●8/17 ¥435,000 <大阪発着>

モンゴル・フラワー・トレッキング 9日間
出発日 ●7/13・27 ●8/10 <関空発着>
¥358,000～¥370,000

海外トレッキング <特設説明会>

◆ヨーロッパ・アルプス 4/17・5/16
◆カナディアン・ロッキー 4/18・5/17

会場：大阪科学技術センター
時間：18:30～20:30
(地下鉄四つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

予告 新関西創設10周年記念企画 10/3 出発「マレー最高峰 Mt. 村バム登頂6日間」

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区朝本町1-10-22 (本町駅前4階)
TEL: 06-6444-3033/FAX: 06-6444-3032
広島支店/〒730-0001 広島市南区紙屋町1-1-1 (広島駅前)
TEL: 082-542-1660

ご請求下さい!

アルパインツアーの総合
ツアーカタログ。
世界の山旅・辺境の旅
春～秋号、3月発行。
海外・国内のハイキン
グ・登山コース満載!



桔梗（盧山寺）

五月五日には玄奘三蔵のご命日
お頂骨の一部が納められている
玄奘三蔵院を参詣者が埋めつくす
太子の時代に伝わった仮面舞踏劇
栗師寺さんの孫悟空のお芝居
伎楽「三蔵法師 求法の旅」
面や衣裳等は正倉院御物をもとに
当代一流の先生方が製作
栗師寺の声明が地の文を語り
伎楽は天理大学雅楽部が受け持つ
遙かな国インドで法を学び
莫大な量の経典を中国に持ち帰り
絶大な尊敬と信任を得た人
万燈供養の灯が幽玄に聖域を照らし
出して人々を法悦の世界に導く



玄奘三蔵会（栗師寺）

Photo essay

妖し彩



題字 中田 蘭石
撮影 由井 収
文 松 永 恵 一

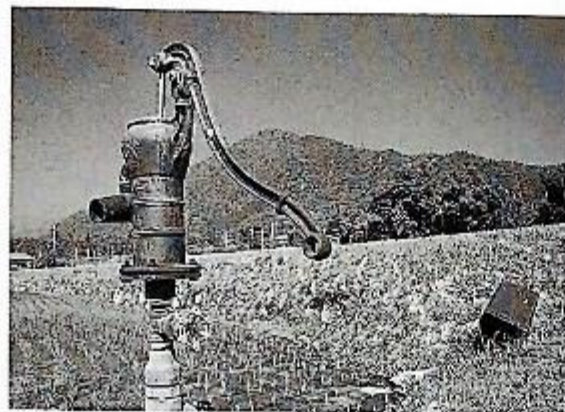


ライトアップされた紫陽花（三室戸寺）

季節の



岩清水



揚水ポンプ



水中花

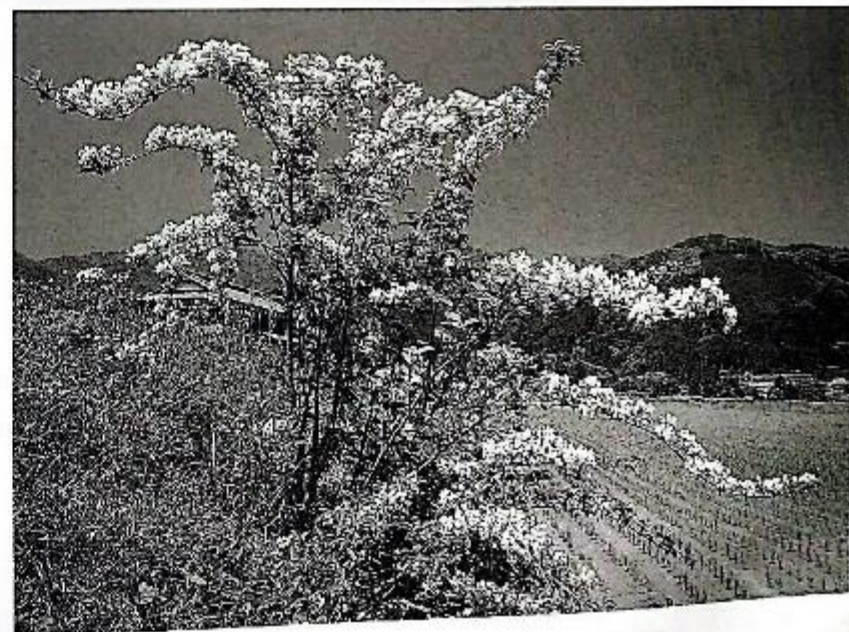
実景

初夏

撮影 武市通治



ホタルブクロ

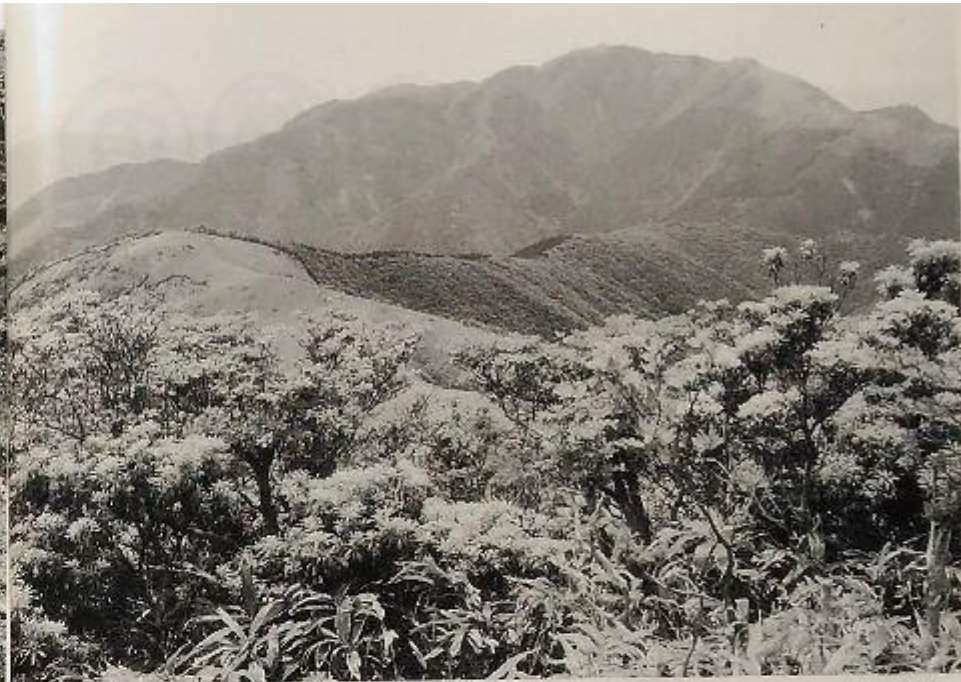


紅ウツギ



新緑の由良川源流① (京都北山・芦生)

中川 光郎



香水ノ頭から綿向山 (鈴鹿)

辨原 計国



新緑の由良川源流② (京都北山・芦生)

中川 光郎



東雨乞岳 (鈴鹿)

岩野 明

花の妖精 三題 ー加越国境・取立山にてー

奥田 英一郎



花の妖精 そのII



花の妖精 そのI



花の妖精 そのIII

新伴 8冊 関西の山
'01年5・6月 初夏 第58号

●目次

表紙：松田敏男「ヤマシヤクヤク」

●作者プロフィール ●1949年、京都府生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳探検、山岳道の探検多岐専門。『京都府山岳探検』、『南アルプス山岳小探』、『東京キャラリー百号』、『花の妖精』と数に達し心会代表、日本山岳会会員、一等三角の研究会会員

● 旗振り通信の研究② 滋賀県内ルート 1等三角峰(5000以上) 548座完全の記録(第25回) ● 神戸市北部の丹生山地 ● 神戸市北部の丹生山地 ● 文学歴史探訪ハイキング② 剣聖の集・御生を訪ねて ● 〆山のレポート① 山名の由来について(中) ● 〆山のレポート② 大谷ヶ原の自然を考える	● コース ● ガイド ● 沿線ハイキングガイド ● サービステーション ● セセの山……	● 紀行 ● グラビア
● 旗振り通信の研究② 滋賀県内ルート 1等三角峰(5000以上) 548座完全の記録(第25回) ● 神戸市北部の丹生山地 ● 神戸市北部の丹生山地 ● 文学歴史探訪ハイキング② 剣聖の集・御生を訪ねて ● 〆山のレポート① 山名の由来について(中) ● 〆山のレポート② 大谷ヶ原の自然を考える	● コース ● ガイド ● 沿線ハイキングガイド ● サービステーション ● セセの山……	● 紀行 ● グラビア
● 旗振り通信の研究② 滋賀県内ルート 1等三角峰(5000以上) 548座完全の記録(第25回) ● 神戸市北部の丹生山地 ● 神戸市北部の丹生山地 ● 文学歴史探訪ハイキング② 剣聖の集・御生を訪ねて ● 〆山のレポート① 山名の由来について(中) ● 〆山のレポート② 大谷ヶ原の自然を考える	● コース ● ガイド ● 沿線ハイキングガイド ● サービステーション ● セセの山……	● 紀行 ● グラビア
● 旗振り通信の研究② 滋賀県内ルート 1等三角峰(5000以上) 548座完全の記録(第25回) ● 神戸市北部の丹生山地 ● 神戸市北部の丹生山地 ● 文学歴史探訪ハイキング② 剣聖の集・御生を訪ねて ● 〆山のレポート① 山名の由来について(中) ● 〆山のレポート② 大谷ヶ原の自然を考える	● コース ● ガイド ● 沿線ハイキングガイド ● サービステーション ● セセの山……	● 紀行 ● グラビア
● 旗振り通信の研究② 滋賀県内ルート 1等三角峰(5000以上) 548座完全の記録(第25回) ● 神戸市北部の丹生山地 ● 神戸市北部の丹生山地 ● 文学歴史探訪ハイキング② 剣聖の集・御生を訪ねて ● 〆山のレポート① 山名の由来について(中) ● 〆山のレポート② 大谷ヶ原の自然を考える	● コース ● ガイド ● 沿線ハイキングガイド ● サービステーション ● セセの山……	● 紀行 ● グラビア

巻頭言

山頂からの大展望を見たいと、それを楽しみにして山に登る人は多いでしょう。初夏の風を受けながら四阿の山々を展望する。近くに遠くに見る山岳の展望には感動すら覚えます。また、はるか下界の風景を見、るせば、自分がとても大きくなったような気が分るかもしれません。しかし、山では雨が降ったりあたりがすぐガスってしまったりで、裏切られることが多いのたしかです。

私は少々雨でも山に入ることにしています。山頂での展望も楽しみですが、それにも増して山頂にたどりつく道すがらに興味があり、山道を歩くこと自体に楽しさを感じるからです。同じ山であっても山頂へ通じるコースにはいろいろな道があるものです。尾根道もあれば山腹を捲く道もあり、溪谷をなう道もあります。稜線歩きでは益原もあれば樹林のなかの道もあります。計画する時でも目的の山はすぐ決まります。それよりも、どのコースで登りどのコースをくだらうかといつも頭を悩ませます。花を見ようとか、木陰の樹林を歩こうかと、天候や季節にあった一番いい道をそれぞれに選んで歩いています。

新ハイキング関西 代志村山 智恵



克

わが御池岳行きと 戯れ歌

近藤 郁夫

ホームページも多種多様となってきた。僕が多なる関心を寄せている鈴鹿に限っても、深い『鈴鹿源流』(山人舎)の辻涼一氏や名著『ノスタルジア鈴鹿の山』の愛知厚顔氏等、そうそうたる顔ぶれのホームページが揃いつつある。それらは、鈴鹿の豊かさ・深さを美しい写真とともに伝えてくれ、多忙な僕の心のオアシスとなっている。

ある日、リンクしていったら御在所の麓、菟野町の黒田豊年満作氏のホームページ『鈴鹿樹林の回廊』にたどりついた。氏のホームページには『鈴鹿百人一首』コーナーがあり、そのあまりの見事さ・奇想天外さになってしまいました。

秋のたのめた場の脇に 腰おろし わがころもではくそにまみれつ
↓これには「現代語訳」までついでいて、たいへん親切なのだ。

秋のノクノ坂で、一服しようとなタ場の横に腰を下ろした。うっかり坐った所は鹿のフンだらけで、うかつだったことよ。↓これはうまい。「秋のたの」は秋の、鷹村次川に通じるあのノクノ坂だったのか。

君が煙 治田に出でて 若菜摘む わが衣手に 牛は降りつつ
↓「現代語訳」君が畑から治田峠に出て若菜を摘んでいたら、牛が降りてきた。帰りはその牛に乗ってきた。楽であることよ。

↓そうか、治田峠で若菜を摘んでいたら、牛が降りてきて、帰りはその牛に乗って帰ったのか。

そりゃ、楽だったろう。おもしろい。僕もできるやろか。
早速、和装式部に挑戦す。

(本歌) あらさらび この世のほかの思ひ出に 今ひとたびのあふこともがな

↓御池池人がお気に入りの風池のほとりにてよめる。

あら足らん この池のほかの 大日照り 今ひとたびの 雨音もがな

「現代語訳」—あらまあ、(水が)足らないことよ。この池のほかは大日照りのせいなのだわ。せめてもう一度、雨音を聞きたいものです。

これには丁寧なことに管理人が解説までしてくださる。満作氏の解説「—あら足らん」はやがて陸化していくであろう池群の枕詞とみることもできるが、今のところ風池は立派な池であるらしい。千天に慈雨を持つ近藤氏のせつなさが本歌に通じる。



克

随想 (山のエッセイ)

おもわずカツサンドを食べたくなる秀作である。

↓解説もおもしろい。ジャムパンでなくカツサンドが食べたくなったか。

では、絶世の美女小野小町でいこう。

(本歌) 花のいろは うつりにけりな いたづらに わが身世にふる ながめせしまに
↓満作氏の手ではこうなる。

鼻のいろは うつりにけりな いたづらに 困見雪ふる ながめせしまに

「現代語訳」—困見岳で吹雪かれて、鼻の色が凍傷で変わってしまっただことであるよ。物思いをしていた間に。

↓そうか、吹雪の困見岳で物思いの色が変わるほど、いったいどんなことを吹雪の中、物思いをしていたのか。小野小町か。僕もやってみよ、と決意はしたが、

戯れ歌といえども容易ではな

い。 ↓寒くてガタガタ震えつつ、南池のほとりで鼻汁つきのクリームパンをペクつきて、初冬の南池を眺めながらよめる。

池のいろは うつりにけりな 痛面(いたづら)に 女神ジョイフル 戯こぎせしまに

「現代語訳」—美しい池の色は、落ち葉と初冬のどんよりとした雲を映して移ろい(掛け詞)

いくことであることよ。笹藪に顔面まで打たれて痛くとも、池の女神にいつかお目にかかれると、ルンルンの戯こぎをしていた間に。

「作者注」—女神にするかわが身にするか、どちらも捨てがたいが、わが身だと痛面(すこい日本語—これでいたづら—相当強引)であっても、わが身はジョイフルとなり、マンになってしまふ。女神求めてのほうがかスケベなロマンがありそう。こちら

もマゾ的な香り漂うけれど。どちらにせよ、戯こぎにはそうした雰囲気があるのである。

「管理人解説」—もはや言うことはありません。作者は池が目的なのか戯こぎ自体が目的なのか分からない愛憎的倒錯の世界に入り込んでいる。いたづらを面が痛い、世にふるをジョイフルとしたところにパロディセンスの窺える作品となっている。

↓枚数の関係でいちいち本歌を掲げないが、結びに、万葉のかの美しい相關歌の御池岳行版で結ぶことにしよう

↓初冬の鞍掛屋敷を時雨降る中、歩きながら、春の御池岳に心を馳せてよめる。

飽きもせず 野行き山行き 御池行き 池守は見ずや 岸がマ浴る

「現代語訳」—飽きることなく時雨の中を、鞍掛屋敷のゆる



随想 (山のエッセイ)

に登山は著しく変貌し、古来の精神的なものが失われつつあることにかんがみ、温故知新の必要があるのではないかと想う。18世紀以前の欧州、19世紀以前の日本では、登山はもっぱら宗教的行事と学術調査、そして探検や交通路としての利用が主目的であった。

日本では19世紀まで、山岳は信仰の対象として取り扱われた。役行者が天武天皇の代に大和の大峰山を開山したのを始め、慈興上人が立山、播磨上人が笠ヶ岳・槍ヶ岳を開山した。そのほか石鎚山・御嶽山・白山・男体山・月山・富士山などがある。江戸時代には高士講・御嶽講など、一般庶民の信仰組織が広く流布した。さらに歴史の晩期には三輪山を筆頭に、山そのものが御神体として崇拝され、山頂には祠(奥の院)がまつられた。そして大塚の奥駈けを始め、いわゆる「お山廻り」

が歴史の要衝を支えてきた。欧州の山の頂上にはたいいてい十字架が立てられていて、天の神に祈りを捧げるためのものとなっていた。イスラム教祖のマホメッドもシナイ山頂で神の啓示を受けたと伝えられている。

平安時代以降、宗教の腐敗を正すために新たな寺院の建立には、奥深い山中が選ばれ、修練道場も併設された。修行を志す僧がこの道場に入るのを「登山」と呼び、修練を満了して道場より退出することを「下山」と称したという。

文明開化の明治期になると、西洋文化と共にスポーツ登山が新たに輸入され、「日本アルプス」名付け親の英人入道教師ウエズトン氏は19世紀初頭、富士山・槍ヶ岳・立山・甲斐駒ヶ岳等に登り、「日本アルプス」登山と探検を著した。

この影響で幾多の日本人登山

家が生まれ、明治三十八年(1905)には英国に倣って「日本山岳会」が発足した。

大正時代には各大学の山岳部員の目覚ましい活躍があったが、山仕事に携わる者か、あるいは良家の子弟にのみ許される極めて贅沢なスポーツの登山であった。一般民衆の遠くおよばない、趣味の一つであった。

昭和に入ると、戦前には国民の体力増進の目的でハイキングが大いに奨励され、近隣の低山山行が流行し、コースも整備された。

戦後、平和な生活が安定してくると、登山活動も再開された。急速な登山人口の増加とルートの再整備・開発によって、今や国内では未踏の地はほとんどなく、かつては難ルートと言われた山も四季を通じて踏破されるようになった。反面、遭難者も増加する傾向にあるようだ。

これは、「歩いて山へ入り歩



克

やかなササの野原やピーク(1056m)を歩いて御池岳へと向かっている。この風の冷たさに春の御池の様子をしきりと想うことだ。池守氏はあの池群の岸に溢れんばかりに群れて包摂しているガマたちを見たであろうか。それにしても今、ガマ君たちはどうしているのか。春の生命を讃歌する日々を待っていることであろう。

「管理人解説」―飽くことなく御池岳に通い続ける近藤氏。同じ山には何度も登らないと言う人に示唆を与える。……池守氏とは御池岳探しの先駆者山田氏のこと。ガマの句標とは交尾のこと。生命への慈しみ深い一作。

相聞歌ゆえに返歌をどうぞ御池岳の猛烈なささ藪を友と一列になって夢中でこぎながらよめる

面先(つらさき)の 荷負え

る友の リニクあらま ヒルつけるゆえに 振れぬ目地の塩「現代語訳」―こうして猛烈な藪こぎを一列になって歩いてると、離ればなれになってはいけないので、友が背負っているリニクが私の顔のすぐ先にある。おや、あれまあ、リニクに山ヒルが登いていることよ。あなたがヒルに血を吸われないように、濃い目の塩を振ってあげよう(ヒル退治に効果あるかどうか不明だけれど)。

「管理人解説」―恋の歌のやりとりとは昔の知識人というのには優雅なものです。現代ならさしずめ携帯でメールの交換というところですか。テーマが何でもありならともかく、山に絞ったパロディは想像以上に難しい。にはへるを荷負えるとしたところなど秀逸。ヒルはタバコの火を押し付けてやるとコロリと落ちる。ただしザックに穴が空いても責任は負わない。

新世紀登山の課題

芝野 泰明

本誌の巻頭言のなかで、登山のあり方についての村田リーダーの良き指導に共感を覚える。日本においてこの一世紀の間

こうして御池岳への途上、「野守」は「池守」にしたらどうなるかな。君が袖振る―どうしようか。

「振る」がポイントじゃ。君が―岸のヒキガエル―ガマでどうじゃ。振る―溢る。おもしろ。クッククックと時雨の中、外見は淋しい単独行の僕は、知らぬ間に鈴鹿岳へと着いてしまっているのであった。相当あやしい姿だったろうな。

この調子でしばらく御池岳行きを楽しむ予定。みなさんもぜひすてきな山行を。帰ってからも遊び心の持統を。



随想 (山のエッセイ)

克

取便して、現在地と目標地点を
確認する工程には妙味さえあ
る。

氣候に恵まれた日本では植生
の回復は早く、歩かれなくなっ
た登山道や袖道はほとんど自然
に還る。道は人々の活動と密接
に關るので、すでに使われなくな
った峠道などは、わずかにそ
の形跡を残す程度で、目当りの
よい所では完全に踏み跡を見失
うこともある。

私は、せめて地元の山ぐら
いは精進したいと、もろもろにも
満たない山でも登山の対象にな
ると自負して行動しているのだ
が、標高の低い山でも山は山、
尾根もあれば谷もある。歩きや
すい残雪期に何度訪ねても目的
の三角点標石が見つけられない
山がある。

たどるべき道のない山中を自
力でルートを開拓してゆくやぶ
こぎは、地図を片手に自然と対
話しながら、自然と一体化する

行動でもある。

私がやぶこぎするのは、ただ
やみくもに道なき道を突き進ん
でいるわけではない。昔から、
生活のために使われた山道や峠
が廢道と化するが惜しいからで
ある。せめて、縦走路と思える
尾根道を探り出して復活し、知
らない人にも利用してもらえら
よう、その情報を提供するのが
ねらいである。

頂上へ登るだけなら、道がな
くても根気よくやぶをこいで一
番高みに登りつめればよい。む
ずかしいのは、尾根を追い谷を
縫って地図上で探し出した鞍部
を見つけた場合だ。もちろん、
ある地点までは地形図に導かれ
てうまくゆくが、谷のつめ近く
なると小さな谷がいくつも現れ
る。しかし、もうその時点で地
図に近寄りすぎて、めざす尾根
や鞍部は見えず、地図は役に立
たない。あとは、勘を頼りに、
これと定めた小谷を登りつめる。

その結果、目的の鞍部に出入れ
ることもあるし、小さなピーク
に登ってしまうこともある。

下りの場合も同じ。始めは小
谷をくだる。滝が出てくれば懸
かなければならない。尾根に迷
れてやれやれと思つたら、この
先が断崖になっていて動きがと
れない。草付きのゆるやかな尾
根をくだれば、時間が倍以上か
かる。

地形図では正確に表現できな
い微妙な地形の尾根や谷が、自
分の想像した通りだったときは
うれしい。古書で見つけた城山
であったり、かくれた歴史深い
山に当たれば穴場であり、自分
の好い場となる。

ハイキングコースの隣に忘れ
られた存在の山がある。意外な
ことに、この山からの眺めのほ
うがすばらしいこともある。

近くで歩いたことのない山が
ある限り、馬蹄は重ねても、低
山歩きから足を洗えそうにない。



克

いて出る」という原則が忘れら
れ、連絡方法の簡便さと救助手
段の充実への甘えなど、経験や
アクションメント時の対応の未熟さ、
そして登山への準備不足が招い
た不幸と言えよう。

山頂をめざして極めることの
みを重視して、しかもその数を
競い多きを誇るといふ傲慢な証
服的態度は、本来の意図から遠
く離反したもので、「深田百名
山」の真骨頂を曲解しているも
のである。

登山は山を愛する人だけに許
されるスポーツである。現在の
登山ブームはレジャーやストレ
ス発散の場と化している。

特に、中高年層にはそのあり
余る体力の割け口と健康保持を
兼ねての「でも登山」が増加し、
しかも自分の年齢よりもハード
な山を要求しているくらいもあ
るようだ。

自分の体力に自信のある人は
ど危険を孕んでいる。仕事にお

いてはすでに盛りを過ぎ、昔流
に言うならば老人という年代に
達しているのだから、すべてそ
れ相応のものしか残っていない
ことを自覚すべきであらう。同
行者あるいは救助の手を期待し
ての山行などは論外と言える。

スポーツのルールは自己規制
が原則で、登山も同様である。
今一度この原則を守るのが課題
である。しかし、いままさう修験
道の御師・行者・先達をリーダー
と仰ぎ、白装束姿で山野を跋
渉することを至上とするもので
はない。

さらに、ヒマラヤの高峰アタッ
ク隊の、登頂後の不要物品の不
法投棄に至っては全く暴挙で、
その不行跡を声を大にして弾劾
する必要があると思つた。

「登山者の憧憬の槍ヶ岳へ登
る人は槍の穂に立つことがすべ
てではなく、槍の穂を見上げて
進む、そのプロセスが槍ヶ岳の
楽しさなのだ」。ある人のいか

にも的を得た言葉である。

やめられない
低山・やぶ山歩き

長示 清司

目の前に山歩きにもってこい
の尾根がある。人に入った気配
がなく、雑木が自然のまま息づ
いている低山である。

里に近い標高500m以下の
やぶ山を、地形図とコンパスで
勘を頼りに歩く、ちょっぴりス
リリングな遊び場である。

地図上に表現された微妙な尾
根と谷を見つけて現態と比べる。
尾根や谷の大小、広狭によって
山の大きさを確認する。勾配で
山の険しさを知り、まわりの植
物分布や樹木の枝ぶりて方角を
知り、株立ちで雪の深さを覚え
る。川の瀬音から水量を流み、
展望のきく地点では距離を学ぶ。
これら地形で捉えられる全てを

白川郷から登る残雪の山

猿ヶ馬場山と笈ヶ岳

宮脇 慎典

飛 驒

待望のゴールデンウィーク到来。世界文化遺産に登録された白川郷は、白い山々を背景に桜が満開だ。行楽客で賑わう合掌造りの町を起点に初夏の山旅を満喫した。

猿ヶ馬場山

山頂付近がなだらかで広大なため、猿の遊び場にふさわしいことから名付けられたという。かねてから遠くで奥深いイメージがあったが、最近すぐ近くを東海北陸道が建設中と聞き、イメージが変わらぬうちに登っておきたいと思った。

前日、午後には大阪を出発し、白川郷をめざす。東海北陸道が北に延びてアプロ

チには便利になった反面、気持ちは複雑である。大阪は晴れていたが、荘川インターを出るころから空が暗くなり、御母衣ダム付近からついに雨が激しく落ちてきた。前編峰の帰雲山方面は濃いガスがかかり何も見えないが、大きな山がありそうだ。

白川郷に入る。すでにあたりは暗く、合掌造りの各家屋に明かりが点り、幻想的でどことなく心温まる光景だ。一方、山腹のトンネルから延びてきている道路は建設中の東海北陸道だろうか。今夜は適当な場所です中泊とする。明日は晴れるという天気予報だったが、夜半にはいちどんと激しい雨に変わった。

朝5時頃から空が白くなってきた。雨は上がったようだが、依然として山は濃いガスに

1528m付近から猿ヶ馬場山

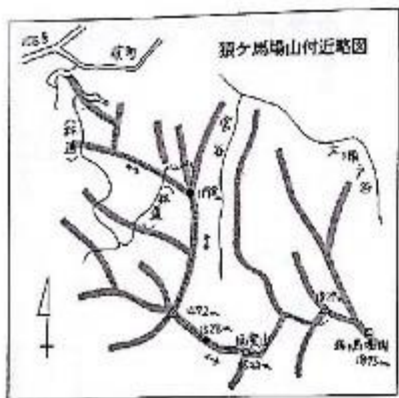


朝5時頃から空が白くなってきた。雨は上がったようだが、依然として山は濃いガスに

おおわれ、何も見えない。登るかどうか迷いつつ昨日下見をした林道を上がるとすでに二台車が駐まっていた。適当な場所に車を駐め、とりあえず出発準備を始める。しばらくすると、幸い西の空の雲が切れ部分的に青空が見えてきたので登ることにする。林道が左にカーブしている所では、3人の登山者が出発準備中だった。右手には三方岩岳・野谷荘司山が雲の切れ目から真・白な姿を現しており、思わず歓声をあげる。

林道を歩き、尾根の傾斜がなだらかな所から左側の斜面に取りつく。やぶに入ると間もなくピンクの布を見つかる。さらに進むとすっかりした山道に出た。テー

プもあり順調に登る。この山道は8000〜8500m付近まで続いている。そこからは不明瞭となるが、その後もテープが続いている。1000m付近で右手から上がってきている林道に出る。この付近から完全に雪におおわれる。ふり向けば白山方面に朝日が当たり、白く輝いて神秘的な雰囲気がた。尾根への取付点を探しつつ林道を右手にカーブしながら上がっていると、右手の谷にピンクの布が下がっていたので、ここから取りつくことにする。谷に入りすぐに左の斜面を登る。登り



きった所が1178mのピーク。谷間を通り急斜面を登る。尾根に上がっても傾斜のある登りが続く。幸い体調もよく、ほとんど休みなく快調に登る。だれも歩いていない純白の新雪に一歩一歩トレースをつけて行く。1450m付近からあたり一面霜水の林となる。いつの間にかガスは切れ、上空には青空が広がってきた。めざす猿ヶ馬場山のなだらかな山容を左手に眺めながら、雰囲気の良いブナ林の尾根を登って行く。1528mのピークは広々とした雪原で、白山の恰好の展望台だ。

木々に囲まれた帰雲山到着。南側にアンテナと物置小屋がある。ここからはいったん鞍部にくだり、登り返すと素晴らしいのよいピークに出る。この付近は境界がわからなく足が沈む。また時折、樹氷が顔に落ちて痛い。

やがて雰囲気が一転し、オオシラビンの林となる。昨日の雨はこのあたりでは雪だったのか、すっぱりと雪におおわれた冬山の様相となる。この付近は境界が悪いときは迷いやすい地形。帰雲山でテープを見失うが、地形図の尾根を出発したとどろながら登って行く。

斜面を登りきると山頂台地の広い稜線に出た。念のため帰りに備えて下降地点に赤布を付ける。ここからはほとんど傾斜はなくオオシラビンの林が続く。青空と新雪のコントラストが眩しい。広い台地の南端が猿ヶ馬場山(1575m)の山頂だった。

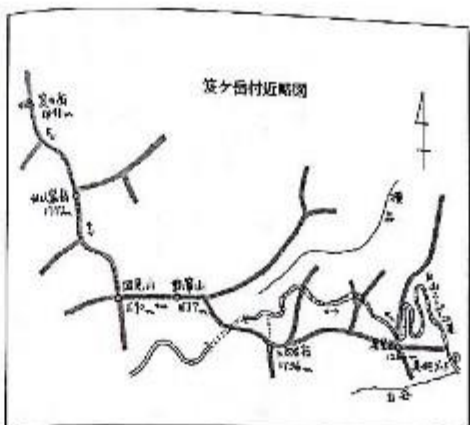
大展望だ。特に三方山から大門山へと続く雄大な白山連峰はまだ真っ白で、冬の眠りから覚めていない様子。人形山から金剛堂山周辺も雪におおわれている。あっといふ間にフィルムを使ってしまう。しばらく休んでいると、1人の中年の男性が上がってきた。取りつきで会った人で、単独とのこと。「トレースがあったので助かった。ひとりでは登れたかどうかわからなかった」と感謝される。名古屋の人で白山や奥美濃方面の情報を教えてくれた。

1時間程休憩し、大満足で下山にかかる。三角点付近まで足をのぼすが展望がない。登りに付けた赤布を回収してくだっている。あと2人が登ってきた。帰りの足取りは軽くなる。白山連峰を前にあつという間に帰雲山。気持ちはよい尾根をひたすらくだる。すでに樹氷は消え、純

白だった雪も変色している。広い尾根にはすっかりしたトレースがずっとのびていた。(平成12年4月29日歩く)

笈ヶ岳

古い絵図には笈摺岳と記されていたという。笈摺とは巫札が衣服の上に巻く羽織のようなもので、実際、1905年三角点設置の際、修験者が埋めた経筒や仏像が発掘されており、500年前から白山信仰者の神定道であったらしい(「コンサイス日本山名辞典」三省堂)。



天気、雪の状態が良さそうなので一日で登ることにし、前日に馬狩ゲートまで入った。
翌日、3時半に起床し出発。途中までスーパールン道を利用させてもらおう。電灯を点けるとかえって周囲が見えないので、星明かりの道を歩く。見上げれば、今にも落ちてきそうな蒼天の星。登るにつれ次第に西に傾き一つずつ数が減ってゆく。周囲がすっかり明るくなったころ、前方に展望台が見えてきた。

突然、静寂を破り、ウォーウォーという声と共に黒い動物が目の前に現れた。一瞬心臓が止まる。熊だ。思わず身構えたが、幸い熊はすぐに尾根に向かって走り去った。

再び静寂に包まれる。展望台の先は除雪車が数台駐めてあり、除雪もここまで。林道は雪の急斜面となっている。カーブを越えると笈ヶ岳と大笠山がはるかかなたに望まれた。かなりの距離だ。あそこまで行けるだろうか。急斜面を一步一步慎重にトラバースして行く。いくつかのカーブを過ぎ、適当な所から左手の尾根に取りつく。上方にはカモシカがじっとこちらの様子を覗いている。尾根のやぶ

を越えて左手の雪の斜面を登り、三方岩岳山頂直下の急斜面をトンネル方面にトラバースして稜線に出た。
稜線はすっかりしたトレースができており、予想していたより通行する人が多いようだ。ルートの心配なくトレースをたどるだけでよいので気が楽だ。出会った登山者に笈ヶ岳へのルートの状態を確認するが、特に悪くないとのこと。天候に恵まれ雪の状態もよく、あとは体力次第だ。

トンネル上には2x3のテントが張っており、中年のパーティが出発準備中だった。ここからひと登りで瓢箪山。なだらかな尾根を越えて行く。左手には純白の白山が見える。国見山の東のピークまではオオシラビソの庭園風の穏やかな尾根だが、ここから足元がすぐ急斜面をくだる。最初の一步を踏み出すまで多少の勇気があるが、くだり始めるとそうでもない。

降り立った尾根は、岐阜県側はいかにも崩れそうな亀裂の入った大きな雪庇が出ており、石川県側は崖となったやせ尾根だ。トレースはあるがすぐ近くを亀裂が走っており、トレースを通信せず自分

なりの判断でルートを慎重に運び、雪面とやぶを交互に歩く。やぶのなかには、枝が絡まり予想外に時間がかかる。やつのことではやぶから開放され、仙人窟岳の南端に出た。

仙人窟岳はなだらかな山頂で、ここから見る三角形の笈ヶ岳と大きな大笠山は印象的だ。北端ピークを越えるとまたもや尾根がスパッと落ちた鞍部となる。慎重にくだり、鞍部からいよいよ笈ヶ岳への登りとなる。最初の取りつきが5、8分の崖となっており、雪面と岩の斜面の間に大きな隙間があるため、手掛かりがなくけっこう登りにくい。手をいっぱい



大笠山と笈ヶ岳(左)と仙人窟岳
よじ登る。崖を登ると再び雪の尾根となる。岩峰の左側を通過後は広い雪原となり、後は困難な所はない。途中でシリタカ山からのトレースと合流

する。はるかかなたに眺めた山頂も目前に迫ってきた。達成感が入り上げるなか、ひと登りで笈ヶ岳(1841m)の山頂に着いた。
山頂は岩場で不思議と雪がない。三角点と立派な山頂標識がある。すでに4、5人が休んでいた。大笠方面から登ってきた人と交互に記念写真を撮り合う。山頂からは360度の大展望。大きな大笠山と北アルプス、先日登った猿ヶ馬場山の尾根も見えている。三方岩岳の姿が良い。真っ白な白山。眼下には千丈平も見える。大満足して下山にかかる。

笈ヶ岳と仙人窟岳鞍部の岩場の下りは登りの時よりも楽だった。仙人窟岳で笈ヶ岳の登りですれ違った地元山岳会パーティに追いつく。以後、或きつ抜かれたとしてそのつど言葉交わす。仙人窟岳から国見山までのやせ尾根は、婦りも難所ではやぶに悩まされる。国見山の登りもさすがにきつい。国見山でパーティは大休止のようだ。別れを告げて一人ひとすう三方岩岳をめざす。瓢箪山から三方岩岳が正面に見えるが、最後の登りとはいえ、さすがに休み休みの登りとなる。三方岩岳の斜面を一気にくだる。途中

でトレースを見失うが、スーパールン道が下方に見えてきたので、それに向かって谷をくだる。突然腰あたりまで雪にもぐりどっと疲れが出る。
スーパールン道に降りてからは、やわらかくなった雪の急斜面を慎重にトラバースして行く。いい加減いやになったころ、朝方笈ヶ岳を望んだ場所に戻ってきた。

ふり返ると、背後から斜光を浴びた笈ヶ岳が望めた。朝とは別のどことなく穏やかな表情に思えた。長かった一日もようやく暮れようとしていた。
(平成12年5月5日歩く)

△コースタイム▽

【笈ヶ馬場山】林道駐車地(2時間20分)
1178mピーク(1時間35分) 楊雲山(1時間15分) 猿ヶ馬場山(3時間) 駐車地

【笈ヶ岳】馬狩ゲート(4時間15分) 国見山(1時間40分) 仙人窟岳(1時間35分) 笈ヶ岳(3時間30分) 国見山(3時間50分) 馬狩ゲート

△地形図▽
2万5千1平瀬(笈ヶ馬場山)・中宮温泉(笈ヶ岳)

スイセンの香りに包まれて

淡路島の最高峰・諭鶴羽山

淡路島

尾野 益 大

50歩も足を進めると、不意に甘酸っぱい香りがした。道端に咲くスイセンだった。所どころでは、畑一面に植わっていた。自生のもともと人が手で植えたものが諭鶴羽山(608m)の裾野を華やかに飾っている。登山口から東に道路沿いを数歩進めば、スイセンの里として有名な「黒岩水仙郷」がある。ちょうど今が花の盛りで、そこを訪ねる前に一汗かこうと思いつき、この淡路の最高峰にやってきました。

スイセンの香りに気分が和んでまもなく、鹿除けのネットが道を塞いでいた。山からシカが下りてくるのを食い止めようというのだろうか。「ニホンカモシカ

か」と直感したが、ニホンジカかもしれない。

高校2年のとき、登山部の友人2人と諭鶴羽山へ登ったことがある。船に自転車を積んで鳴門海峡を渡り、阿那賀の港から登山口まで約20キロペダルをこいだあと、「裏参道」と呼ばれる北斜面を歩いて天辺に立った。残念ながら思い出は薄いが、そのときに役立った「南紀・四国折りの深山(小学館)」に「カモシカが生息……」と記されていたことが記憶にあった。

道を行き米する住人にも会わず、どちらのシカかは確認できなかった。僕にとっ

たかもしれない。

500年以上も昔の室町時代に五輪塔が立っていたというお堂跡で一服した。昭和38年にそこで発見された塔に当時の路が刻まれていたとか。山中にはお堂などの大伽藍が十数棟あったと伝える。淡路の低山にも山の暮らしと山岳信仰が根付いていたことを教えられ、新鮮だった。

立ち止まった際、ユズリハという木が何本かあることに気がついた。トウゲイ

グサ科の常緑高木。新しい葉が生えるのを待って古い葉が落ちるのでユズリハというそうだ。諭鶴羽山の山名の由来は二説あり、一つはこの樹木が多い点にちなんでいる。

やがて車道に出て、すぐ正面に諭鶴羽神社が現れた。広い境内を持ち、アカガシやスギの大樹が長い歴史を物語っていた。山道では吹いてなかった風が出てきた。しかも痛いほど冷たかった。

神社の由緒や、諭鶴羽山登山道が含まれる「近畿自然歩道」を紹介した看板を眺めているだけでも、我慢できないほどの寒さだった。荘厳なうえに寒々とした山の神社にふさわしい冷風に、一刻も早く体を動かしたかった。

神社から上は、登山道となった未舗装の車道を歩いた。一帯もアカガシの森で、前半の登りよりもいっそう周囲は暗く、まるでトンネルの中を行くようだった。このアカガシ群落は12000坪、兵庫第一の規模を誇り、県から文化財に指定されている。

マイクローウェーブ中継塔の前を過ぎて数分、展望台のある広い山頂に到着した。四方に見晴らしがきいて、1等三角点

展望板群の諭鶴羽山頂



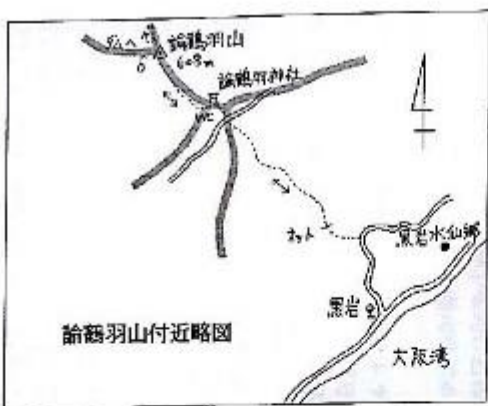
カとの遭遇、そんな期待を胸に秘めながらネットを開けた。

落葉樹が少ないせいで山道は暗かった。分岐もなく道は鮮明でわかりやすいが、深く掘れ、レンガのような石が無数に転がっていた。道の真ん中を避けて右端から左端かを選んで進んだ。道程を告げられる路傍の丁石がなかったなら九十九折の道も退屈になって、元気が続かなかっ

あることもうなずけた。泉・浜・播・讃・阿・淡・紀・備の八州の展望がかなう名所と言いつづけているが、この日は無念だった。

風もピークに達していた。楽しみだったコーヒータはたてる気になれなかった。ザックに押し込んでいたフリースのベストを取り出して着た。カメラにフィルムを入れていた途中、北側の山道から夫婦連れと思われる男女のハイカーが姿を現し「こんにちば」と声を掛けてきた。突然だったのでぎょっとし「ああ、どうも」とそっけなく言って頭を下げた。「しまったな」と後悔したがあとの祭りだった。2人は腰も下ろさず、僕が来た道をくだけて行った。驚きと、体がこわばって心まで凍えていたから、と許してもらおう。南斜面のはるか下に鈍色の紀伊水道が広がっていた。空には厚い雲が集まり、天と地の明るさが対照的だった。山頂には十数分間しかいなかった。

下山にかかる直前のはんの一瞬、雅やかな光景に巡り合った。沈んだ鈍色の積雲が二つに割れたかと思うと、その間から幾筋かの光線が金波銀波の海原をまっすぐに射した。神秘的な黄金色のカーテ





登山路沿いに咲くスイセン

ンのようできさあつた。その光線は「ヤ
コブの様子(階段)」または「天使の様子」
という名前が付いているのだと家に帰っ
てから知った。想像すらできないシヤレ
た名前だった。

いつも山や峠で感心させられるが、そ
の「天に通じる階段」にも、命名の力の
冴えが感じられて見知らぬ先人に頭が下
がった。何気ない自然現象にも目を留め
るクセをつけなければと、いまさらなが
ら決心させられた。

島の南沖約5キロに浮かぶ沼島はよく見
えなかった。林が邪魔をして、背伸びを
したが無理だった。僕が住んでいる徳島
市の吉野川河口から北東に目をやると、
悠然と横たわる論鶴羽山と、手前に沼島
が重なって見えた。沼島は夏に美味なハ
モ漁が有名で、ハモ料理を食べるために

わざわざ船で揺られてくる観光客が絶え
ないという。

論鶴羽神社の駐車場の一角まで戻り、
テルモスの湯でコーヒーをたてた。この
日の山行でいちばんゆったりとした休息
だった。懐かしい「折りの深山」を開け、
論鶴羽山のページを読んだ。昨夜、本棚
に眠っていたその本の背表紙に久しぶり
に触れ、もし時間があればとザックに忍
ばせたのだった。今まで山にガイド本を
持って出ることはいくつもあるが、実物の
持参したのは多分初めてだった。実物の
論鶴羽山と論鶴羽山を紹介したその本の
情報、染みるように体に、吸収され、
ぐっと身近になった。

麓に近づくほど寒くなくなった。標高
から割り出すと、登山口と山頂とでおよ
そ3〜4度の気温差があるはずだ。行き
は観察が足りなかったが、道沿いや山肌
のスイセンはくさくさの花付きがよかつ
た。再び甘酸っぱい香りが漂い出し、登
山が終わりに近づいたことがわかった。
道路に置いた車の屋根が見え、鹿除けネッ
トを過ぎると、左後方から薄墨色の冷氣
をまとう論鶴羽山が僕を見下ろしてい
た。

荒菅沢雪渓を登る

あま かざり やま 雨飾山

北陸自動車道を糸魚川まで走り、国道
148号線に入る。JR大糸線と並行し
て走る道だ。

小谷村の道の駅で立派なパンフレット
を見つけた。「雨飾山 1963・2回、
山岳ガイド」とある。2万5千の地形図
上に説明と写真を付して印刷されている。
昭文社のエアリアマップだけしか持って
こなかった私たちにはラッキーだった。

2万5千図は購入する時間がなかった。
小谷温泉の山田旅館は山緒ある宿だ。
昔ながらの戸障子で、板張り廊下に面し
て唐紙ふすまの間仕切部屋がずっと続く
湯治宿だ。押入れを開けてびっくり、明
治三十年代の新聞が壁紙として貼られて

北川 浩

上信越

いるのではないか。お風呂も古風だった。
お湯の出るカラんはない。シャワーなど
論外だ。湯治場風の湯船そのままだ。落
ち着いて入れるよい湯だった。

事前に電話で問い合わせた時の話では、
今年はまだ雨飾山を(雨飾山荘へ)山越
えした人はいないという。まだ積雪が多
くて登山口の駐車場でも、1・8割はあ
るとのことだった。

山田旅館のご主人が山のルートを整備
しておいでのようなが、おかみさんの話
では谷の取りつきで間違いやすいそうだ。
しかし、登山道についての具体的なこと
は、結局、宿に到着してからもよくわか
らなかつた。

汗がじわっと噴き出してきたので、フ
リースのベストを脱いだ。ネットの陰で
拾ったパンフレットを開くとこんなこと
が書かれてあった。

「紀伊熊野との関係は平安修験にさか
のぼり、熊野の神は論鶴羽山から渡って
いかれたと伝えられる。淡路国太田文で
は当社(論鶴羽神社)を熊野本山と記し
ており、論鶴羽神が熊野神の親神である
といわれる所以。祭神が同神であるのは
熊野と論鶴羽の信仰が同じであることを
物語る」。

『折りの深山』の中で、論鶴羽山に一
章が割かれている理由が、それを認んで
よく理解できた。

もう一度、後ろをふり返り、2時間余
りの山行を思い出に変えた。
(平成13年1月歩く)

▲コースタイム▼

黒岩登山口(1時間10分) 論鶴羽神社
(10分) 論鶴羽山(10分) 論鶴羽神社
(1時間) 黒岩登山口
△地形図▽2万5千 論鶴羽山・太田
5万 由良

荒菅沢雪渓にて

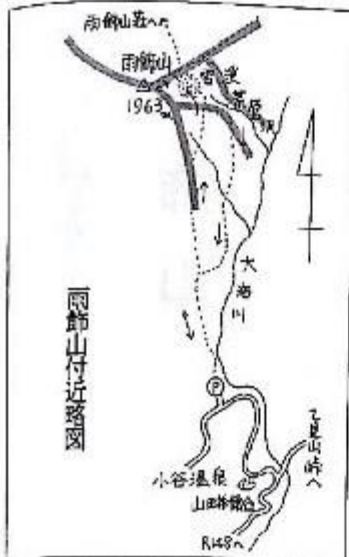


あす、つまり我々(妻と2人)が登る
予定の日に、息子がベニガラを撒きに行
くから……ということだった。しかし、
我々のほうが先になるなあ。

翌日、5時前に宿を出た。早いの、
ご年輩のおかみさんが見送ってくださっ
て恐縮する。車で駐車場まで行く。5月
も末に近いというのに、聞いていた通り
の雪だ。さすがに頸城山系は豪雪地帯

だ。

駐車場から河原(大海川)に降りて歩き始める。大海川を上流へ遡る。ドロヤナギ(ドロノナ)の太木が10分間隔くらいに立っている。沢を一本渡り、さらに行く。これから取りつく尾根の崖には山桜が満開だ。見とれていたからか、尾根へ上がる取りつきが見つかからない。どんどん上流へ行く。もはや左も右も水で崖をよじって尾根に上がるしかない。仕方なくよじ登る。雪が消え始めた雪付きの地肌にかたまりが咲いている。手をかけている岩の横にも目の前にもある。しばらくやぶをこいで尾根に出た。新芽が吹き始めたブナの林で、夏道通した



雨飾山付近地図

が今は雪道。ブナの太木の根元でひと息いれることにする。と、頭上で筒筒が鳴き出した。ボンボン、ボンボン……。この太木の梢で鳴いている。ボンボン鳥の声をこのように近くで聞くなると、何と幸せ。口を開いたものだから、こんな変なヤツは相手にできぬと遠くへ行ってしまう。また遠くから聞えてくる。ボンボン……。

ブナの林から広い雪の谷に出た。東面、行く手の右側は大海川へと切れ落ちていく。左手は雨飾山に続く岩峰の南端になるのだろうか。その岩峰に向かって谷が迫り上がっている。大きな広い谷だ。けれど、間違いやすいのは……。この谷を荒菅沢と間違えて登ると、雨飾山本峰から続く岩峰群(ワトシン岩峰)に行き当って進退きわまるというやつだ。我々だけなら判断を間違えようところだったが、幸い我々のすぐ後から一組のパーティが来た。一組は大阪弁の女性3人組。なかなかの山女性さんたちだった。リーダー

はほんの一時だけ、その間だけは登ることができるといふ。夏は一枚のストラップ(山巻)だとか。途中に岩峰からの迫り出しがあり、雪がなくなると大きなウロ(雪洞)になっている。前の3人も、続く我々も、このあたりで息切れし、穴に降りて一服した。全行程の途中で休むにはちょうどよかった。



雨飾山南峰

と重なる斜面だった。とももこのなかに足は出せない。左端の道雪のほうからはかに足場はしっかりしている。ようようにして官平の南端に這い上がる。短い上が

た所で大阪弁の女性パーティに会う。すでに下山中だ。雪道を来ず夏道(こいっでも雪道)を来たというが、それにしても早い。北峰にたどり着いたら、糸魚川のグループが南峰から「お疲れ」と声をかけてくれた。雨飾山は双耳峰だ。南峰は標柱があるだけだが、北峰にはたくさんの石仏がおいでだ。両方の頂の距離は40〜50メートルしか離れていない。東側に妙高の連峰が見える。周辺の山が大きくて遠くの山が見えにくい。日本海も見えなかった。下山は夏道をくだる。雪道はくだける。雪平は雪のなかだ。たが、所どころに地肌を見せ、花が咲いている。カタクリ・オーレン・イチゲ……。糸魚川のグループは山越えをするように、雪平の下部で姿が見えなくなった。今年一番の山越えグループとなるわけか。そのあと夏道は尾根伝い。夏道とはいえまだ雪ばかりだ。女性グループの歩いたトレースもあり、迷うことなくとんとんくだる。長い急斜面を三つほどくだり、荒菅沢を横切る。もう一つの尾根を登り返して

らしき人が我々に、ここはいったん谷へくだって向こうの尾根に取りつくだと教えてくれた。この人たちはその通り先に行く。さらにもう一組、こちらは中年男性3人、糸魚川の山仲間だ。この人たちは谷を横切らず、上部まで上りて向こうの尾根のつけ根あたりから、この尾根を乗っ越し、さらに荒菅沢へ向けてこの尾根の北面を横断し出した。こうして荒菅沢の雪渓のつけ根に降り立った。かなり長いトラバースになった。我々もアイゼンをつけ、この人たちのトレースのあとを行った。約300分はあろうか、長い下り気味のトラバースだった。大阪弁の女性パーティは尾根に取りついて夏道を行った。我々と先行する糸魚川のパーティは、荒菅沢の雪渓を直登して雪平の南端に出ることにした。

ブナの林に入ったころには、お日さんも傾き出していた。荒菅沢にはベニガラが撒かれていた。山田旅館のご主人が撒いてくださったのだらう。我々が横断した地点よりも、女性たちが横切った地点よりも、まだ下の方だった。尾根の取りつきには赤札も新しく付けられている。来た道を駐車場へ。ブナの林の屋根をまっすぐくだったら自然と夏道が現れて河原に降り立ったから、登った時の苦労はなかった。登りに要した山桜の地点よりずっと下流だった。駐車場に降り着いてみれば、我々の車のほか、ただ一台だけ。山田旅館のご主人らしい人が施設の点検をしておられる。ほかに人の姿はなかった。やっぱり我々はのろいな。

(平成12年5月23日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 駐車場(2時間) 第一の沢(奥ワッセ沢)(1時間) 荒菅沢(2時間) 雪平(30分)
- 雨飾山(10分) 雪平(3時間) 河原(15分) 駐車場
- ▲地形図▼2万5千1:小森

雨の洋上アルプスを歩く

淀川より宮之浦岳

木村 太郎

屋久島

夕方大阪南港を出国した大島運輸の船は紀伊水道を抜け、四国沖の外海を南下していた。日付が変わったころ、船の甲板に出てみると、夜空に無数の星がまたたいていた。

海潮に浴みするらし群星の

乙女ら低く空降りし夜は

(谷川健一「海の夫人」より)

明るい午後の陽光を浴びた屋久島宮之浦港の岸壁に、那覇新港行ききの「ニューあかつき」が寄港した。ボディに「ALINBJ」のロゴを赤く塗った船から21時間ぶりに地上に降り立った。

屋久島環境文化村センターの見学を終え、JTBが手配した観光バスでホテル

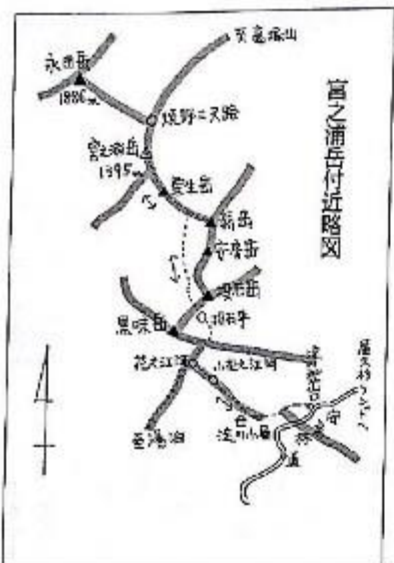
で、宇宙の生命を循環させる神話の島である。島から間断なく海へと流入する水は、外海の暖流に温められ蒸発する。水蒸気は奥岳の高峰にぶつかかり、上空に雲を呼んで雨を降らす。そして島に降る雨は森の生物に恵みの水を与える。森の樹木が成長の糧を吸引して、余った水の滴は小さな流れとなり、やがては川となり海へ還って行く。

海彼より春の胞子の飛びくれば

羊歯の香ぞするわがとこよびこ

(谷川健一「海の夫人」より)

林芙美子は小説「浮雲」に、屋久島は「ひと月に35日雨が降る」と書いた。島



へと向かう。宮之浦港から安房までは道沿いのハイビスカスを車窓に眺めつつ、南島の爽やかな旅情を満喫していた。

屋久島の歴史は古い。「日本書紀」六一六年の推古紀に「春正月桃季実れり、三月夜吹の人三口帰化せり」という記述

で、屋久島の地名が初見される。宮之浦港の海岸沿い中央に鎮まる慈救神社は、大隅国五座の一社として延喜式の神名帳

に列されている。「慈救神社由来記」によれば、古くは「御嶽宮」とも称されて

いた島の宗社である。

屋久島の伝説によれば、島は昔の海神

国であり、山幸彦は兄の海幸彦の釣針を

求めてこの島を訪れた。海神の手助けで

の山間部では年間雨量一万余を記録する。台風銀座地帯に位置した雨の多い島である。宮之浦岳登山の日、登山口への送迎バスに乗り込むと雨が降り出して来た。おもわず同行の前田さん、二宮さんと顔を見合わせた。我々の職場の山旅では、登山時には雨の歓迎を受けることが多い。本降りにならないよう、折るような気持ちで窓の外を見ていた。

屋久杉ランドには樹齢三千年といわれる紀元杉が立つ。その太い幹を林道沿いに見て淀川登山口に着く。両合羽を着込んで、木製の階段を登り急斜面に取りつ

いた。木の根っこが張り出た歩きにくい山道も、尾根にかかると歩きやすくなる。山道ではモミとツガの針葉樹が多く目についた。苔むしたヤクスギの埋木は、森に眠るよう

に横たわっている。ナナカマドやシヤクナゲなどの、様々の植物を若生させたスギの木も見られた。

照葉樹の緑色を帯びた木々の間に、真紅のリンゴツバ

ネの花が残っていた。福路

宮之浦岳への淀川登山口



釣針を見つけた山幸彦は、海神の娘豊玉姫を妻にして子を授かったという。山幸彦が身を寄せた逗留地が、慈救神社の建つ場所と伝えられる。御嶽宮の主は「一品宝珠権現」と名を変えて、屋久島の守護神として、屋久島三岳(宮之浦岳・永田岳・栗生岳)頂上の奥宮にまつられるようになった。

屋久島は海と森を自然の摂理でつない

に同じ道を通った時には花は散らされていた。島に生息するヤクテルが木の実を漁りに来て、花びらを散らしたらしい。島には生きる標本といわれる縄文新石器時代からの屋久杉の原生林がある。かけがえのない屋久島の自然は日本最初の世界遺産リストに登録された。樹齢七千年という縄文杉を育て、この国で最も古く生きてきた森の情調に気分が潤ってくる。

谷音の聞こえる方へ降りるとログハウス風の淀川小屋(1280坪)に出る。淀川にかかる橋上から見渡すと、スギのほかにヒメシャラの高木、シヤクナゲやアセビなどの低木に包まれた清流が望めた。密林のなかのオアシスのような風景だ。淀川は島の自然林や前岳の水を集めて荒川となり、安房の海へ還流していく。

安房の海をそばに「面影の泉」という湧水があり、そこは竜宮への入り口だと屋久島の伝説に伝わる。彦火火出見命とも呼ばれる山幸彦が、豊玉姫と出会った場所は、この奥深い山河のどのあたりなのだろう。神代紀のいう彦火火出見命が、豊玉姫を知った海神宮の井戸につながる川なのだろうか。



花之江河の小祠

5月から7月にかけて、永田のいなか浜の砂浜には海亀が産卵に上陸してくる。屋久島の郷土民話に「亀の寄り木」という話が伝わる。亀が背負った木片を拾うと長者になれるという。亀の寄り木は、尋常の世界から異次元へ運んでくれる宝物であった。竜宮城とか蓬莱山といった、常世の国に高島が通じている証左のようである。

いま歩いてきた花之江河や投石湿原をふり返って、雲ノ平(北アルプス)の湿原地に雰囲気似ていたと、前田さんはアルプス通らしい感想を述べる。二宮さんは天候が気にいらぬのか、屋久島より信州の山のほうが良いと情まれ口をたたく。山旅を止めさせようと無情に降り続く雨をはねのけるように稜線に出て、投石活・安房岳・翁岳を眺めて宮之浦岳をめざした。

すでに森林限界を超えたのか、矮小化したスギやヤクシマシヤクナゲなども姿を消し、ヤクシマダケのササ原に山地が



宮之浦岳山頂にて

あかつきの夢かがやきて金雀花の乙女は咲ふ水底の井戸

(谷川健一「海の夫人」より)

海に浮かぶ屋久島は、周囲100kmの大部分が山岳を成して、平坦地は海岸沿いの数ヶ所の地帯だけである。日本百名山の宮之浦岳を中心に、1000mを超え、八重岳とも称される屋久島の山々は、洋上アルプスと讃えられてきた。屋久島では植生の垂直分布の変化が大きい。海岸近くには亜熱帯の植物、一步山に入れば登高するにつれて温帯性植物、高山付近では寒帯性植物を見ることができるといふ。

淀川小屋から宮之浦岳への登路は、地元の若者らが6月の第一日曜日「シヤクナゲ登山」を行うコースである。屋久島の御嶽信仰の「岳参り」は、形を変えながらも今の世に生き続けている。急峻な坂道を標高をかせいで、高嶺岳の花崗岩の割れた巨石を見る。小花之江河を過ぎ、黒味岳を背景にした高嶺湿原地の花之江河(1630m)に着く。

日本最南端の代表的な高嶺湿原で、白骨化したスギや盆栽を思わせる木々を湿原の木道から見渡した。初夏にはツケス

占有されている。急登の道に「こちらが頂上だよ」と、目印になる巨石が待ち構えていた。友情に添えて「こんにちは、ありがとう」と声をかけ、巨石の基部をやりすごした。そして山頂への最後の傾斜と向き合った。

ついに、九州最高峰の一等三角点を誇らしく埋めた宮之浦岳(1993.5m)の天辺に立った。山岳案内人と遜色ない脚力で、ここまでいっしょに登ってきた添乗員の若い娘さんと感激の握手を交わした。

しかしながら、眺望無限大を謳われた宮之浦岳からは、雨のスクリーンを写し出すだけで映像がとぎれてしまっている。広々とした山頂で、登山者は思い思いに座を占め、各々の宮之浦岳を楽しんでいる。そして私は激しく降りしきる雨のなかで、花崗岩の荒々しい巨石の上に、ある幻影を見ていた。

その昔、薩摩笠沙の宮の彦火火出見命は訪れた宮之浦を根城にして、屋久島の御岳を駆けめぐっていた。古くは宮之浦御岳と呼ばれたこの山頂からも、薩摩半島を懐かしく眺めたことであろう。山頂から永田岳の方へ少し下がった岩の下に、

ミン、真夏にはヒメウマノアシガタの矮生植物が古地に彩りをそえるという、神秘的な山上庭園である。情景のように、ミヤマビヤクシンの緑をまとい、黒味岳の南斜面が見えていた。

黒味岳を背にして、湿原の中程に一品宝珠権現の小祠が立つ。屋久島にはあらゆる山に山幸彦の足跡が伝わる。道に迷い花を捧げると、道案内役の白鹿が現れた「花楊川」という所。なくした釣針を網の口から見つけた「鯛の川」という所。この花之江河にも山幸彦は足を向けたのだから。

宮之浦岳への縦走路に戻り黒味岳分岐点を過ぎ、小さな沢を越え投石平(1680m)の岩原に着いた。このあたりは、シーズンには華麗なヤクシマシヤクナゲの群落を見て、登山者が歓声をあげる場所らしい。まだ花の季節には早く、黒味岳北東斜面と投石平南斜面の豊かな森林を見渡す。たぶん温帯から亜高山帯にかけての樹林の風景なのだろうが、小雨に降って幻想的ですらある。

青と黄の珊瑚の縞のほどけゆき

目まひのなかり鳥飛び立ちにけり

(谷川健一「海の夫人」より)

山幸彦の足跡をあがめて一品宝珠権現の石祠が立つ。その一品宝珠権現と化した、修験者の姿をした人影を巨石の上に見たような気がした。

吾をおきて海へ乗りし夫人の乗る

海馬のたてがみは荒き沙路に

(谷川健一「海の夫人」より)

ひとたびは結婚し、ふたたび海に還っていく他界妻のことを、折口信天は昔書の中で「海の夫人」と呼んでいる。もしかすれば宮之浦岳に現れた人影は、海神宮へ還った「海の夫人」である豊玉姫を求めて、御岳に登り来た山幸彦だったのかもしれない。

(平成12年5月11日歩く)

☆コースタイム☆

- 淀川登山口(45分) 淀川小屋(1時間10分)
- 小花之江河(10分) 花之江河(20分)
- 黒味岳分岐点(30分) 投石平(1時間20分)
- 宮之浦岳(2時間10分) 花之江河(自然観察リレーション時間含む2時間20分) 淀川登山口
- △地形図▽2万5千円宮之浦岳・尾之間(参考)
- 谷川健一著「海の夫人」河出書房新社刊

霧島山 (高千穂峰と韓国岳)

南九州

杉本 高

グールテンウィークも後半に入ったが、相変わらず晴天が続いており、登山者にとってはありがたいことだ。

前半の祖母・傾の登山を終え、気になっていた人吉の街を見物し、鹿児島県国分市のビジネスホテルに5月5日の夕方に入った。

6日の朝も絶好の五月晴れとなり、朝食もそこそこにJR国分駅へと向かう。

国分市は京セラの企業城下町であると同時に鹿児島市のベッドタウンとなっており、鹿児島方面への列車は数多く出ているが、逆方向の列車が極端に少なく入っている。

国分駅8時49分発の普通電車で次の霧

島神宮駅へと向かう。一駅とはいうものの12分間かかっており、スケールの速いを感じさせられた。駅前に停まっているバスに乗り、霧島神宮前へと向かう。

日曜・祝日であれば、このバスが高千穂河原まで行くのだが、あいにくきょうは土曜日のため、霧島神宮前でタクシーに乗り換える。タクシーに乗る前に、霧島神宮に参拝する。高千穂河原に鎮座していたが、噴火により焼失したため、江戸時代に島津家が現在地に遷座したと伝えられている。

客待ちをしていたタクシーに乗り、高千穂河原へと向かう、溶岩の上に照葉樹の原生林が広がるなかにドライブウェイ

ここからは、石の鳥居越しに今も噴煙を上げている御鉢を持つことができる。

古宮址の横から自然研究路が始まっており、標識に従って御鉢をめざす。時期がよければキリンシマミツバツジなどの花を觀賞しながら登ることができただろうが、残念ながら見当たらなかった。

やがて、自然研究路と登山道の分岐点となり、標識に従って登山道を進むと、石壁が途切れ、富士山のように赤茶色の石がガラガラする火山特有の道になり、少なくなつた木蔭で休憩する。

見上げれば、御鉢の火口縁が見えてい

るが、胸突き八丁の急坂には、明確なトレールも見当たらない。やがてこの急坂にトライしたが、足もとが崩れやすい石のため、三歩進んで二歩後退のありさまで、とにかくがむしやりに登つたというのが実感だった。

やっと火口縁にたどり着き、爆裂火口を眼下に望み、その左手には高千穂峰がどっしりとした姿を見せている。火口を左廻りに約3分の1行き、いったん馬の背へとくだる。この馬の背が鹿児島と宮崎の県境になり、高千穂峰は宮崎県の山になる。



高千穂峰・韓国岳付近地図

馬の背から高千穂峰へ最後の登りとなる。御鉢と同様に軽石の多い登りだが、噴火から長い年月が経過しているためかこちらのほうが安定しており、馬の背から約30分で高千穂峰(1574m)の山頂に到着した。

高千穂峰三角点と方位盤



が通っており、独特の雰囲気を感じ出している。

高千穂河原には、ビジターセンターや売店などが整備されており、一角に入山届けの受付もあり、名簿に記入して、高千穂峰をめざして出発する。

駐車場の奥から石段を登つた所が霧島神宮の古宮址で、現在地に遷座されるまで、ここに神宮があったそうである。こ

頂上には国旗がひるがえり、天孫降臨の地を示す天ノ逆鉢が立てられている。一角には三等三角点標石と方位盤がひっそりと置かれ、宗教色の強い山であることをうかがわせる。

頂上直下には小屋があり、私の登つた時には管理人がいた。飲み物など売店があり、宿泊の受付も行ってた。

頂上は独立峰のため360度視界が広がっており、中岳から新燃岳・韓国岳へと連なる山々や、霧島連山最大の池・御池がひっそりと山麓にたたずんでいる。ただ、連日の好天のため、春がすみがかかっており、桜島や開聞岳、そして錦江湾を望めなかったのは残念だった。

山頂に未練を残しつつ、下山を始める。高千穂峰からの下りは、足場が比較的安定していることが逆に災いし、靴底が地面にひっかかるような感じで、前につんのめりながらの下山となった。

これに比べて御鉢の下りは、富士の犬走りと同様に、滑りながらくだることができ、かなりスピードアップして高千穂河原へたどり着いた。

高千穂河原でビジターセンターを見学し、今夜の宿である、えびの高原の「か

北摂の山(上) 東部編

慶佐次盛一著 四六判・二〇〇〇円
昔から日帰り、家族連れで親しまれてきた北摂の山々を写真・地図と共に案内。道標の有無や交通機関を示し、寺社や史跡等も紹介したハイキングガイド。

深山・芦生・越美 低山趣味

広谷良昭著 四六判・一八〇〇円
北摂の深山北面、森深き芦生、豊かな広葉樹林の広がる越美国境。地元の植入からの聞きとりも取り入れた郷土の山研究。写真、地図、参考コースタイム付ガイド。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

らくに往」に向かった。

からくには、林野庁の関連団体が経営する宿舎で、近年改築されたよう、木の香かぐわしい美しい建物だ。当然浴場には温泉が引かれており、24時間入浴できる。また、食堂から見える韓国岳の姿が絶景だ。

野生のシカや、食堂の残飯を食べるイノシシが宿のすぐ近くまで出没しており、びっくりさせられる。

夕食まで少し時間があつたので、隣にあるニコ・ミュージアムを見学する。高千穂河原のビジターセンターもけっこう力を入れた展示がなされていたが、えびの高原のこの施設は、施設の規模・展示の内容・景観とのマッチなど、あらゆる面で出色のものだった。

特に、テラスから見る高原の景色は、特筆に値すると思われる。

宿に戻り、入浴と夕食を済ませ、再び外に出てみる。あたり一面、漆黒の闇に降るような星空が広がっている。たまに走り抜ける自動車のライト以外、邪魔するものもない別世界だった。

明けて5月7日は旅の最終日である。朝食をとりながら、食堂の窓ガラスに広がる韓国岳の姿を眺めていたが、風が強くなり、雲が流れており、とうとう山頂は雲に隠れてしまった。

明らかに天候は下り坂となっていて、当初予定していた、韓国岳から獅子戸岳・新燃岳方面への縦走を取りやめ、えびの高原から韓国岳へのビストン登山とす

弁当とお茶を受け取り、宿舎のフロントに登山届けを出し、余分の荷物を預けて出発する。

駐車場を横切り、標識に従って硫黄山の登山口をめざす。一部が舗装された遊歩道で、登山口まで続いている。

やがて、硫黄山が強くなると硫黄山登山口に若く。ここで市営露天風呂方面からの登山道を合わせ、本格的な登山道になる。

一合目、二合目というふうに、一定の間を置いて合目標識が立てられており、道に迷う心配はない。キリシマミズキなど、いろいろな花が目を楽しませてくれる。登りの苦しさをいくぶんでもまぎらせてくれる。

四合目を過ぎると眺望が広がり始め、

流出のため浮き上がっており、少し荒れているが、比較的安定した登山道が八合目まで続いている。八合目で一服していると、職場のグループだろうか、5〜6人の男女が後から追い抜いていった。

八合目(九合目はない)を過ぎると、火口の周辺(転落防止用の柵が設けられている)を歩くようになる。右手に火口湖である大波池を望みながら、岩がゴロゴロした登山道を進むと、韓国岳(1700m)頂上に至る。

頂上には一等三角点標石と山名板、登山ルートの案内板などが置かれており、獅子戸岳・新燃岳・中岳と連なる山並が目の前に広がり、左に目を移せば、火口内に野生シカの遊ぶ姿が目に入った。残念ながら、きのう登った御鉢や高千穂峰は雲間にかすみ、はっきりと見るこ

とができなかった。頂上で20分余り休憩したのも、登ってきた道をくだった。途中で家族連れや若いカップル、小学生のグループなどいろいろな人々に出会った。この山が地元の人々に親しまれ、よく登られているのを感じられた。

登山口へくんだり、宿舎で荷物を受け取っ



韓国岳から見た大波池

た。相変らず雲の流れは速く、厚みも増してきた。

バスに乗ると、名残を惜しむように霧雨が降り出した。

(平成12年5月6〜7日歩く)

▲参考タイム▼

- (6日) 高千穂河原10・35―御鉢11・10
- ―15―高千穂峰12・05(昼食)12・55―御鉢13・25―高千穂河原14・25
- (7日) えびの高原8・20―硫黄山登山口8・40―五合目9・20―韓国岳山頂9・50―10・15―硫黄岳登山口11・20―えびの高原11・30
- ▲タクシード▼
- 霧島神宮―高千穂河原 2000円弱
- 高千穂河原―えびの高原 4000円
- ▲宿泊▼
- 森林の館「からくに荘」

0984(33)0650
▲地図▼図文社「霧島・開聞岳」

針ノ木雪渓

松田敏男

北アルプス

生来の恐がり屋で、学校の器械体操にすら怖じけづいていた私にとって、ただでさえ滑って危ない雪の上を、こともあろうにその斜面をスキー板に乗って滑るという、とてつもなく恐ろしいことは、長い間全く別世界のものだった。

それが、「雪山はスキーを履いて登ると快適だよ」という悪魔のような囁きが、40歳台少し手前のころの私の心を変質させてしまった。その前に一度だけ、貸スキーに貸靴で靴の履き方から雪の上に立つことを経験したが、こんなつらいことは二度としたくないと思ったものだ。

なのに魔がさしたかのように山スキーの道具一式を買ってしまったのである。

全くと言ってもいい程滑れないのに、である。シールを貼って登るといふ快感を得るまでの道のりは遠く、特に滑りの際の惨憺たる状況は、我ながら目も当てられないものだった。

山の登り始めがスキー場からの時には、リフトに乗る手前のちよっとした坂の登りにも、周囲の人たちに多大な迷惑をかけた。リフト敷台を空席にしたあとの搭乘にみじめな気分を味わいながら、寒風に吹かれるという運びだった。

木々の間を縫って滑ろうとしても、木が自分に向かって追ってくる。それから逃れようとするには自らの体を雪上に倒すしかない。そのあとの大変さを考えて

る。

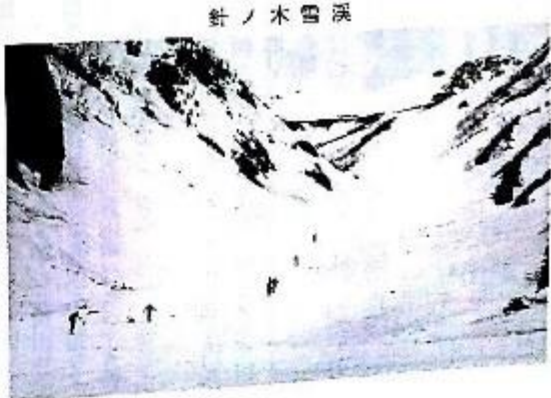
しかし、木にぶつかる速度がゆるんで打撲しないことがわかると、ほっとして気もゆるむのだろう。しかし、そんな分析などしている間もなく私は木をしっかりと抱いている。そして左の足は木の左側を、右足は右側を、それぞれの足が下方へ流れていくので体をすり下げながら強く強く抱きしめていくことになる。残された道は二つ。一つ目は腕力を爆発的にふり絞って体全体を木から離して両足を斜面に平行にすること。もう一つはそんな大変なことをあきらめて、自ら雪中に

体を埋めること。木の根元の雪は特にやわらかく、体を奥深く沈める用意がなされているから、足の踏んばりから早く解放されたい気持ちも手伝って、大自然と骨の髄まで体全体でふれ合うこととなるのであった。

雪山をラッセルして登ることに慣れて得意としているから、どうしても大好きな雪山登山をやめ、費用のかかるゲレンデへ出かけて練習するという気になれず、一シーズン一回あるかないかの山スキーでは上達しなかった。

師匠の須藤さんの指導に頼いることも

も、瞬時の判断は身を挺して安全体勢をとる。その後はぐさぐさの雪のなかで、荷物の荷物付き上半身が徐々に雪中深くもぐっていくのに抗して雪上に立つという、ハードなオブショントレーニングが待っているのだ。もし正面に迫ってきた木を避けきれないと思ったら時は、ただでさえ踏んばり続けて張りつめている筋肉に、渾身の力を込めてムチ打つのであ



針ノ木雪渓

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|----------------|----------------|
| +1 利根・碓氷・新島・阿蘇 | +35 白馬岳 |
| +2 ニセコ・羊蹄山 | +36 鹿島槍・黒部川 |
| +3 大雪山・十勝岳・穂高岳 | +37 御・立山 |
| +4 十和田湖・八戸・蔵王山 | +38 上高地・穂・穂高 |
| +5 八幡平 磐梯湖・磐梯湖 | +39 栗駒高原 |
| +6 磐梯・草津湖 | 40 区部山 |
| +7 蔵王 磐梯湖・蔵王山 | 41 中央・南アルプス群 |
| 8 奥羽山 | 42 木曽駒・空木岳 |
| 9 朝日・出羽三山 | +43 甲斐駒・北岳 |
| +10 飯綱山 | +44 湯沢・赤石・磐岳 |
| +11 磐梯・吾妻・安達太良 | 45 白山 |
| +12 碓氷・塩原 | 46 磐仙・伊吹・磐原 |
| 13 日光 奥日光・日光 | 47 御在所・御ヶ岳 |
| +14 奥州 | 48 北見山系 |
| 15 越後三山 越後山・妙高 | 49 京越北山 1 |
| +16 谷川原 越後山・妙高 | 50 京越北山 2 |
| +17 志賀高原・塩津 | 51 京越南山 |
| 18 妙高・戸根 | 52 北沢の山々 |
| 19 越前川・濃尾 | 53 六甲・摩耶・有馬 |
| +20 赤城・雲海・碓氷 | 54 草城高原・二上山 |
| +21 西上州・妙義 | 55 奥阿蘇山・岩崎山 |
| 22 奥武蔵・秩父 | 56 足尾高原 |
| 23 奥多摩 | +57 大峰山脈 |
| +24 大高南連峰 | +58 大岩ヶ原 大岩ヶ原山 |
| 25 奥秩父 1 奥秩父山群 | 59 赤日・奥武蔵高原 |
| 26 奥秩父 2 奥秩父山群 | +60 水ノ山 奥秩父山 |
| +27 高尾・瑞穂 | 61 大山・阿山高原 |
| 28 丹波 | 62 四阿山 |
| +29 箱根 | 63 石旗山 |
| +30 伊豆 | +64 箱根の山々 |
| +31 富士・富士五湖 | +65 阿蘇・九重 |
| +32 八ヶ岳・野郎 | 66 箱根・箱 |
| 33 奥・奥・奥 | 67 奥久良 奥久良 |
| +34 北アルプス群 | +68 霧島・霧島岳 |

(本図は新仕様地図です)

※昭文社の「山と高原地図」は年更版として毎年春頃発行します。この行の等価はなるべく最新版をご利用下さいませようお思い申し上げます。
※2000年更版は「大雪山」「甲斐駒・北岳」「奥見・赤石・磐岳」「阿蘇・九重」を全面改定し、新刊として「霧島・阿蘇岳」を刊行しました。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1
電話03(3558)8111(代) 〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中津8-11-23
電話06(6303)5721(代) 〒532-0011
(インターネットで検索発信中)
<http://www.shoin.co.jp/>

ないまま7年が経過した年に、戦場の人と行ったゲレンデでプラスチックブーツのペロの部分に両方向同時に壊れた。折しも雑誌や新聞にプラスチック疲労についての話題が幾度か載ったことだった。それを機に二シーズン全くスキーをしなかったのだが、大津市の山の道具店「石と雪」のスキーツアーに参加できそうなることがわかり、ブーツを買った。そのツアーはリーダーの須藤さんを始め、我が会の会員が半数近くを占めているので参加しやすい気分だった。

初めて会うメンバーに迷惑をかけては



白馬大雪渓

いけないと思えば思う程、迷惑をかけるという結果になった。パーティというのはどうしても一番遅い人に合わせなければならぬので、寒い所で待ってもらわなければならない。しかし、心優しい人たちのおかげで、私は自分の体力の限界と闘うことのみ集中すればよかった。そして、上達しないまま続けることは将来早い時期に山スキーの世界から退かねばならぬ

いと思ひ、やっとスキーの講習を受ける気持ちになった。
そのスキーツアーには60歳以上の人が元気に参加されていて、体力も必要だが、技術の大切さも実感したのである。以前は、講習の費用と日程があればどれだけたくさんの冬山へ行けるだろう、という考えが勝っていたけれども、「背に腹はかえられぬ」の心境にやっとたどりつけたわけである。
講習を受けることにより、足で踏んばる悪い癖が少しずつ矯正され、固い雪面でもなければ急斜面でも恐れじけづくることになくなった。

そして今回、針ノ木雪渓行きがめぐってきた。雪渓を上げれば北アルプスの真只中の針ノ木峠である。2、3年前まではとても考えられなかったことだ。それは器械体操が大の苦手だった者としては奇蹟に近い軌跡である。

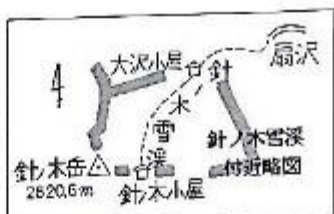
いつもの高橋さんの車に乗せてもらって松本インターチェンジをめざして走る。同乗は中村さん。中村さんはヒマラヤやカラコルムの登山遠征の経験を持つ人だ。私よりいくつも年上だが、その活力は並

ではない。福沢に着いたのは午前1時頃だったのだろうか。おきまりのビールを飲んで手早く寝る。
次の日はすっきりしない天気だった。福沢駅のすぐ上から、もう雪が残っているのには驚いた。シールをつけて樹林のなかを登り、大沢小屋よりほるか下の雪渓の末端に降り立つ。
暗い雲が雪渓の上部を隠していた。いくつかのパーティの姿が見えるが全員スキー登山である。木切れが混じっていたり黒く汚れてはいるが、雪上を登る気分はたとえようもないほどのすがすがしさだ。ザックは日帰りの軽い荷物だし、下から冷気が上がってくるので暑くならぬ。

本沢よりも広いマヤクボ沢を見送って次第に斜面が急になる。雪渓は広いからジグザグに切っていくは大丈夫だ。上部にいても、心配していた雪の質がやわらかだったので安心だ。

最後のツメだけはかなりの急斜面だった。夏に歩いた経験がなかったぶん、わからないままだったのだから来たような気がする。針ノ木小屋の屋根の高さまで雪が積っているのだから、板をはずして屋根

の上で昼食休憩した。高橋さんは天気が良ければ針ノ木岳に登る予定にしていたが、視界が良くないのでここで折り返すこととなった。



簡単な昼食を済ませていざ滑降である。と言えど間こえはいいが、最初の急斜面は私には少々水準が高すぎる。得意のスライディングターンを繰り返した。中村さんも高橋さんも一瞬にしてその姿は小さくなったが、そこはどうしようもない



り体が斜面の前に向いた時スキー操作の余裕がなくなってしまうのだ。しかしスライディングしてもすぐに立ち上がる技術だけは身につ

そんなに寝れることもなく持っている2人に追いつく。

雪渓は広いので斜面が少し急でも大きいターンをして徐々に自分の滑降ペースがつかめだして、後はもうルンルン気分。他のパーティにも私より下手な人はいなかったが、下手な人あっての上手な人だ。滑れたら何の問題もない。北アルプスの雪渓の大滑降、こんな痛快な気分はそう味わえるものではない。高度差11000を1時間程で下りおいた。7時30分に登り始めて、午後2時には戻っていた。あらためてスキーのすばらしさを実感した。

入湯料300円の大町市民浴場に入り、白馬大雪渓のもとへ向かう。次の日は帰る日なので、少しだけ大雪渓を登る計画だった。

しかし、こちらには想像外にも一般にゲートがあつて、雪のないアスファルト道を歩かねばならなかった。きのうに引き続き視界はあまりよくない。板を背負っての歩行となったが、思いがけない深しさが行っていた。道の両側に花々がいっせいに咲いていたのだ。カタクリやキクザ



キイチゲが群落をなし、湿地にはミズバショウが美しく咲きかた。猿倉のミズバショウの手前で雪面となり、スキーを履く。白馬尻小屋前まで登って終了にする。大雪渓の壮大な眺めを目の当たりにできて満足した。

大半が歩行だったので、きのうと同じだけの時間を要し、やはりスキーのありがたさを感じたのだった。

(平成12年5月13日~14日歩)

- △コースタイム▽
- 福沢(5時間) 針ノ木峠(1時間) 福沢
- 二股(3時間) 白馬尻小屋(2時間) 二股
- △地図▽
- 昭文社「鹿島槍・黒部湖」「白馬岳」

自然観察山行

富士見台

富士見台は、中央アルプス主稜南部、志那山の北に位置する高原状のピークである。

中央自動車道を中津川インターで降り、国道19号線を北上する。沖田交差点で右折して湯舟川に沿って上流に走る。馬籠宿への道を左に分け、上流で左岸に渡って神坂峠へ向かう。

峠への道中には、勢いよく冷水を吹き出している強清水があり、東屋が整備されている。この冷水は、ハイキングの帰路に立ち寄ると、がぶ飲みしたくなるようなさわやかな水だが、以前、中津川市役所の検査によって大腸菌が検出され、今では生水飲用が禁止されている。

鶯見守康

東濃

古くからの峠道は、この強清水から始まっている。現在は蛇行する舗装道路で何度も寸断されている。神坂峠は、古代東山道が通っており、「今昔物語」にも描かれたという遺跡発掘跡も見られる。

富士見台は私の好きな山の一つで、これまで七回ほど歩いている。

アクセスは車を使用するしかなく、各務原市の自宅からはけっこう距離もある。車で登れる神坂峠からなら、ゆっくり歩いて1時間程度で山頂に立てる。そんな手軽さとともに、高原状ののびやかで開放的なロケーションと南アルプスの展望とがほかに類を見ない魅力となっている。

湯舟沢源頭部の絶き道から富士見平を望む



峠から、いったんわずかにくだる。7月初旬に、初めてモクレン科のオオヤマレンゲの花を見た所だ。すぐ登り返して林間の平坦な道となる。オオシラビン・トウヒ・ウラジロモミなどの亜高山帯針葉樹とミスナラなどの夏緑樹を仰ぎながら、しっかりと落ち着いた道を進む。この道沿いに、5月にはシロバナエン

レイソウ(ミヤマエンレイソウ・ユリ科)がぼつんぼつんと咲く。ヒメイチゲ(キンポウゲ科)の数は多く、同じキンポウゲ科のバイカオウレンやフモトスミレ・タテツボスミレなどのスミレ類、垂直分布域の広いシヨウジョウバカマ(ユリ科)、そしてニシキゴロモ(シソ科)など、お馴染みの草花たちが春を彩る。また、覚えやすいマイヅルソウ(ユリ科)の葉も多発見かける。

樹林帯を抜けると、クマイザサにおおわれた山腹を捲いて行く。頭上も前方も一気に開ける。陽光を受けたササの斜面が輝く海原のようにも感じられ、実にすがすがしい気分だ。

やがて西に廻り込むと、湯舟沢の源頭



部にあたる鞍部となる。数年前までは、朽ち落ちた長屋のような神坂小屋が隣屋然とした姿を晒していた。小広場のような平坦地では、かすかにキャンプ場の面影を残していた。

平成10年、このあたりはすっかり生まれ変わった。神坂小屋はこじんまりとしているが、清潔感あふれる二つの避難小屋となり、ログハウス風の棟は3畳、もう一つは6畳ほどで、こちらには水洗トイレが付設されている。し尿は微生物の貯水槽で浄化され、さらに土壌処理のうえ、自然発酵させるというシステムとこのことで、周辺は畑と見まがうような風景である。

このあたりの東側(伊那側)は牧場となっており、鉄線フェンスの向こう側に牛の姿を見たこともある。鉄線を越えて牧場内に立ち入っていくルートもあり、伊那側の中腹には「万岳荘」と名付けられた避難小屋がある。万岳荘へは、峠から車で進入することもでき、駐車場と公眾トイレが用意されている。

万岳荘は古いがよく手入れされた大きな避難小屋で、毛布も用意されており炊事場も十分な広さを持つ。いつか機会が

あれば利用してみたいとも思っていた。最近、長野県の阿智村が再整備し、避難小屋の機能を戻しつつも、50人ほどの宿泊施設として、この4月から営業を始めるところである。

コースはここから北へゆるやかに登って行く。この地は雷が多く、行く手の頂稜部には避雷針が立っている。初稜、頂稜部のササ原には、数多くのササユリ(ユリ科)があでやかに咲き誇る。

所どころ、針葉樹が優生化して生えているが、この樹木はサワラ(ヒノキ科)である。こんな地に生息しているとは、最初に遭遇したときには信じがたいものだ。サワラはヒノキと瓜二つの兄弟のような樹木で、慣れないとヒノキとの区別が難しい。区別点は鱗片葉の裏の白い気孔線の形で、ヒノキはY字形、サワラはX字形に見えると思えばよい。

芝生状の山頂はしばしば強風に見舞われ、寒さに震え上がることもあるが、天候に恵まれた日には、すばらしい展望台となる。

5月の晴れたある日、私は『続・展望の山旅』(藤本一美・田代博共著)の「富士見台」のページのコピーを持参して、こ

の山頂に立った。田代氏の記述によれば「どの山からの展望にも思い出があるが、この富士見台からのそれには、『展望生命』のかかったとりわけ強い思い出がある」そうである。「地図上から展望図を作成して、それが正しいかどうか実地検証せよという課題を、ある雑誌編集者から突き付けられた」のであるが、その課題を達成するために「仕上がりが、『絵になる』ためにはアルプスが欲しい、まだ行ったことがなく、しかも実地検証をしやすい場所」など、あれこれの条件を考えたすえ、選んだのがこの富士見台であったと言った。

地形図の尾根や谷の読み取り、そして地球の丸さによる「沈み」という問題まで考慮してペノラマ想定図を作成。「原理的にはこれでOKのはずだが、不安は大きい。(略)富士見台に向かった結果は……、大成功！(略)思わず快談を叫んだのだった」

ところで、田代氏がこの富士見台を選んだ理由の一つには、「付録的に富士山が見えるかどうかの確認もしてみよう」ということもあったそうだが、富士山は聖岳に阻まれて見えないことも確認でき

た、ということである。

春爛漫の日にしては大気が澄んで、見晴らしがきく。これまでにないものすごい山岳展望であった。

東方向には、田代氏の作画通りの南アルプスの全境。北の端から甲斐駒ヶ岳・仙丈岳・北岳・間ノ岳・盛岡岳・塩見岳・荒川三山・赤石岳・聖岳など。さらに南には光岳も望まれる。そうした主要な峰ばかりでなく、小太郎山や中白根山などのピークも判別できる。さらに、仙丈岳の下に風越山、塩見岳の下に高鳥屋山、板屋岳の下に梨子野山なども視認。きょうの遠大な見晴らしと、それを忠実に再現した作画とに、ただただ感服するばかりであった。

北方向には、中央アルプスの木曾駒ヶ岳・木曾駒ヶ岳・中岳・宝剣岳(双眼鏡で確認)・三ノ沢岳・空木岳・南駒ヶ岳、手前の方に越前山・摺古木山、その左方向に残雪の御嶽・乗鞍岳・奥穂高岳と前穂高岳(穂高岳以北は角度の関係で見えない)、手前に阿寺山地の伊勢山・天然公園・奥三界山・小秀山・小秀山の左に、白草山・寺田小屋山・御前岳などの山並、伊勢山

つまでも南アルプスの大展望は尽きない。

わが国には、こんなにも美しい風景があるのかと嬉しくなる。所どころで駐車しては、南アルプスの峰々を覗き見る。

神坂峠から中津川への下りも、さわやかな景観が展開する。カーブするたびに風景が変化し、初めての人を案内するとひとしきり感嘆の声があがる。

10月中旬過ぎの紅葉の時期には、針葉樹の緑がアクセントとなって点在し、味わい深い紅葉の世界となる。

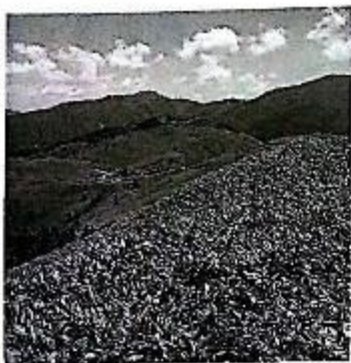
▲コースタイム▼

神坂峠(1時間)富士見台

▲地形図▼2万5千1中津川・伊那駒場

▲参考▼

山岳同定について、私自身関心はあっても詳しくない。本文にある「続・展望の山旅」(1990年発行、実業之日本社)のほか、藤本一英・田代博両氏には、シリーズ初の「展望の山旅」(1996年発行)があり、参考にすると山歩きがもっと楽しくなる。また、マニアの方には、田代博氏の「山岳展望の楽しみ方」(山と溪谷社)がおもしろいだろう。



富士見台山頂から大川入山方面を望む

の右には南木曾岳、西方向には藤んだ白山、南にはいかにも近い恵那山のとっしりとした山容が大きく、その左に位置するのは大川入山、その奥に蛇峠山が判別できた。

陶いっばいに広がる充実感に満たされながら湯を沸かし、コーヒーを味わう。思いのほかハイカーは少なく、静かでのんびりとした時間が流れてゆく。

藤本・田代両氏は言う。山岳展望は総合科学であり文化である。と。「たかが山を見るということが、いかに奥深いものであるか」「山を見るということが私たちの心にどんなに大きな安らぎを与えているものであるか」と。

山頂から北へ、ササの高原に切り開きの道が一筋のびている。道の果てにそこはかとなくロマンを感じられる。横川山を経て南沢山に至る縦走路である。いつか、この道をまっすぐ歩き通したいと思

う。

昨年の晩秋、長野県内路村の一ふるさと村自然園から歩き出し、南沢山・横川山を登った。富士見台との距離は近いと考えていたが、横川山から眺めた高

私達におまかせ下さい。待っています！

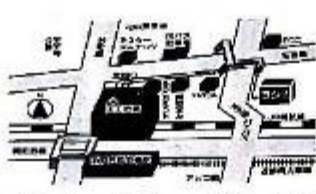


詳しくはホームページを見て下さいね。

登山用品専門店

とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



http://www.d1.dion.ne.jp/~hyoshimi

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

永源寺の後ろに構える日本コバへ

にほん

鈴鹿

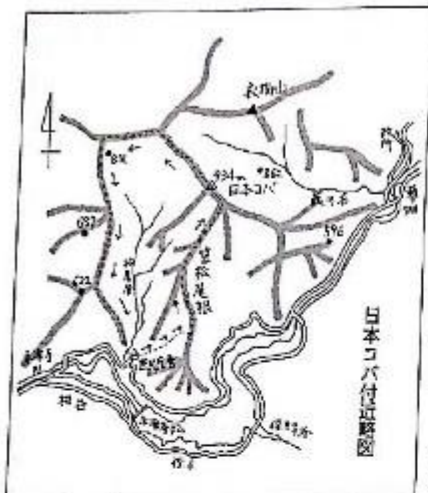
磯部 純

日本コバは鈴鹿山系主稜から遠く離れて大きく近江側にはみ出し、愛知川が湖東平野に流れ出す開口部に位置する山塊である。その麓には湖東二山の一つ臨濟宗の本山である永源寺がある。昔は、このあたり一帯に木地師が住んでいたと言われていて、日本コバという名称もまんだら木地師と関係ないとは言えないだろう。

「コバ」という名にしても、山頂の様相から休み場を意味する「憩場」「木場」からきていると言われているが、それよりも、「二本立てる(二回休憩する)」と山頂へ登ることができるといふことから転じたという説が有力なようだ。

往からシキロ谷を渡り、遊歩道を利用して、笠松尾根から日本コバ三角点へ直登しようというものである。いわゆる、どの案内書にも載っていない岩野さんの特別ルートだった。

地形図と岩野さんの案内文コピーを片手に駐車場を9時出発。シキロ谷へくだり対岸へ渡ると、「永源寺集団施設地区探勝歩道」と書かれた大きな案内板が立っていた。その傍の道を登ると20分程度で道は分かれるが、岩野さんの文に従い右をとる。道は谷に沿いどんどん高度を上げていく。やがて、再び分岐に合うが、一



方は谷へくだる道なので今度は左をとり、尾根道を登る。それもしばしの間ですぐトラバース気味に東へ方向を変えた。あたりは雑木と赤松の林、斜面には遊歩道が付けられていて、枝道があちらこちらにある。岩野さんの案内文通りに歩こうとすると、ちょっとした分岐で迷ってしまった。終いには、案内文に頼るのをやめ、地形図と自分の読図力を頼りに歩くことにした。

30分も歩くと道は尾根にのってくだり出すが、そこで休憩とする。ここが笠松尾根だった。この地点から遊歩道を離れ、尾根を登ることになる。休んでいる間、静かな山間に響き渡る救急車のサイレンの音。人垣離れた林のなかで聞く都会の響きに何となくしに違和感を覚えたのは私だけだろうか。何だろうと話合っているうちに、いつの間にかその音も消えてしまった。翌日の新聞によると、数百小倉、通行中のパティに滑落死亡事故が発生し、そこへ駆けつける救急車のサイレンの音だったのだ。

わずかに踏み跡の残る尾根を登

笠松尾根を登る



から登る鈴鹿の山々」で紹介(第29号)してくれた日本コバへ登る特別ルートを知るに及んで、どうしても登りたくなり、仲間を誘ってそのルートを登ることにした。

四条大宮を7時に出発。山科で1人を拾い、山行メンバーは4名。永源寺ダム近くにある国民宿舎もみじ荘へ車を走らせる。この日のルートは国民宿舎もみじ

る。尾根には古いテープが残っていた。同じような物好きがいたと内心嬉しく思う。一つ目のピークで一度鞍部へくだると、今度は見上げるばかりの急斜面だ。この日はいつもと違い足の裏が戻るのが遅く、ふくらはぎが痛む。何事もなく本日の長いルートを歩けるだろうか？ 少しばかり朝気の虫が頭をもたげると、ともかくも上へ上へと足を出す。それにしては筋金入りの彼をはじめ、あとの2人の軽々と急斜面を登っていくこと。当方はついて行くのがヤットなのに……。

急坂を過ぎると、尾根はやがもたないゆるい傾斜の雑林へと変わる。周囲の景色は全く異なることはできなかったが、新緑のなかを歩くだけで生気が蘇ってくるような気がする。標高680mのコバを越え、広いゆるい尾根を登ると二次林のなかに赤松が目につき出す。鈴鹿にしてはあまり目につかない林の風景だ。その静かな林の光景も細尾根へ出ると一変する。東側斜面は檜の植林地帯で、自然林の多い鈴鹿にも植林の波が押し寄せられていることを残念に思う。その尾根を登ると展望が開け、南に広がる大パノラマを眺めながら小休止とした。遠くは綿向山・イハ

イガ岳・雨之岳・釈迦ヶ岳が、すぐ目の前には黒尾山・カクレグラ・庭戸山が連なっている。あの山へはこの尾根を登って、あの時にはこんなことがあったと思いつくと、いつまで見ていると飽きない風景であった。

雑木と植林帯の接する急な尾根を登りきると、広い平坦地へ着いた。日本コバ山頂の台地で、ここまで来れば三角点まで残り一ピッチ。見ると、今までなかった紫頭山のテープが初めて姿を現す。どうやら中ノ里の尾根から登ってきたものらしい。静かな林を北東へ進むと、やがて藤川谷からの一般路に出合う。日本コバ(934m)山頂到着は11時10分であった。

山頂広場は思っていたより広く、南面は高い木が伐採されていて、松の木が6〜7本残っているだけ。何年か前には山頂一帯が伐採されていて、北、西、南方と展望は抜群だったと聞いていたが、今では木も大きく育ち、わずかに南方に、木の間越しに山々の影を垣間見るだけに変わっていた。

三角点標石は広場の東寄りに立っていて、東向き。北面には大げさなくらい大

きな「日本コバ」と書かれた標識が立てられている。少し早かったが、山頂で昼食とした。側の松で囀るウグイスの鳴き声が天下太平を告げているようだった。あたりに人の気配は全くなし。

下山路は山頂から北西にのびる尾根をたどり、尾根分岐を西へ行き、●831の西の長い尾根をくだらうというもので地形的に見て西から南に方向転換するあたりが難しいと思われる。が、尾根さえ間違えなければ大丈夫。しっかりと地図と磁石を見ながら尾根を西北へと踏み出す。

比較的小アップダウンの少ない自然林の尾根で、鈴鹿を象徴しているような林が続いている。このルートには紫のテープがずっと付けられている。わかりきったルートに付けられているテープはうるさいと感じるが、初めてのルートを歩く時には、テープに出合うたびに、ホッとするのは不思議としか言いようがない。登りの台地で、あまりに多いテープを外し回収していた彼も、このルートでは安心料としてか、テープを外すのをやめてしまっていた。

やがて、ゆるい下りから登りに変わる

と「日本コバまで1km」の標識に出合う。

そこを左にとったが、50歩もくだると方向が南に向き過ぎていくことに気付く。標識まで戻り北行する。尾根や谷の分岐では、間違いないと思っても地図の確認は必要だ。この時は●894を通るシキロ谷ルートへくだったものらしい。そのルートにも紫のテープが付いていたのだ。ほんとうに人跡がせなテープと言わざるを得ない。と言っても、テープに惑わされるようでは、まだまだ山の修業が足りないと言えぬのだから。

標識から200歩も歩かないうちに尾根分岐に着く。そこには「日本コバまで2.5km」の標識があった。先程は「1km」だったのに、たったこれだけしか歩いていないのに表示距離が合わない。だれが標識を取りつけたのか、これまた、



大げさと言える大きな山標

混乱を招くと言いか言いようがない。分岐点から尾根を西へ。ゆるい尾根をくだると南斜面は植林帯、北方の林が切れ明る尾根へと変わる。北方には霊仙山・御池岳も見えていた。立枯れの杉の木の下に広がる茅原、秋に来たら高原の風情を味わえに違いない、すばらしい尾根だった。南にのびる一つ目の尾根を確認し、三つ目の尾根で手間取ったものの、無事南の尾根へ。左斜面は植林帯で右斜面は自然林、その中間を歩くと枝打ちが終わったところなのか、小枝が踏み跡に散乱していて実に歩きにくい。くだるのに足を上げなくてはならないのだから、足が疲れること甚だしい。左下に切れ落ちる緩い尾根を通過し、広い台地へ。通る右手のヌタ場は植林帯とは違った静かな趣を漂わせていた。さらに、尾根をくだり登り返すと尾根分岐のピーク。ここから東南の尾根をくだることになる。

林へ踏み込んですぐ池が現れた。正確に言うとヌタ場のようだったが、水が溜れないのかモリアオガエルのオタマジャクシがウジャウジャ泳いでいた。これではヌタ場と言うより池と呼んだほうがい

<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

イモック山行くらぶ
○4月15日 五台山
○5月13日 青葉山
詳細はお問い合わせ下さい。



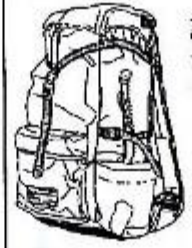
神戸ザック

〒653-0038 神戸市東灘区日吉町3-1-30
TEL (078) 621-5851
FAX 621-3528

KOBEの登山専門店

平成12年度「グッドデザインひょうご」の選定商品に選ばれました

ドルフィ II



ハイキング用の小型ザック、トップとフロントに小物入れポケット、サイドはボトルポケット、ストッキングホルダーポケット、ウエストベルトにファスナー一本締め多機能ザックを設けたカラ

- 容量 22L
- 重量 730g
- 素材 ナイロン
- 価格 8,000円

いのかも知れない。

それからの急斜面の下りは道らしいものは全くない。林の間のけもの道等、通りやすい所を通過して方向を定め、ただただひたすら急斜面をくだるだけ。先程のピークから別の方向にくだったのか、先程まで付けられていたテープ類は全く消えてしまい、人がくだったような跡はどこにも見当たらなかった。道なき急斜面をくだり、シキロ谷林道へ出たのは15時05分だった。

もみじ荘駐車場へは15時15分到着。出発する時、駐車場に戻ったら去来者ノ滝を見に行こうと言っていたのに、全風そんな気はなくなっていてしまった。

ただ、駐車場から見える滝の上部と水の首に満足し、橋路についていたのだ。 (平成11年5月29日歩く)

△コースタイム▽

もみじ荘駐車場(30分) 雙尾根(35分) P680(1時間) 日本コバ(35分) 尾根分岐(1時間45分) P660分岐ピーク(55分) シキロ谷林道(10分) もみじ荘駐車場
△地形図V2万5千1百済寺・日野東部

積迦岳・武奈ヶ岳から

コヤマノ岳東南尾根

秦 康 夫

整備された登山道の多い比良にあって、まだ野生味の残るルートの一つがコヤマノ岳からの東南尾根である。シヤクナゲの群生地があるので花のシーズンがベストだろうが、それ以外の時期でも、京都北山の奥楽くに似た、独特の雰囲気を感じることが出来る。

今回の山行メンバーは男女6名ずつの12名。JR比良駅からの江若バスを終点の「比良リフト前」で下車し、「シヤカ岳」駅まで登山リフトに乗った。ロープウェイに乗り換えて「山上駅」まで行けば案だが、あいにくワイヤー架け替え工事のためロープウェイは運休中。きょうはここから歩くことになっている。

9時半頃出発。ジグザグの道を7、8分登れば、右に釈迦岳への案内板がある。このまま道なりにカラ岳へ向かうのが距離も短い。久しぶりに釈迦岳直登ルートに登るのもおもしろいだろうということで、釈迦岳経由のルートをとることにした。

いきなりの急坂だ。勢いよく登り出したがすぐに息が切れ、わずか10数分で最初の立ち休憩。大津ワングル道との合点まではきつかった。歩行時間はざっと25分くらいで距離はさほどないが、数ある比良の登りのなかでも屈指の急登コースではないか。ワングル道に合流してからはたいした登りもなく10数分で釈迦岳に

霧の武奈ヶ岳山頂にて



着いた。天候は曇り。展望はほとんどない。

釈迦岳からは、ゆるい勾配の登り下りが続く。曇り空は一向に晴れる気配なく、あたり一帯に霧が立ち込めてスケールは小さいながらも深山幽谷の雰囲気。ヤマボウシが傘のように枝葉を広げて、窓のなかに白い花をぼやっと浮かび上がらせている。と思ったが、実はこれは花でな

く花弁状の総苞だそうだ。花に詳しいMさんに教えてもらった。四枚の苞の真ん中にある、淡黄色の丸いかたまりが花らしい。

ヤマボウシとササユリと、道脇に咲く紫の立派な花などを觀賞しながらマイクログウェーブのあるカラ岳を通過。比良明神へお詣りを済ませ、少し登ると比良ロジ横に出た。あとはスキー場のゲレンデをくだり、八雲ヶ原の八雲小屋前でゆっくり休憩。



休憩の時間を利用して、高層温泉の八雲池を見に行った。池面をおおうヒジダサの林を縫って、ゆうゆうと泳いでいるのは両生類のアカハライモリだ。周囲の枝からはモリアオガエルの卵塊も垂れ下がっている。其道を一巡りして帰ってくると女性たちが、咲き誇るヤマメと餅を競うように並んで写真のポーズをとっていた。

スキー場ルートで武奈ヶ岳に行くことにして、草の茂るゲレンデをいっせいに登り始めた。広いゲレンデの真ん中を勢い込んで一直線に進んだが、すぐ胸と脚にきてベイスダワンし、登り方もジグザグになってくる。20数分しかかかってやっと長いほうのリフトおりばに着いた。しんどかったが、これで高度約2000mを稼いだことになる。ここでゆっくり昼食にした。

12時25分出発。ここから山道に入る。登山道の入り口がややわかりにくい。ゲレンデの右端のほうにテープがあり、細い道が途切れ途切れに続いている。しばらくで道は鮮明になり、えぐれた溝状の道におおいかぶさるササのトンネルを抜けると、コヤマノ岳への分岐に出た。右へ4、5分くだって縦走路に合流し、武奈ヶ岳には12時55分頃到着した。

四面ガスに囲まれ、山頂からの展望は全然なし。早々に下山することにした。往路を引き返しコヤマノ岳に向かう。先程登ってきたスキー場ルートの分岐を過ぎ、やや急な道を登り終えるとピークらしき所に出た。ここが山頂かと思っただけを探したが見当たらない。少しくだけた小高い場所に標識があり、ここが1181mの「コヤマノ岳」ということの上だ。

「中峠・ワサビ峠」の道標に従って右に折れ、2、3分多くとすくまた道標が現れる。そのまままっすぐ行くと中峠だが、ここで左に分かれる小道がある。これがコヤマノ岳から東南尾根のびる尾根道ルートだ。「金葉峠」と記された小さな木の札がぶら下がっている。木の幹

大阪発 国内山旅	
佐渡金山とドンテン山	代金72,000円
期間:5/11(金)~13(日)	
霧島連山縦走と開闢岳	代金82,000円
期間:5/18(金)~20(日)	
ミヤマキリシマの丸尾連山	代金70,000円
久住山から大船山と由布岳	
期間:6/2(土)~4(月)	
屋久島 宮之浦岳と縄文杉	代金124,000円
AI:5/20(金)~6/7(水)	AI:39,000円
雲取山と大吾藤嶽	代金79,000円
期間:5/25(金)~27(日)	
後立山連邦 唐松岳登頂	代金82,000円
期間:5/25(金)~27(日)	
利尻山と礼文島花ハイク 4日間	代金145,000円
6/15(金)~6/20(日)、6/22(火)~6/29(日)、7/6(金)~7/15(日)	
羊蹄山・ニセコアンヌプリ・樽前山	代金89,000円
期間:6/22(金)~24(日)	
らくらく利尻山と礼文島ハイク	代金268,000円
期間:6/22(金)~25(日)	
ニベソツ山・石狩岳	代金119,000円
期間:6/28(木)~7/1(日)	
八幡平大縦走	代金77,000円
期間:6/23(土)~24(日)	
大朝日岳登頂	代金73,000円
期間:6/24(日)~26(火)	
岩木山・八甲田山・八幡平	代金98,000円
期間:6/29(金)~7/1(日)	
日光白根山・男体山・皇海山	代金96,000円
期間:6/7(金)~4(月)	
四阿山・草津白根山	代金67,000円
期間:6/9(金)~10(日)	
高妻山・火打山・妙高山	代金89,000円
期間:6/30(土)~7/3(火)	
夜行バスで行く日帰り山旅	代金19,800円
期間:5/19(土)~20(日)	
シャクナゲの天城山周遊	代金19,800円
期間:5/19(土)~20(日)	
木曾 恵那山	代金19,800円
期間:5/26(土)~6/8(日)	
荒島岳	代金19,800円
期間:6/18(土)~17(日)	

~~~~日帰りから海外までの総合カタログがあります。ご請求下さい。(送料無料)~~~~  
お問い合わせ・お申し込みは、国土交通大臣登録旅行業第1366号(社)日本旅行業協会 ボンド保証会員  
**アミューストラベル(株)** 06-6456-3366  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル7F FAX06-6456-3377

|                                    |           |
|------------------------------------|-----------|
| <b>大阪からの日帰り</b>                    |           |
| シャクナゲの比良山系 蛇ヶヶ峰                    | 代金9,500円  |
| 期間:5/5(土・祝)                        |           |
| 敦賀半島 螺ヶヶ岳~西方ヶヶ岳                    | 代金9,500円  |
| 期間:5/12(土)                         |           |
| 京都北山 鹿村八丁ハイキング                     | 代金8,900円  |
| 期間:5/12(土)                         |           |
| 比良 小女郎ヶヶ池~蓬萊山                      | 代金9,500円  |
| 期間:5/13(日)                         |           |
| 彦武岳と植村直己冒険館                        | 代金9,900円  |
| 期間:5/27(日)                         |           |
| めざせアルプスシリーズ①                       | 代金10,500円 |
| 鈴鹿山脈 高畑山~那須ヶヶ原山縦走                  |           |
| 期間:5/20(日)                         |           |
| めざせアルプスシリーズ②                       | 代金10,500円 |
| 鈴鹿山脈 御在所岳(中道)                      |           |
| AI:5/30(水)6/3(日) AI:9,500円 10,500円 |           |
| めざせアルプスシリーズ③                       | 代金10,500円 |
| 鈴鹿山脈 釈迦ヶヶ岳                         |           |
| 期間:7/1(日)                          |           |
| めざせアルプスシリーズ④                       | 代金10,500円 |
| 鈴鹿山脈 鎌ヶヶ岳(鎌尾根)                     |           |
| 期間:7/8(日)                          |           |

|                    |            |
|--------------------|------------|
| <b>ベストシーズン海外山旅</b> |            |
| 初心者のための            |            |
| ナイアガラの滝とカナディアン     |            |
| ロックンハイキング 8日間      | 代金428,000円 |
| 期間:6/10(日)~17(日)   |            |
| 初心者のための            |            |
| ヨーロッパアルプス三大秀峰      |            |
| ハイキングと氷河特急 12日間    | 代金498,000円 |
| 期間:6/30(土)~7月11(水) |            |
| ハーフドーム登頂&ハイキング     |            |
| 世界遺産 ヨセミテ国立公園 8日間  | 代金368,000円 |
| 期間:6/20(水)~27(水)   |            |
| ヨーロッパアルプス最高峰       |            |
| モンブランゆったり登頂 9日間    | 代金648,000円 |
| 期間:7/3(火)~11(水)    |            |

に、赤いマジックインキで大きく書かれた字は「二金」と読めるが、どういう意味だろう。

この道に入る。杉の落ち葉でふわふわのなだらかで歩きやすい道だ。太いブナの本が多い。曇り空だが、ブナが現れるとなんとなくあたりの気配が明るくなる。白っぽい幹と淡い緑の葉のせいだろうか。河木にも分かれて株立ちした大きな木のそばで休憩。

だんだん荒れ道になってきた。急な傾斜が続く。まるでブナの根張りの階段を降りるようだ。林立するブナに混じり、大きな杉が目立つようになる。雪のためか、奇妙にねじ曲がったり、地を這うように育ってから上にのびたりと、変わった形が多い。植林帯の杉とはまったく様相の異なる、野生的な原生杉の集団である。ちよっぴり原生林の雰囲気を感じた。直徑1m以上の台杉には、太いつるが蛇のようにどこまでも巻き上がっている。ブナ林を歩くのがきょうの目的だったが、杉のほうがおもしろかった。

急な下りを過ぎると屋根根がやや細くなる。右下のヨキトウゲ谷からの水音が聞こえ始め、間もなく鞍部に降り立った。

「シャクナゲ群生地を経て金葉峠へ」の表示がある。左の谷沿いには、奥ノ深谷の源流・コッパ谷に通じる細い道があり、登りを省略しようと思えば左にくだるのが近道だが、尾根道を忠実にたどることにした。

登り始めるとすぐ、右も左もシャクナゲだらけになる。花のシーズンには、さぞかし見事な眺めだろう。登りは急だが距離はわずかである。あとは小さなアップダウンがいくつか続く。群生するシャクナゲの木に杉が混じる、しっとりした尾根道だ。最後はジグザグに急坂をくだり杉林を抜けると、大橋からの登山道に出た。

左に道をとおり、1、2分でコッパ谷に出合った。両側に手すりのある丸太の橋を渡る。左に八雲ヶ原への道をやり過ごし、3、4分で金葉峠に到着した。V字型に開いた窓を通してばんやりと琵琶湖がみえる。

峠からは石のゴロゴロした急な谷道が続く。慎重に歩いてようやく土道になり、ほどなく青ガレに出た。斜面一帯に岩石の積み重なる危険地帯だが、右端にある下降ルートを誘導ベンチ通りくだれば間

題はない。むしろ、正面谷を渡ってからの右岸沿いの道のほうが歩きにくい。滑りやすい砂地の急傾斜を、ロープを頼りに谷に向かってするするくだったり、堰堤を乗り越えたり、路肩の崩れた斜面をトラバースしたり、なかなか油断のできない、いやな道である。

大山口を過ぎた頃から雨が降り出し、傘をさしてイン谷口バス停には15時45分頃到着した。

(京都北山グループ例会、平成12年6月25日歩く)

▲コースタイム▼  
JR比良駅(バス15分) 比良リフト前(リフト13分) シャカ岳駅(30分) 大津ワンゲル道出合(15分) 釈迦ヶヶ岳(30分) 比良ロッジ横(10分) 八雲小屋(25分) リフト終点おりば(20分) 縦走路出合(20分) 武奈ヶヶ岳(25分) コヤマノ岳(30分) コッパ谷への分岐の鞍部(25分) 大橋からの登山道出合(10分) 金葉峠(1時間30分) イン谷口(バス10分) JR比良駅

▲地形図▼2万5千:比良山・北小松 昭文社「比良山系」

連載

# 滋賀県内ルート

柴田昭彦

## 【滋賀県内ルートの文獻】

★滋賀県内の旗振り通信ルートについては、中島伸男氏の二つの論文、①「滋賀県内の旗振り通信ルート」(『湖生野記』昭和60年12月、八日市郷土文化研究会)と、②「三重県向けの旗振り通信ルートについて」(『湖生野記』昭和62年11月)があり、②では三重県内の旗振り場も紹介されている。中島氏の調査は古老から聞き取りをした詳細なものである。中島氏の聞き取り内容の詳細については、二つの文獻に譲り、ここではその結果のみ記し、中島氏のふれていない内容を詳しく紹介したい。

★「安土ふるさとの伝説と行事」(サンブ

ライト出版、昭和55年)には「相場振り」

の項目があり、「滋賀県では、取引所が大津にあって、取引は、午前と午後、それぞれ相場と後場といい、土曜日の午後と日曜日の祝祭日以外は毎日取引が行われた。手旗信号は、大津の逢坂山を基点とし、鏡山・観音寺山・荒神山・佐和山・虎御前山と、次々に湖北へ伝達された。相場振りには、旗と遠眼鏡が用いられ、旗の大きさは反物の一反分ぐらいあったといい、遠眼鏡は五里(二十キロメートル)くらいは見透せるものであったという」とあり、安土町下豊浦の善住国一氏(故人)の原稿によるものである。あわせて旗振り信号の方法も紹介していて、中島



大旗の竿を支えた台石(相場振山、283.2m)

①にも引用されている。なお、中島氏は『安土町の昔話と年口行事』(昭和55年)という文獻を紹介しているが、筆者の知る限りでは見当たらず、内容からは明らかに「安土ふるさとの伝説と行事」を指している。

★「ごうらの民話」(サンブライト出版、昭和55年)には甲良町の古老から聞き取ったと思われる「取引米のたて値」の話が

あり、大変興味深い内容なので紹介しよう。中島氏はこの文獻にはふれていない。

「堂島で取引米のたて値が決まると、まず天王山の山頂に知らせ、山頂に待

機している人が、たまたま「堂島にもある大きな旗で、手信号を送ります。それを東山の山頂の人が遠眼鏡で見、『あ、きょうは右へ二度大きく振られたから、二円安だ』とか、『今日の旗は、黄色だ

から三円高だよ』というぐあいに、情報をとらえていました。こうして、東山から三上山山頂へ、三上山から八幡山へ、八幡山から荒神山へ、荒神山から彦根の中央の取引所に知らされて、堂島のため



値で、彦根でも取引されるというぐあいでした。この方法も、時には大風のために、途中で相場がまちがって伝えられたり、山頂に待機している人が、わざと相場をかえてしまったり、大もうけをしたりと、いろいろなお話がある。たそうです。天王山でも旗振りが行われたが、他の資料から考えると実際は御谷西山(向谷)のことであろう。東山は三石山(二谷山)を指すものであろう。三上山は相場振山(田中山)に該当するものと思われる。よく知られていない山があった

旗振り場は、その近くの有名な山名が代用されて呼ばれることが多かったようである。

【滋賀県内、彦根・長浜方面ルート】

★中島氏の研究によると、大坂堂島から発信された米相場は、千里山、阿武山、柳谷西山、一石山、小関山、安養寺山、相模振山(田中山)、小松山十三仏、荒神山中蔵、佐和山を経て、長浜に伝達されたという。彦根には荒神山から伝達された。

●安養寺山中継所は、頂上の三角点付近での旗振りの話が伝えられている(中島◎)。近藤論文「大坂の旗振り通信」にもこの山名が伝えられている。

●相模振山中継所は、292・9材三角点(田中山)ではなく、西側のピーク(283・2材)にあった(中島◎)。八幡方面に通信したという話もある(中島◎)。近藤論文では、三ッ阪山の山名で伝えられているが、現地の西麓にある地名(三ッ坂バス停あり)によるものであろう。

★「安土ふるさとの伝説と行事」には、鏡山が旗振り場の一つとして掲げられ、「こうらの民話」には三上山が紹介され

ていて、角川地名大辞典では城山(野洲町。鏡山の西支峰、286材)を相模振山と記載しているが、いずれも地元で旗振り伝承はなく、283・2材の相模振山を指すものと考えられる。この山については本誌記号で詳しく紹介した。

●小松山十三仏(倉戸山。十三仏山。實作山の西方)中継所は、八日市市・安土町境にあり、相模振山と近江八幡市岡山方面を指している矢印が現地の岩にある(中島◎)。岡山での旗振り伝承は不明である(多分、矢印は岡山というより八幡方面を指すのだろう)。観音寺山(別名、鏡山)と記した資料(近藤論文、「安土ふるさとの伝説と行事」、「野洲町史」)「野洲町史」があるが、実際の旗振りの裏付けはとれない(中島◎)。太郎坊山(全支峰「旗振り」)についても同様である。太郎坊山は箕作山頂の南にあり、その西方に位置する小松山十三仏と混同したものではないだろうか。

★「こうらの民話」には三上山から八幡山へ知らせたとある。中島◎には「鈴木氏家譜」に、相模振山(田中山)から八幡山の取り次ぎをなす、とあることから、八幡山(鏡山)への通信の可能性もある。す、おそらく、長浜米取引所方向に通信したのを誤解したのでだろうと考えられる(方向が一致)。

【福井県方面ルートの謎】

★池田末則「地名伝承論―大和古代地名辞典」(名著出版、1990年)の58頁には、朝日新聞東京本社版の記事(昭和61年4月6日)の引用があり、「江戸時代には、大坂の米相場を越前に連絡した『旗振り山』と呼ばれるところも同じである」とある(同様の記事が「AERA」1988・7・26の82、83頁にある)。新聞の日付は4月7日が正しいが、越前は誤植ではないようだ。取材記者(「AERA」では、編集部本表文)は渡辺久雄氏の名前を記しており、その著書「忘れられた日本中心(創元社、昭和65年)を参考にしたらしいことがわかる。その「のろし山」の帯に、越前国の狼煙台の位置が地図に示され、愛宕山―鉢伏山―野原―田見母―越前国庁が結ばれている。野原は、通常、阿城山と呼ばれる。古代の越前国の国庁は、現在の武生市国府にあった。また、武生市の北西方向に位置する織田町には、狼煙通信を行う「狼煙山」が七か所もあ

るが、旗振り伝承は確認されていない。●舟岡山(倉戸山の西方。船岡山)でも旗振りがあったという(中島◎)。「受け場」といって頼まれてその土地でおろすために振ったところがあり(水谷廣三郎「旗振り通信」『上方』昭和14年8月)、それに相当するケースであろうと思われる。

●荒神山中継所は、ドライブウェイが酒蔵町からの旧参道(なかなか趣のある道である)と出合う、ヘアピンカーブの地点にあった(中島◎)。土取り以前は突出していた眺望がよかったという。ここから彦根米取引所と佐和山に信号を送った。「安土ふるさとの伝説と行事」にも旗振り地点として紹介されている。木村至宏編「近江の山」(京都書院、1988年)には、荒神山の頂上について、「近年までは、ここから旗を振って米の相場を決めていた、と奥山三男宮司は話されていた」とあり、頂上で行われたようにも読みとれるが、中島氏は荒神山神社の神主さんらの証言から、旧参道の途中であることを確認している。「彦根市史(下冊)〔昭和38年〕によると、佐和山と荒神山で旗振りが行われたといい、彦根と長浜の両取引所は明治27年に創立されたとい

う。●佐和山中継所は頂上行近にあったと思われる。旗振りの伝承が残っていて、山頂から長浜米取引所へ信号を送った(中島◎)。



相模振山 (野洲町)

たという(『越前国名考』巻三丹生郡、城山郷、城原山)。また、筆者は別山頂上の遠見場四か所が「越前国名考」にある(丹生郡、丹生郷)のを見つけた。渡辺氏は明治期になると、連絡方法が狼煙から旗に代わり、中継所が「旗振り山」になったというが、狼煙台がそのまま用いられたとは限らず、実際に、旗振りが行なわれたかどうかにはふれず、曖昧なままで、大阪―岡山ルートの紹介に移っている。新聞や「AERA」の記事はこの曖昧な記事を独自に解釈して、越前方面への旗振り通信ルートが存在したように記述している。湖北地方の山本山(見当山)の展望は抜群であり、奥山ノ峰(見当山)は、戦国時代の狼煙連絡場と伝えられており(坂井久光「関西とその周辺の山」創元社、昭和53年)、大黒山(見当山)は入港する船の目標になったという(近江百山の会編者「近江百山」ナカニシヤ出版、平成11年)。筆者は、こういういた山々をつないで、長浜から北への連絡が行なわれた可能性があるかもしれないと思ひ、これらの山々の所在する地元の教育委員会に問い合わせたが、どこにも旗振り伝承は見つからなかった。越前ルートは幻

のかもしれない。

【滋賀県内、三重県境方面ルート】

● 兩山(南上山) 中継所は、石部町の兩山文化運動公園の山頂(280・7m)である。前後の中継地点は不明だが、中島氏の調べでは安養寺山か小関山から受けて、行者山に送ったという。しかし、地形図で調べてみると、行者山方向は三雲駅南東にある322号の山が通っており、通信は困難である。別の中継所の存在が示唆されている(中島氏)。

● 菩提寺山(桜山、竜王山) 中継所は、中島氏も見逃していたが、太田二郎氏の野洲町南校区長小嶋清氏(昭和2年生れ。平成8年没)への取材(1986年)により明らかにされ、『京阪神から行ける滋賀の山』(かもがわ出版、2000年)にも簡単にふれられている。筆者は、太田氏から小嶋氏の話の内容を知ることができた。それによると、「雨岩 早越期にこの岩で雨乞神事を行ない灯明を上げた。相場山(岩)とも呼ばれ、この岩より双眼鏡などで、大津の瀬田や近江神宮方面の旗合図(米相場)を見て、水口へ送った」という。つまり、行者山(水口町)で受

けとった信号は、明らかに、菩提寺山から発信したものである。なお、瀬田や近江神宮(昭和15年創建)付近での旗振りには裏付けられず、瀬田方向の手前である安養寺山や、小関山からの通信と考えられる。鈴木儀平「菩提寺山史8」(菩提寺地区「コミニ」第10号、1999年3月15日発行)にも「かつての『旗ふり岩』である」という記述があり、菩提寺山の北にある「視界二〇〇度余りの絶好の眺望台」が旗振り場所であったことを裏付けている。筆者の依頼により、太田氏が鈴木氏に通信方向を確認したところ、「栗東の方から」とのこと、山名は確定できなかったが、安養寺山と考えてよいのではないだろうか。

● 近藤論文には「田川山より竜王山、桜山を経て桑名に至るもの」とあるが、それらの所在地はよくわかっていない。竜王山が南山、桜山が菩提寺山である可能性はあるが、明確ではない。一方、野洲川を昔は田川と呼んでいたという(甲西路をいく)昭和55年、羽鳥。三雲駅の南西800mには田川不動がある。田川山の記載は、伝聞によるもので、何らかの錯誤が混在しているのかもしれない。『守

山市史』に田上山とあるが、これは安養寺山を指すものと考えられる。田川山・田上山・安養寺山であれば、近藤論文がそのまま生きてくるが、いかがであろうか(文中で同一の山を別の名称で呼んでいることになる)。近藤氏が聞き取りをした石橋久吉氏は、旗振り場の名称は聞き及んでいても、実際の場所については「存じなかったように思われる」。

● 行者山中継所は、水口町相場の八坂神社の南方にあり、標高264・9mの山頂は見晴らしがよく、旗振りの伝承が残る。三角点のあった最高地点は、ゴルフ場のクラブハウスを建てるために切り下げられ(中島氏)、240mほどになっている(1万分の1、水口町全図3、平成6年)。

● 相場旗山(滋賀・三重県境) 中継所は、土山町山女原の東、三重県境の安養寺から南に1000mほどに位置する、標高544mのピークにある。飯道寺山からの信号を受けたいという伝承が残るが、裏付けは取れず、おそらく行者山からの信号と考えられる。三田原池山市池山町でも県境の山での旗振り伝承が残るが、三重県方面のどこに通信したかは不明であ

た(中島氏)。

● 亀山市歴史博物館に旗振り山について問い合わせたところ、学芸係学芸委員の小林秀樹氏より、父親から米相場伝達の旗振りをした場所と教えてもらったという方と共に相場旗山の現地調査を行った(平成12年11月1日)という報告が届いた。場所は安養寺の旧峠道の頂上付近から更に登った山頂とのことで、まさしく544m峰である。山頂付近では、比較山(推測)や伊勢湾など東西の展望が得られたい。



● 旗振り通信期の調査全体を通じていえることは、地元での旗振り地点の伝承は裏りやすいが、その前後の送受信地点の情報はあいまいで、検証が困難なことが多い。相場の旗振り山は次

の通信地点については、筆者の調査で判明しているので、次回に紹介しよう。

【京都・大津方面ルートの補足】

● 石堂ヶ岡(豊能町・茨木市)が旗振り場であったことは、前回に紹介した。「一等三角点の名山と秘境」(新ハイキング社、平成8年)に「相場たて山」の歌を記した木柱(昭和五十二年八月建設とある)が頂上にあることを富田弘平氏が報告していることを付け加えておこう。

● 『風俗画報』(東陽堂)は複製版が出ている。その第二百七十六号(明治36年10月)五十六頁(浪花風俗百選其廿八)には、「堂場の信守」と題した旗振りの様子の絵がある。当時の風俗を表す貴重な資料である。この通信風景の絵は、昭和56年7月12日付、神戸新聞の記事(旗振り通信の岡山ルートの再現に吉井正彦氏らが挑戦する予定という内容)に掲載されている。

● 『風俗画報』(第百七十一号) (明治31年9月)の十二頁(大津追分其二 相場旗山)には次のようにあり、前回に紹介した小関山の旗振りの様子を示したものである。「相場旗振は身には筒袖を著し帯の上を洒布又は手綱染の布にて

結ぶ望遠鏡を袋入に巻いて脇に下げ相場附帳を持参し日々出分立場の後山に登り彼の望遠鏡にて京都市錦小路会社にて合図せる相場の上下りを見て旗を振り町の会社へ報知するなり」とある。その十四頁の次に「大津追分其二 相場旗振り並に官林巡遊の図」と題した、望遠鏡を覗きながら旗振りをしている人の絵(下掲図)があり、旗振りの様子が手に取るようによくわかる。追分とは、現在の津市追分町であり、その北東に小関山がある。錦小路通(京都市中京区、四条通のすぐ北の通り)の会社と通信したことがわかるが、山科区の山が通っており、直接、通信することは困難である。おそらく、二石山で中継したのであろう。

● 『明治大正図誌 第11巻 大阪』(京塚書房、昭和53年)の61頁には、右の『風俗画報』にある二つの相場通信の図が転載されている。(つづく)

(平成13年2月12日成稿)

1等三角点峰(5000以上) 548座完登の記録(第25回)

## 帯広岳でようやく五百山目に達す

おびひろ だけ

## 坂井久光

平成3年7月30日、ピッシリ山(10326)へ向かって約12km程歩いてから、やっと宮崎県からの若夫婦の車をヒッチした。登山口まで3・2kmの地点まで乗せてもらった。

登山口には車が一台駐車していた。川を渡ったすぐ先に新しい切り開きが続いており、渡渉にも気をとられ、真横にある管林署の登山標識に気づかず、そのまま奥へ進んだ。しかし、カラマツの植林帯で道が終わり、その先の道を探したがわからなく引き返した。山頂まで8・7kmの標識を見てがっかりした。すでに12時を過ぎていて、これからでは登頂は無理だとおきりめ、路の台駅(崩駅)まで

戻った。運良く埼玉ナンバーの車が通り、ヒッチに成功して美深駅まで送ってもらった。車は公務員一家で、森林公園へキャンプに行く途中らしかった。美深から旭川へは便がなく、仕方なくまた手塩中川町の「ボンボラ温泉」へJRで行くことにした。顔見知りの温泉の人に会ってようやく落ち着いた気分になった。温泉に浸かりあすの日程を考えた。

次は芽室岳(1754)をめざすことにて、翌31日、札幌経由石勝線の特急に乗り、新得駅で乗り換え御影駅へ行った。夕食の後、食料品を買ってタクシード山麓の山小屋へ入った。良い山小屋で先客はなし。早速シャラフにもぐった。

芽室岳山頂と1等三角点



8月1日、4時過ぎに目が覚め、朝食後すぐ出発した。好天で道もよく7時半頃に登山できた。展望は360度で、遠く大雪山の旭岳やトムラウシ・ウベサシケ・音更山等が雲の上に顔を出し、近くには剣山や帯広岳が眺められた。日高のカムエク岳や幌尻岳・ベテガリ岳などの高峰も雲間に見え、写真を撮ってひと休みしてから往路を下山した。山小屋に

戻り、装備をまとめて長い林道を歩き、ヤコと牧場のゲートに着いた。電話をしようと思わせた、ここにはないとのこと。仕方なく町へ向かって歩いていると、牛乳集めのタンク車が来た。御影町へ行くと言うのでヒッチした。ところが、無人の牧場を廻り、集乳してからもメーターでの収集量を伝票に記入したり、また次の牧場へ廻るのでイライラした。昼食のためいったん帰宅すると言うので、また雨も降ってきたので川北温泉まで送ってもらった。

温泉は満員で、入浴後に食事をとっただけでタクシーを呼んでもらい、帯広観光ホテルに行ったが、ここも満員だった。芽室駅に出てJRで帯広へ行き、紅露さんのいる中札内村へ行った。その夜は当地の旅館で泊まったが、夕食後に紅露さんがビールと付き出しを持参して訪ねてくれた。久しぶりでカムエク岳の仲間と会い、悪い出話を花を咲かせた。

2日、バスで帯広駅に出て、バスを乗り換えて阿寒に行った。そこから美幌行きに乗り、辺計礼山に登るため奥春別で下車した。ところが、雨がひどくなったので、近くの喫茶店で昼食後、東京の車

をヒッチして川湯の八伏温泉に行き、ユースホテルに泊まった。良い泉質で今までの疲れが癒された。

3日、川湯駅からJRで斜里に行き、そこから陸奥休養センターに行って泊まった。夕食後ロビーで、所長の斎藤さんと話した。彼は今年3月、北海道アルペンサーピス山の川越社長と東京の田中三郎氏(当時助産)といっしょに海別岳に登ったとのこと。私は海別川コースから登ろうと思うと話すと、そのコースは水害で荒れていて無理だと言われた。

4日7時出発。所長が車で糠原布川林道を登山口まで送ってくれた。ここから荒れた地道の林道を4km程登り、古い道跡をたどって稜線に達した。この先はハイマツが群生しており道が消えていた。背が低く幹や枝が太いハイマツなので、幹から幹、枝から枝へと全く地に着けずに歩く。何度か間に落ちたが、密生していたのでなんとか歩けた。天気が徐々に悪化し、山頂から約800m手前の地点でガスがかかってきた。すでに時間も遅くなっていて危険だし、所長にも心配をかけてはいけないと思い、ここで断念して撤退した。夕刻、センターに戻り、所

長に状況を報告し、来春4月に再度挑戦することにした。置いていた荷物を受取り、バスで新里町へ出た。夕食後、JRで厚岸駅へ行き駅前旅館に泊まった。

5日、雨だったので阿寒湖畔に行き、散歩がてら観光をしてからバスで帯広へ。深夜バスで札幌に戻った。6日は札幌の海野の将棋センターで遊んだり、友人と会ったりしてカプセルホテルに泊まった。

7日、バスで小樽に行き、フェリーで帰京した。今夏の山旅では、札幌駅で京交山岳部の後輩で一等三角点研究会の大蔵さんと偶然会ったことや、サワラン(アサヒラン)・ハクサンチドリ・オトギリソウの花、ニワトコの赤い実が印象に残った。しかし、登山できた山は少なかつた。

平成4年4月14日、舞鶴からフェリーで再び小樽へ。16日午前4時上陸。北海道の山は残雪が斑模様に見え、小雨が降っていた。朝食を三角市場の飯屋で済ませ、駅からJRで余市へ。昨年お世話になった下山久光さんを訪れた。お土産を持参してお礼を述べ、一別後の経過を話す。お茶や菓子によれば、晴れを待ってから

車で梅川町の林道分岐の清福場へ向かった。梅川トンネルを抜けるとすぐだったが、未だに除雪されてなく余市ダムへ引き返した。ダムから先は雪があったので、ここで下車して下山さんと別れ、長い林道歩きが始まった。ダムの表面は凍っており水鳥が二、三羽見えた。林道は雪崩の跡が随所にあり道を遊んでいた。デブリを越え、銀世界のカラマツ林の山腹をたどった。林道と分かれて稜線に出てひたすら積丹天狗岳をめざした。風が出て来て雪面を渡る音が、戦時中満洲(現中国)で体験した銃丸の飛来音に似ていた。ウナギとエソジカの足跡があったが、鷹の足跡はなかった。太陽が出て来て予報通りになった。しかし、丸山を越すあたりから間近に見えている天狗岳がなかなか近づかない。前山のピークからコルへ見当をつけて駆けくんだり、肩への急斜面をジグザグにステップを切って登り、ハイマツのある積丹天狗岳(872m)山頂へ着いた。山頂は広く平坦になっており、北壁に櫓を解体した廃材があったが、雪が深くて三角点標石はわからなかった。このころから風が強くなり吹雪になった。早々に写真を撮って北へ尾根

道(雪が雪を飛ばし、露出した所があった)の急斜面をくだると、エソマツの間に標識が見えルートがあった。なおもくだると林道に飛び出したが、そこは、昨夏登路を探したブル道との分岐から約1000m西の地点だった。この木にも標識があった。それから長い林道歩きが始まった。峠が二つあった。足が疲れたのか、なかなかほかどらず、谷筋との分岐点では、雪でコースの見分けがつかない。迷ったすえに尾根筋をくだって谷川に出て、再び林道に出た。やがて日が暮れて余市の街の灯が見えてきた。それから先も分岐で迷い、見当をつけて道らしい所を探して下山した。やがてゴルフ練習場の灯と民家の灯が見えた。畑を横切り果樹園を通して右の民家へ行った。経路を話して電話を借り、下山さんに連絡できた。お茶をよばれ、タクシーを呼んでもらった。下山家では、私がいまにも遅いので心配しておられたが、無事を喜んでの夕食を御馳走になり、泊めていただいた。昨夜17時頃に着いた所は、梅川町最期の農家の吉田家であった。お世話になった御礼をして、余市駅から札幌経山の特別で帯広に行き、バスで中札内村へ。札

内はアイヌ語で瀧川の意である。友人の紅露さんに電話して、きくや旅館に入った。その晩、紅露さんが来られ、その後の経過を話す。明日は大樹山へ登ることにした。

19日、雨が上がりから紅露さんが車で迎えに来られ、大樹山山麓の林道分岐点の小広場まで送ってもらった。往路1時間半位とみて、12時ごろに迎えに来てもらう約束をして出発した。1時弱で林道とブル道の分岐に出て、山頂近くまで谷筋を登って登った。被線近くで残雪の上で顔を出したサナ原の急斜面を登って尾根にのり、残雪のササの切り開きを登って大樹山(638m)の頂上へ着いた。測量の竿が立っている。持参のビッケルを立て、写真を撮って下山したが、その時ビッケルを忘れてしまった。約束の12時ちょうどに登山口へ着き、車で中札内村に戻った。喫茶店にいっしょにコーヒーを飲んで紅露さんと別れた。

20日、雨が上がり、曇天だったがタクシーを呼び、非室町両伏見の帯広岳登山口へ。運転手はここは始めてで、地図を見ながら伏見に行った。(次号へつづく)  
(文中の太字は今回登った三角点の山を示す。)

## 神戸市北部の丹生山地

稚子ヶ墓山・帝釈山・丹生山

コースとコースタイム 神戸電鉄箕谷駅(バス5分)大滝口バス停(1時間) 討曲がり分岐点(26分) 稚子ヶ墓山(40分) 双塚池(50分) 帝釈山(40分) 丹生山(養老道40分) 種木千年家(養老バス停(25分) 箕谷駅)

## 中村敏文

① 太陽と緑の道(神戸市北区山田町) 神戸電鉄箕谷駅から山田町原野へは、山田川の峡谷「魔鬼の喉」を歩いて25分だが、新興住宅地帯に車が多く、原野の大滝口まで5分のバスに乗る。

山田庄は志染川上流の山田川流域に平安期に成立していた広大な荘園で、現在の神戸市北区の行政区分では山田町原野・山田町菅原のように、十三の旧村名に山田町を冠している。

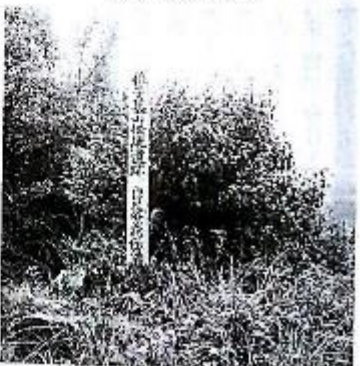
箕谷駅に近い原野などの新興住宅地帯は、日の出・松が枝・青葉台など新町名に変わっているが、山田町を冠する山田庄内の十三村は大部分が山地で、集落は山田川筋や支流の谷筋に形成されていた。

神戸市域五四八平方mの半分に近い二四〇平方mの北区は、中央部が丹生山地で北部に北嶽山地が横たわり、大部分が山地である。昭和初期に神戸電鉄有馬線が開通し、その後三木・粟生へ延長され、昭和六十三年には北神急行電鉄が開通して北区の住宅地開発も進行している。

原野の大滝口から兵庫県自然歩道・山田町コースに入り、右手の青葉台住宅地を過ぎると、粕尾谷から城山へのハイキング道が右へ分岐する。川向こうの愛宕山を眺め、右手に粕尾台住宅地を見て北へ行くと、稚子ヶ墓山登山口に着く。

「太陽と緑の道」と記された道標が大

稚子ヶ墓山山頂



きくて新しいので、雑木林の山坂道が討曲がりの分岐点へ導いてくれる。右手へ討曲がりして北へ上れば志木峠、まっすぐに西へ行けば稚子ヶ墓山の山頂へ通じる。

② 稚子ヶ墓山(北区山田町菅原) 討曲がりの分岐からしばらく西へ行き、大きく南へ曲がり北へ上ると、頂上近くに稚子の墓がある。戦国末期、羽柴秀吉が中国侵攻中、別所氏との戦いで丹生山城を落とす、稚児まで殺害したのを山田庄の村人が悲しむ、丹生山城を遠望できる山頂南側の山肩に稚児の墓を立てたと言われ、その後この山を稚児墓、稚

子ヶ墓山と言おうようになったそうである。

玉椿など常緑の低い灌木の密生する山頂は狭くて、西方以外は見晴らしが悪い。海拔596・4材の3等三角点は整地された山頂に五箇の石で囲んである。山田民俗文化会の平成元年建立の木標は「稚子墓山伝説遺跡」「伝説の格を守ってください」と書いてある。

山頂西端部の肩からは帝釈山・丹生山の山並が意外と近くに見え、山田町中への下り道が灌木のなかを西北へ続く。尾根から谷筋へくたると、拳大から人頭大



の石コロ道の沢下りとなる。1キ足らずのゆるい沢だが、不安定な石コロに足を取られて双坂池まで半時間も費やしていた。

稚子ヶ墓山登山コースは双坂池から国道428号線を道祖神の祠までくだり、岩谷川道へ入って無道寺へのコースもある。この道は危険箇所もあるので、道祖神より1キ南から無道寺参道へ入るとよい。

帝釈山登山には双坂池の北側を半周して国道428号線へくだり北西へ向かう。

③ 帝釈山 (山田町中・山田町坂本)  
国道を北西へ伝うと岩谷峠手前から帝釈山登山道が左へ分岐する。山頂までは2キ、ゆるい坂で50分まで到着する。

586材の山頂は丘陵状態の平地が広がり、東方と西方への展望が開ける。山頂付近は丹生山地形場の中心であった丹生寺の奥の院で、帝釈天を祭祀していたので帝釈山の山名が付いたのだろう。現在は常緑樹を背景に半身大の石の祠が三ヶ所に残

され、奥の院の跡らしい礎石と大小の石があちこちに散乱している。「緑と太陽の道」の立派な木標識の立つ草地と木陰のある休憩地で、丹生山地最高峰にふさわしい山岳公園となっている。

帝釈山の南西山麓の磯ヶ谷で昭和三十五年に閉山した長谷嶺山は、江戸後期に閉山され休山・再開を繰り返した有馬山両群中の新・嶺の多属飲味であった。

④ 丹生山と丹生神社 (山田町坂本)  
帝釈山から西南へ歩きやすい尾根道を1キほど鞍部までくだり、坂本への分岐道を左手に見て丹生山への尾根道を1キも登ると、石垣を残す丹生山城跡へ着く。その先から山頂へかけて明治に築寺となつた明要寺跡(古代の丹生寺)がある。

516材の山頂には明要寺の鎮守山王社を明治に改めた丹生神社がある。現在の祭神は丹生津姫命・瓊瓊杵命・月弓命の三神で、整備された平入り四間の拝殿を前に木組の太い本殿がある。最近には南麓の石鳥居から立派な当社神宝館を見て、山頂まで車で参拝できる。

丹生山は、天明天皇の時代に百濟から渡来した童男行者が丹生寺を開き、十一

面観音・千手観音の靈地・山王権現利生の奇峰と伝えられ、修験道の行者や山岳を修行場とする僧侶が丹生寺に集まったという。

正応二年(1289)の一遍上人逝去の際、真教らの弟子たちが僧坊に籠もり、後追い自殺を図ったと言われる。このころには本堂・塔・桜本坊などもあったらしい。

後醍醐天皇の建武の新政(中興)がわずか二年で破れ南北朝となると、多くの山岳寺院は山城として利用され、多くの僧坊を擁する当寺は南朝の拠点として城



帝釈山山頂

郭も構築された。そのため数回にわたり北朝軍の攻撃を受け、諸堂宇を失い荒廃する。

室町時代には丹生寺再興のため各地へ勧進に廻り、ある程度は復興されたが、戦国時代には三木城の別所氏に加担して摂津よりの兵糧の中継地となる。そのため中国攻めの羽柴秀吉に攻略され寺領を没収される。塔頭の舟井坊だけは秀吉に加担して山田庄で十四石を安堵される。

江戸幕府で治安が安定すると寺号を丹生山明要寺と改め、十一面観音安置の本堂、鎮守の山王権現社や寺坊を再建したが、明治の廃寺で消滅する。

山頂からの下りは延命地蔵までの林道も通じ、県道の丹生神社前まで3キ余。旧参道の丁石道をくだり、延命地蔵から車道に入っても3キと距離は大差ない。箱木千年家見学のため、明要寺跡から丁石道を数分くだり、衝原への分岐から踏み固められた義経道3キを南へくだる山田川を渡り川下へ行くと、山頂から50分で移築された真新しい千年家へ着く。

⑤ 箱木千年家 (山田町坂本)  
東播磨地域の用水確保のため志築川に

香吐ダムが建設され、衝原集落は上手へ移住し、昭和五十三年には閉村式が行われた。

古代の山田庄の土壌であったと言われる箱木家の住居は昭和四十二年に重文指定を受け、ダム建設で現在地に移築の際に解体修理を終えて保存されている。

主家は室町後期の入母屋造・米置きの亜屋で桁行11・4材、梁間8・4材。新座敷は江戸中期の入母屋造の建物で桁行9材、梁間5・8材。江戸末期には主家と連結して一棟となっていたが、移築の際に建築当時の二棟の旧態に復元された。

千年家の屋敷が一般化したのは江戸後期からで、箱木家の屋号とされる。天保年間には堀河藩の源敬長が箱木家の古文書を修復したが、代官から千年家の屋号を下付され系図や大同元年(806)の上棟と記された文書が確認された。

約四〇戸の衝原は平成元年から潜水を始めた「つくはら湧」に沈み、移村した衝原からは箕谷駅へバス25分で結ぶ。このバス路線近くの七社神社(東下)は山田庄の総氏神で、また、旧郷社の八幡神社(中)は山田庄總鎮守であった。

# 剣聖の里・柳生を訪ねて

松永恵一

## 柳生新陰流

「平和がほしい!」、戦国以来の願望が徳川幕府を成立させた。「武」は戈(戦)を止めると書き、平和を保つために武はあるのだと、わかっているながら平和な世界はなかなか築けなかった。武者者が諸大名に召し抱えられる場合の封禄は、たいがい二、三百石であった。何故、柳生一族だけが、一万二千五百石という大禄を給されて、諸侯の列にまで加えられたのであろうか?

「兵法は人をきることばかりおもふはひがごと也。人をきるにはあらず。悪をこらす也。一人の悪をこらして万人をいやすはかりこと也」と『兵法家伝書』は説いている。

## 芳徳寺・正木坂道場

柳生の里を一望する神護山芳徳寺は、但馬守宗矩が父石舟斎宗殿の菩提を弔うため居城の跡に建立した寺。沢庵和尚を閉山と仰ぎ、宗矩とおふじとの子列堂和尚を住職に迎えた。隆徳後は、庵寺同然となり、位牌堂も奈良市内の依水園に移されている。大正十年尾張柳生家により本堂の修復がおこなわれ、先代住職橋本定芳氏の尽力で今の姿に復興された。本堂には釈迦如来坐像、宗矩・沢庵和尚の像が安置され、十兵衛が剣と人生を記した「月の抄」や袋竹刀、家紋入りの明丸等柳生武芸の文獻・資料を蔵する。裏の墓地に柳生家歴代の墓石が並ぶ。

正木坂道場は友矩の邸宅のあとに、先代の住職の手によって創建された。興福寺・一乗院の建物を譲り受け、全国各地からの浄財によって昭和四十年に完成した。場内の正面入口は京都所司代の玄関であった。この道場で剣道を志す者は必ず半時間は座禅をしなければならぬ。「剣と禅の一体化が柳生新陰流の主眼であるからだ。」「この道場は若い人々が人生への旅に出る基礎をきずく道場にしたい」と住職は述べている。



柳生一族の墓

近畿一の誉れを得ていた柳生石舟斎宗殿は、新陰流の創始者上泉伊勢守信綱が奈良の宝蔵院に立ち寄った折に立会い、完膚無きまで敗れた。即座に信綱の門に入り、その奥義を極め、師のなし得なかった「無力の剣」という柳生新陰流を生み出した。石舟斎の五男但馬守宗矩は、将軍家指南役に召し抱えられた。旧友沢庵禪師から禅を通じて兵法の理を解いた「不動智神妙録」を贈られ、剣の極意は何事にもとらわれない平常心を持つことという「劍神一如」思想を確立し、『兵法家伝書』を著した。宗矩の長男十兵衛光殿は、正木坂に道場を開き袋竹刀を用いて、一万人以上の弟子に「先々の先」「活人剣」という剣を指南した。

## 大柳生太鼓踊り

夜支布山口神社は、『延喜式』にも記された古社で、美彦鳴命を祀る。春日大社と密接なかわりを持つ。太鼓踊り(奈良県無形民俗文化財)という神事が伝わる。

神社の祭祀を営む宮座の年長者二十人衆が一年交代で順番に当家をつとめる。前の当家から神様の分霊「回り明神」が渡されると、当家は一年間ケガレの場所に入入りしたり、旅に出ることを禁じられ、家族とはまったく別の食事・生活をして、もっぱら神につかえる。

8月17日の夜、回り明神のお祭りが当家の庭で奉納される。オオダイという大太鼓を打つ陣方34人、なか踊りという踊り手8人、うたげと呼ばれる歌い手3人、笛吹き2人、鉦たたき1名。踊り手は紺じゅばんに、手甲・脚絆・わらじといったいでたちで、「シナイ(曹巻)を背負い、胸前に「カンゴ(小太鼓)をつけ、バチを持つ。うたげの歌に合わせて大太鼓・笛・鉦のお囃子が加わり、二列になつた踊り手が左右に行き交わり、足を踏みならして踏躑躅舞する。盆踊り、奉納相撲と神事が延々と続く。

新陰流の正統は、石川斎の長男殿勝に伝えられ、殿勝の次男兵庫介利殿に新陰流の印可杖が授けられた。兵庫介は加藤清正に仕え、のち尾張義直に仕官して兵法指南となり、尾張柳生氏の祖となった。その三男述也殿包は、不出世の天才剣士と謳われた。母は関ヶ原で戦死した石田三成の家老島左近の娘であった。慶安四年(1652)、将軍の上覧試合で江戸柳生家を継いだ宗冬を打ち破っている。

## 牛若丸誕生地伝承と柳生宗矩の恋

大柳生の地に「牛若丸誕生伝説」が残る。時は平治元年(1159)のある日、源氏の棟梁左馬頭義朝を父、常盤御前を母として源義経は生まれた。

常盤は今若丸と乙若丸の2人の手を引いて、吉野から京都へ落ちのびようとしていた。大柳生の地まで来ると急に座敷づいた。源氏の落人というところで、どこかの家も世話をしてくれない。常盤は不浄の森の平たい石の上で男児を産んだ。牛丸のような大きな石だったので牛若丸と名付けた。「國史上希にしか現れない軍事的天才」と、司馬遼太郎氏に言わせた源義経はこの地で誕生したという。

阪原の集落に「おふじの井戸」が残る。馬を通りかかったお殿様・柳生但馬守宗矩は、洗濯をしていた村娘に声をかけた。「桶の中の被は、いくつあるか?」「はい、二十一被(ア×3)でございます。ところで、お殿様がここまで来られた馬の歩数はいくつでございます?」機曾に高んだお答に舌をまいた宗矩は村娘「おふじ」を妾に迎えた。「仕事さえでも要量さえよけりや、おふじ但馬の嫁になる」と里人は語った。





旧柳生藩家老屋敷

コース概観

春日山の東方、奈良からおよそ16km。バスで約50分。柳生一族の里は周囲を山に囲まれ、中央部に今川の清流が流れる。平和な世界を築くことを一心に苦慮し、己に打ち克つ剣の道を開いた山里には、芳徳寺、柳生家墓地、正木坂道場、日柳生藩家老屋敷、天乃岩立神社、一刀石などが残る。心のやすらぎをとりもどしたく、のんびりと歩いてみた。

JR・近鉄奈良駅前から乗車した柳生行きのバスを大柳生でおりる。夜支布山口神社のこんもりと黒々とした森を見る。昼なお暗い境内に、鮮やかな朱色に彩られた社殿が居並ぶ。撰社立誓神社の本殿は、延享四年(1747)に、春日大社の第四殿を移したもので、社殿の背後には御神体の巨石がある。

阪原に入る。路傍に南明寺(なんめいじ)がさりげない姿で建っている。鎌倉時代の本堂が風雪に耐え残る。堂内には本尊薬師如来、右に釈迦如来、左に阿彌陀如来と、重要文化財に指定された藤原仏が坐している。「三成に過ぎたるものが二つあり島の左近と佐和山の城」と謳われた島左近が写した「阪原山来記」は、敏達天皇の四年(675)、槻山干坊を開き千体の観音像を安置したと記す。南明寺は室堂と呼ばれた僧坊の後身だという。境内には鎌倉時代の宝篋印塔、室町時代の十三重石塔などがある。近くに柳生宗炬とおふじの恋を伝える「おふじの井戸」が残る。横を走る柳生街道はかえりばさ峠にさしかかる。別れを惜しんだおふじの母親が、「ここで帰らばさ(帰るよ)」と言ったところから呼ばれるようになったという。

この峠は、柳生街道の中でいちばん急な坂道。足に自信のない人は迂回したほうがよい。春日大社若宮の社殿を移した長尾神社(祭神藤原(元)命)、金春流能舞台の原型をとどめるといわれる拝殿、入江泰吉氏等多くの写真家が切り撮った北出橋阿弥陀磨崖仏が出現してくる。かえりばさ峠(阪原峠)を越える。柳生集落の入り口に大きな花崗岩がある。

覆い屋がかけられた南面にほうそう地蔵が彫られている。岩肌を方形に彫りくぼめ、蓮華座に立ち錫杖を持つ地蔵を半肉彫りにしている。かつて面部が剥落していた、抱恙にかかったように見えたため、ほうそう地蔵といわれてきた。昭和44年、すぐ下の土中から顔が見つかり修復された。元応元年(1319)の銘がある。

正長の十一段の資料として日本史の教科書にも記載されている有名な徳政銘文が、岩の右下に陰刻されている。「正長元年ヨリ、サキ者(は)カン(へ)神戸(四)カン カウ(郷)ニヲキメ(負いぬ)アルヘカラス」とある。「正長元年(1428)以前の春日神社領・神戸四ヶ郷(大柳生・小柳生・阪原・島地)の借金は取り消す」というものである。

道脇左側に六地藏磨崖仏、寝仏を見ると柳生の里。宗炬が構えた柳生陣屋の跡は、史跡公園として整備され、桜の名所となっている。向かいの山腹に芳徳寺と正木坂道場の白壁が木の間に芳徳寺と見せている。柳生の歴代藩主は將軍家剣道指南役、江戸住まいで参勤交代をしなかった。表門は竹の枝門で、延享四年(1747)に全焼するや、再建されることなく仮建築で明治を迎えた。

近くにある柳生花しょうぶ園は、初夏の里に華やかな彩りを添えている。柳生飛騨守宗冬が創設した八坂神社に参拝。山沿いの小道をたどると旧柳生藩家老屋敷に至る。見事な石垣、白壁の塙。江戸時

代末期の柳生藩の窮状を、鮮やかに救った男、小山田主幹の旧邸。足軽から家老に出世した男で、主幹が動くという情報だけで堂島の米相場が変動したとか、寝る間も草鞋を履いていたとか、主幹にまつわる伝説は多い。南隣の小山田氏の分家の石垣は柳生陣屋の石垣を移したもので、当時の権勢のほどが実感させられる。子孫が移住した後、作家山岡荘八氏の所有となる。「春の坂道」の構想を練った屋敷として注目を集め、氏の亡き後は、その意志により、奈良市へ寄贈された。現在は資料館として公開されている。小山田主幹や、旧柳生藩関係の文物、山岡氏の遺品の数々を展示している。

少し北に行くと、十兵衛杉が落雷のために枯れた姿を留めている。十兵衛光政が諸国漫遊の旅に出かける時、先祖の墓に寄りこの杉を植えたという。

芳徳寺からさらに15分ほど山深く入ると天乃岩立神社。戸岩谷の薄暗い谷間を板状の巨石がっ



- たてのようにして谷を塞いでいる。手力(てぢから)男命が開けた天岩戸の戸が飛んできてここに落ちたという。
- すこし奥に見事に中央から割れている花崗岩がある。一刀石と呼ばれる。石舟斎宗敷が修行していたときのこと。斬りかかってきた天狗を一刀のもとに切り捨てたが、天狗は身を離して消え、巨石が真二つになっただけという。
- 柳生のバス停は蔵元の前。試飲しながら奈良へのバスをゆっくりと待った。
- ▲コースタイム▼
- 近鉄奈良駅(バス38分) 大柳生バス停(10分) 夜支布山口神社(40分) 南明寺(50分) ほうそう地蔵(10分) 柳生陣屋跡(10分) 旧柳生藩家老屋敷(20分) 芳徳寺(15分) 一刀石(30分) 柳生バス停(バス50分) 近鉄奈良駅
  - ▲地形図▼ 2万5千11柳生
  - ▲費用▼
  - 近鉄奈良駅→大柳生バス停 780円
  - 柳生バス停→近鉄奈良駅 950円
  - ▲問い合わせ先▼
  - 柳生観光協会 0742(94)0002
  - 花しょうぶ園 0742(94)0858

### 山名の同定について(中)

西尾 寿一

地名調査に手を染めた人は、未知を探  
索するタイプの登山者と考えられる。

京都北山の地名(山名)はすでに確定  
しているように見えるが、今西錦司さん  
の若いころにはほとんど未知の領域であ  
った。それを地元民、特に山仕事や炭焼き  
の人たちに聞いて探名したものが現在も  
使われている。さらに北山をフィールド  
とする北山愛好者たちによって細かい地  
名が採集され、詳細になっていった。

現在、北山における地名採集は一段落  
したかに見えるが、その採名の方法と地  
名採用については、小生も含め、若干  
の問題が残るのではないかと考えてい  
る。

前回(中)にも述べたが、ローカルな地名  
は地元民の使用するのが優先されるべ  
きたが、これも一筋縄ではいかないの  
である。仮に地元の仕事人に聞いたとし  
ても、別の地域住民の地名がある場合と、

特定の地域でも複数の地名がある場合が

ある。さらに厄介なのは、その特定の地  
域においても安定した地名が使われてお  
らず、山の持ち主の名や、谷名・点名・  
宮林密・共有林の林班区などの名称など  
が複雑にからみ合っている場合などがあ  
る。このような場合は、選定にかんりの  
知識と経験をもとにした総合的な判断力  
が求められる。とても一回切りの聞き取  
り調査で済ませられるようなものではな  
い。

このようにみてくると、現在北山で使  
用されている地名で衆知されているもの  
であっても、問題だと感じられるものが  
残されていることがわかる。

小生なども昔の調査活動のうえで、労  
を惜しみ手抜きであったと反省するもの  
が若干ある。どの程度で満足すべきかも  
決まっておらず、これも本人次第である  
から、当然のことながらばらつきも存在  
する。

京都北山の山名は、今西さんの採名に  
なるものかなりあり信用性もあるが、  
後年になって本人が再調査の必要を説か  
れているのはその間の事情を物語ってい  
るのである。地名は、たとえば官庁や有名

得ることが困難となる。

場合によっては、地名は一つならず複  
数存在するということを認めるのも必要  
になってくる。

また、同じ字(漢字)であっても、読  
み方の違いから別の意味(地名の原意が)  
になる場合もある。こうした場合も無理  
に一つにまとめる必要はなく併記される  
べきで、これが本来の姿といえよう。こ  
れが例外無視されているのである。

地名は生きています。人の口から口へ伝  
わってゆくうちに別の意味に変化してゆ  
く場合もある。特に口伝が筆記され、紙  
に記録される段階で第一の問題点が生じ  
る。さらに記録者が漢字化してしまう場  
合には第二の問題が生じる。

古い時代の地名での漢字表記はまず疑  
問であり、記録者は一応の策としてカナ  
表記が望ましい。アイヌ地名が漢字表記  
されて全く異なる意味になっている例はよ  
く知られているが、当時の国情を考慮す  
るとしても残念なことである。

地名の一番正確な聞き取り方法は「生  
の声」である。できれば録音機で残して  
おくべきであるが一般には困難である

う。

地名は、昔から人から人へ口伝された  
のであって文書で伝達されたのではない。  
この原則を知っていれば、漢字表記の危  
険さが理解されよう。

日本山岳会創立のころ出版された日本  
山岳の大書「日本山岳志」(高橋武編著・  
明徳の凡例)には、次のような箇所があ  
り、当時においておそれるべき出版姿勢が  
示されている。そのうちの特に今でも地  
名採集者に有効と思われる箇所をみてみ  
よう。

「山嶽及び郡村名称呼傳言訓法」には  
「所置町村役場ニ照会シタルモノ及び実  
地踏査ニカカルモノハ、片假名傍音傍訓  
ヲ用ヒ、其疑ハシキモノハ平假名傍音傍訓  
ヲ用ヒ、其疑ルベキモノナキモノハ傍音傍訓  
ヲ用ケ、決シテ自己ノ臆測ヲ以テ之ヲ為  
サズ」(二部現代漢字を用いる)と述べてい  
る。

このうち、役場に照会したものと実地  
踏査とを同じ価値としてカタカナの傍音  
を行いたするのは、当時の社会一般の  
例として役所の信頼が今口よりはるかに  
高いことを示している。

人の主張するものであったとしても、正  
確さを求めるうえで固定的であってはな  
らない。しかしながら、そのような不安  
定な地名であっても、多数が使用し認知  
されてしまうと根の生えた岩石のように  
動かなくなるから恐ろしいのである。

最初の地名採集で問題があったのに、  
これを見逃したために間違った地名が一  
般に流通している場合も当然のことなが  
ら存在する。

今西さんが北山や奥美濃の地名(山名)  
について強い調子で疑念を表明したこと  
があるのは、地名に関心のある人々の間  
で有名な話である。このことは、今西さ  
んはごく親しい間柄の人であっても、採  
集の正確さを求める作業については妥協  
しなかった一例として注目される。

自身の採名方法に絶対の自信をもって  
いる場合には、別の地名がたいした根拠  
もなく流通しているとみて、正確さを求  
めて再考を促すのは本道であり、また両  
者が研究者の立場で共同歩調をとること  
も必要となろう。ここで自身の立場や権  
威にとらわれていると、問題がこじれて  
皆の共同財産とも言うべき正確な地名を

小生等の調査では、役場など官の資料  
は必ずしも正しく正確なものとは思えな  
いが、当時はやむを得なかったかもしれ  
ない。この部分からと思われる難解な地  
名がいくつかみられるが惜しいことであ  
る。これに対して実地踏査のものは文句  
なしに今日に通用しているものが多い。  
地名はやはり実地採集が最も望ましい。  
疑しきは平假名を用いるという用法は  
めずらしく、またさらに不明なものには  
何も付さないとして区別しているのは、  
さすがと言うべきである。

今日でも地方の地名を知るのに、地元  
の役所に問い合わせただけで終わりとす  
ることがあるが、きわめて危険なもので  
ある。また、文献のみの調査で黑白をつ  
けるという風潮も危ない。さらに偉い人  
が言ったからと信用するのも、権威主義  
の賛助者となるおそれがあるのである。

〈山のレポート〉

大台ヶ原の自然を考える

平 一郎

東大台ヶ原自然観察路を歩いた。  
大台ヶ原駐車場から日出ヶ岳を経て、  
正木ヶ原、尾鷲辻、牛石ヶ原、大蛇窟、  
さらにシオカラ谷の吊り橋を渡って駐車  
場へ戻る東大台コースと呼ばれる回遊路  
で、約9kmのコース。徒歩約3時間の散  
策路である。

大台ヶ原は日本百名山の一つで、かつ  
ては秘境といわれた山域だが、標高15  
70mまで自動車で上がり、最高峰の日  
出ヶ岳(1699m)まで歩いて40分程  
ということから、手軽に登れる山として  
多くの登山愛好家に親しまれている。

この一帯は吉野熊野国立公園に属して  
おり、「自然とふれあい親しむための公  
園」(吉野熊野国立公園管理事務所)という  
キャッチフレーズで、動植物の宝庫とし  
て知られている。  
このコースを歩くと、人間と自然との

私に対して、  
「都会人は田畑や植林の山を見て、自然  
を感じるらしいのね」と言っ

なるほど、田畑や植林はアスファルト  
舗装やコンクリートビルよりも自然に近  
いかもしれないが、それはあくまでも人  
工的な栽培であって、自生したものでは  
ない。したがって、その生い立ちが自然  
であっても、人間の保護下にある大台ヶ  
原の、いわば植物園・動物園は、栽培・  
飼育されているのであって、決して自然  
そのものではなく、人工施設にはかなら  
ないのである。

自然は破壊するものではないことは言  
うまでもないのだが、だからと言って、  
自然は保護するものでもない。破壊せ  
ず保護せずに、放置し放任すべきもので  
ある。つまり自然の輪廻に任せるべきで  
ある。本来人間が関与するような問題で  
はない。

大台ヶ原の恵まれた自然を、ドライブ  
ウェイの建設によって破壊し、その修復  
としてこんどはそれを保護するといふ。  
自然保護の名のもとに、自然を植物園・  
動物園という人工設備に改造する。その  
結果として自然破壊がさらに進行する。

かわり合いについて考えさせられる。  
特に自然を守ることにについて、人間の  
役割がいかにあるべきかを追求する機会  
を得ることができた。

東大台を代表する森林ともいふべきト  
ウヒ林は、近年急速に衰えつつある。か  
つて正木峠一帯はトウヒの原生林が広が  
っていたのだが、現在は倒木が目立って  
無残な姿を晒している。

トウヒ林に異変が起こり始めたのは、  
昭和三十四年の伊勢湾台風からだといわ  
れる。台風によって多くの樹木が倒れ、  
林床に陽が射すようになって、次第に土  
壌が乾き始めた。まず苔が衰退して、ま  
たトウヒの樹皮を鹿に食べられた結果、  
トウヒ林が回復しないという。

私は、大台ヶ原の自然破壊は伊勢湾台  
風だけの問題ではないと考える。大台ヶ  
原が海底から隆起して出来て以来二百万  
年もの歴史のなかで、全山にわたる大き  
な被害は一度の台風だけではいはずで  
ある。被害と回復、また時には樹種の入  
れ替わりという輪廻を繰り返しながら、  
その自然環境は維持されてきたにちが  
い。

このような矛盾を含んだ自然保護政策  
では実効は上がる見込みはないだろう。

大台ヶ原の四方20kmにある大峰山系の  
主峰、八経ヶ岳(1915m)は同じく  
日本百名山の一つであり、登山者の絶え  
ない山であるが、年間登山者数は、一万  
五千人(登山小屋の推定)である。これに  
比して、大台ヶ原は二十四万三千人(上  
北山対企遊観光課の調査)である。両山の  
入山者数には、十六倍以上の開きがあ  
る。

八経ヶ岳は、最短の登山コースである  
行者道トンネル西口からでも往復約7  
時間を要する。それに比べて、大台ヶ原  
駐車場から日出ヶ岳往復は1時間強であ  
る。

この差、つまりほとんど歩かなくても  
よい、いわばドライブ登山という手軽さ  
と気安さが、大台ヶ原に多くの観光客が  
押しかけるという要因をつくっている。

あえて暴論のそしりを甘受して、今、  
真剣に大台ヶ原の自然を守ることを考え  
るなら、ドライブウェイを閉鎖すること  
しかないように思う。

最近の大台ヶ原の自然破壊の最大の原因  
は、昭和三十六年に開通した大台ヶ原  
ドライブウェイに端を発するように思え  
る。このドライブウェイによって、多く  
の観光客が気軽に大台ヶ原へ押しかけ、  
自然を踏みつぶし自然破壊に拍車をかけ  
ている。

大台ヶ原での自然保護には大変な努力  
がみられる。山道には木製の廊下・階段  
を設置し、トウヒの根元の本一本には、  
鹿から守るための金網を取りつけて管理  
番号を表示し、鹿にも首輪をつけて管理  
標識を取りつけている。

さらに、大台ヶ原ビジターセンターと  
いう常設の展示場を設置して、自然保護  
を呼びかけている。しかし、このような  
行動がほんとうに自然を守ることにつな  
がっているのだろうか。

植物を保護するために、山全体を植物  
園化して、自生から栽培に移行し、さら  
に動物を保護するために動物園化して、  
野生から飼育に転換することが果して自  
然を守ることなのだろうか。

ところで、私の妻は丹波篠山の農村で  
生まれ育ったのだが、都会の下町育ちの

懐古趣味かもしれないが、私が山歩き  
を始めたころのように、大台ヶ原へは、  
主要三ルートである、人之波温泉からの  
筏越道、宮川ダムからの大杉谷道、そし  
て小畑温泉からの笹ノ峰道を歩いてしか  
登れないことにすれば、入山者数は淘汰  
されて激減するだろう。  
自然は放置され放任されて、やがて回  
復に向かうにちがいない。

観光バスなら 確実第一の  
**太陽観光開発(株)へ!!**



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカー  
からデラックスまで

**スキーバスもあります**

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

千支の山

岩尾城址(蛇山)

初級コース(★)  
慶佐次 盛一

岩尾城址は戦国時代の城跡で、その石垣や遺構がよく残されている。この山も山南町観光協会と裾自然愛好会の方たちの努力でコースが整備され、道標も完備されている。特に危険な所もなく迷う所もないから、ファミリー向けの山としておすすめしたい。

山頂は雑木が刈り払われ、ベンチも設置され、正面には前回紹介した石金山の全貌が見渡せて展望がすばらしい。5月上旬から中旬にかけてベニドウダンツツジの可憐な花が咲き、秋には本州最小の輝であるチツゼミの鳴き声も聞こえる。

岩尾城址は蛇山とも呼ばれるから、今

年の千支の山としても楽しめるだろう。コース全体は短く、時間を持てあますかもしれないが、下山した所は薬草園公園に近く、昨年リフレッシュ館がオープンして薬草園(入浴料500円)もあるから、ここを組み合わせると、のんびり歩きの一日コースになるだろう。

JR福知山線谷川駅から、9時40発(平成12年10月現在)の坂尻行きの神姫バスに乗り、和田下町で下車する。登山に遮ったバス便はこのダイヤだけなので、間に合わなければタクシー利用となる。バス停から少し後戻りすると、左に「岩尾城跡縦走コース和田下町登山口」と表示された大きな看板がある。山頂まで2.1kmと、距離も表示されている。

赤い鳥居をくぐり、石段を登ると樹林におおわれた平坦な道になり、右に稲荷神社の小さな祠を通す。先へ進むと石仏をおさめた石の祠が次々と現れる。巡礼道らしく、祠の間を縫うように登る。

「法性寺、狭宮神社」方面への道標から巡礼道と分かれ、稜線の道を登る。ちよっとした高みまで登ると、加古川(佐田川)を見下ろし、石戸山や高山・妙

高度を少し下げ、岩尾城址へ登り返す。途中、地坂への分岐(道標なし)を右に過し、南へ稜線を進むと前方がぼつと開け、岩尾城址に着く。

雑木が刈り払われ、各所にベンチが置かれ、足下に牧山川を見下ろす南方の展望がすばらしい。イタリ山から徐々に西へ迫り上がってきた石金山が正面に見え、西には行者山と三組尾がそびえ、その右肩には播磨側加美町の妙見山の双耳峰が頭を出している。その背後には千ヶ峰へと続く長い稜線がスカイラインを描いている。

東方には山南町山田の天狗山・高山・テンロク・妙見山が見え、場所を渡ると氷上町の白山。五台山から愛宕山にかけての稜線が魅力的で、高見城山と石戸山の稜線を越えて向山や黒頭峰が見えるという、展望のすばらしさである。

石が散乱していて少々歩きにくい時間が十分あるので、城跡を巡ってもらいたい。「岩尾城中心部の縄張り図」には、戦国時代(永正十三年(1516))に和田日向守資頼が築城し、天正七年(1579)織田軍の丹波攻めで落城。秀吉の時代、天正十四年に佐野下總守宋有が再建

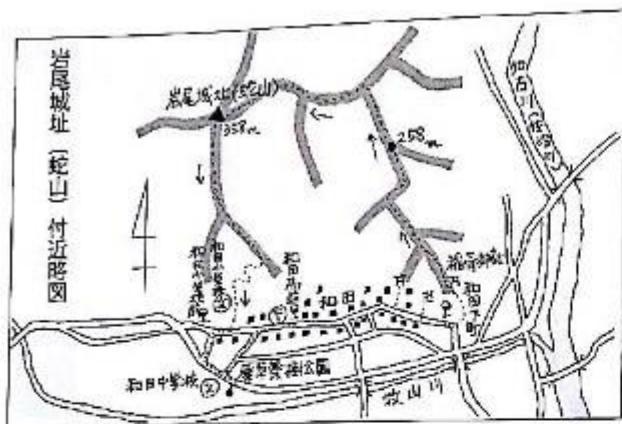
岩尾城址



見山などが見えてひと息つくにはいい所である。

258mのピークをくだった鞍部には「山を美しく、城山まで1100m」の標識があり、和田の家並を見下ろし石金山が望める。ここからはこのコース一番の急登となる。しかし道はしっかりしているし、わずか15分ほどの急登だからがんばろう。5月中旬ころはベニドウダン

の花が楽しめる所でもある。「ちよっと一休み」の標識を通ると、石金山の東尾根に登り着く。ここからはほぼ平坦な稜線となり、時々広がる展望を楽しみながらの稜線散歩となる。岩尾城址も前方に姿を現し、ぐんぐん近づいてくる。小さなピークを越し、いったん



岩尾城址(蛇山) 付近地図

したが、慶長元年(1596)に秀吉の城取り壊しの命により廃城になったとある。和田氏が築いた土塁と、佐野氏が改修した石垣が混在する。日本城郭史上非常に貴重な城跡であると記されていた。「和田小学校、親線寺」の道標から下山コースをくだる。ロープが張られているが、足元が悪く滑りやすいから慎重にくだらう。くだりきった所が掘り割りで、右へ数分歩いた所に水場があり、今も水が湧いている。元に戻り、傾斜がゆるんだ道を進み、下知殿丸曲輪や南出輪などを道にして和田小学校の校庭に着き、薬草園をめざす。

▲コースタイム▼

JR谷川駅(バス約15分)和田下町(1時間30分)岩尾城址(30分)和田小学校(6分)リフレッシュ館薬草園(6分)和田局前(バス約18分)谷川駅(6分)地形図V2万5千11丹波和田(4)開いた合わせ▼  
神姫バス篠山営業所

0795(72)0521  
●マップは谷川駅観光案内所にある。

(里山シリーズ) 木之本  
城跡と奥美濃展望

# 左弥山

初級コース(★)

長宗 清司

琵琶湖の北方、余呉湖に流れ込む余呉川の東側には、国道365号線(旧北国街道)と福井県境の橋ノ木峠に源を発する高時川の間を、南北に連なる山並がある。左弥山(475.3m)はその中の一つで、余呉町東野・今市の東の山域で、実山・東野山とも呼ぶ。

中世、京極家臣東野氏の居城跡と伝えられる遺構があり、天正十一年(1583)の賤ヶ岳の合戦の際、北軍の南下を阻止するため、余呉湖の北側に陣をかまえた羽柴秀吉軍の東の要として、堀秀政が陣を築いた跡が今も残っている。山麓には、これも賤ヶ岳の戦のとき、北軍の総大将柴田勝家が自ら率いた軍勢を重

臣佐々問盛政の大岩山攻めに呼応して、内中尾山(柳ヶ原山)の本陣から出撃して陣取ったと伝わる「狐塚」と呼ばれる小丘がある。

きょうのコースは、JR北陸本線木之本駅前から格坂行きのバスに乗る。湖国バスはいったん湖北総合病院に立ち寄ったあと、余呉川沿いの道から国道365号線に入り、大岩山を左にJRと並行して北上して、下余呉から中之郷に向かう。

左弥山へは中之郷か次のバス停で下車し、山裾を通る北陸自動車道との間にもう一本ある旧道を北に歩いて小学校の南に出る。小川沿いに山へ向かう道は、北陸自動車道をまたぐ架橋を渡り、中之郷・東野線の林道となる。ゆるやかな勾配の道は広くて歩きよい。七、八回小さなカーブを過ぎて、道がヘアピンカーブにさしかかるあたりで下界が見えはじめる。先刻歩いた道が足下に見える地点に立つと視界が開け、樹木の頭越しに余呉湖の水

面が白銀色に輝いて見える。小峠に来ると標識がある。右は赤子山、左は東野山岩跡本陣へと示している。一般はこのまま左の本陣跡に向かって林道

から登りにかかるあたりで、左手に東野山岩跡を示す看板がある。岩跡は小さな礫石があるだけの草地だが、小規模な曲輪や堀があり、当時の姿を想ぶことができる。いまは樹木が周囲をおおひ下界の様子は見えない。

平成三年修正の国土地理院発行の地形図には、この先林道は250m程しか記載されていないが、その後何回かの工事で延長され歩くことができる。ただ、途中一ヶ所工事中(段差)があり車は通れない(平成12年11月現在)。

左の尾根と同じ高さで縫っていた林道は、やがて、東(右)側が開けて展望が



左弥山付近略図

大きく。左には富士型に美しい七七頭ヶ岳が、右前には田良原山がなだらかな稜線を見せている。その奥には、標高1000mの雄大な金笠岳や横山岳を含む美濃と近江の県境にある山々が連なるダイナミックなパノラマが展開し、このコースのメインといえる。

(東野の4等三角点の探索を望む人は、尾根の踏み跡をたどって、少し北西へのピーク、のちに北東へ移動して確認できる。その後は引き返すこと。行く手は絶壁だ)

大展望を十分楽しんだあと、再び林道を北上する。先程まで平行に近かった左の尾根は、やがて見上げるほどの高さに

東野山岩跡への道から余呉湖を望む



を行く。  
(健脚・盛図に強い人向きには、ここから北東部上部にある上廻の3等三角点探索をおすすめする。目の前に見える木段を上がると、遊歩道が公園に向かう。公園を過ぎてそのまま自然状態の樹林帯に入り込む。小尾根、杉の植林帯を越えて、疎林のなかに三角点標石を見つけた)  
一般コースは、やがてゆるやかな下り

なる。右の谷越しには落葉樹に包まれた美しい姿の七七頭ヶ岳が正面に見える。春の新緑、秋の紅葉は見事である。この林道はやがて、林道小谷・摺鉢線との峠の丁点に突き当たる。

ここからは、勾配の急な舗装路を左の小谷の集落へくだる。旧道に出て、少し右へ行き北陸自動車道をくぐり、小谷のバス停に出る。

一、二時間に一本しかないバスを待つ間に、近くの余呉川の土手や河原において野草を摘むのも楽しい。

(平成12年11月5日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 中之郷バス停(20分) 林道入口(30分)
- 分岐点(上廻三角点往復1時間)(15分)
- 城跡(30分) 展望所(三角点往復45分)
- (1時間) 林道小谷・摺鉢線(20分) 小谷バス停
- ▲地形図▼2万5千1:1本之木
- ▲問い合わせ先▼
- 会呉町役場 0749 (86) 3221
- 湖国バス 0749 (22) 1201
- 長宗営業所 0749 (64) 1224

2等三角点のある山

ほらやま おおもりやま

洞山と大森山

山形 歳之

洞山(点名・大谷)

一般コース(★)

紀伊半島の先端近くを流れる古座川は一枚岩の名勝で知られる。また鮎釣りの名所でもあり、流域にはひなびた温泉も点在している。

その古座川の一枚岩の奥、三尾川の支流小節川上部に洞山がある。洞とは、谷あるいは洞窟の意で、洞山とは谷の源頭にあることから名付けられたとある。一般に登山の対象としては知られていないが、山名辞典にはその名が記載されている。

地形図を見ると、山頂まで長々と林道が通じていて、車で登れる山では興味が

薄いのではと思われたが、ともかく2等三角点が存在するので訪ねてみた。

大阪からは、阪和自動車道・海南・湯浅・御坊道路を利用し御坊に出る。その後は国道42号線を串本に走る。すさまじく過ぎてカーナビを入れると、和深から山越えの道が示された。本来42号線から371号線を通行するつもりだったが、カーナビの示す道は半分の距離なので、ためらわずにしたがう。しかし、国道でない道(県道)は狭く、曲がりくねって山越えをして行く。もっとも車の通行量が少ないので助かるが、スピードは出せない。

古座川の手前で三尾川の村に入り、農村には立派な郵便局で小節川の道を訊ねる。郵便局の手前50分くらいの所から道が分かれ、「2・8分で行き止まり」と書かれている。小節川の集落で洞山のことを訊ねたら、「岡常さんの山でしょ。時々車が行きますよ。しかし山の様子には知らない」との返事であった。最後の民家を通じた橋の所で舗装が終わわり、橋際には「橋は岡常が架けた物で」と通行の条件等が書かれていた。ここまでは分岐から2・8分になるようで、この先

は私有林道となる。

さらに砂利道を進むと、2分程でチェーン止めされていた。ここにも林道内洞の注意事項が示されていたが、もちろん植林作業向けで、登山者向けではないようだ。ところが車止めでは回転できない。狭い林道を100分ばかりもバックさせられて、橋の所の林道分岐点になんとか駐車した。



チェーンを跨いで林道を歩く。沢には清流が流れ、樹林におおわれた道での森林浴を楽しむ。やがて道は作業小屋を過ぎて分岐する。沢沿いの道にはチープが張られていた。ヘアピンカーブで尾根に登る林道に入る。ここにもチェーンが張られていた。

山腹を破線の端に登りつき、藤根山を捲くと藤根峠(3770分)となる。その先で林道が右下に分岐している。破線上の道は植林帯で、展望は得られないが散

人で、200円(入浴代)と記された箱がぶら下がっているのみ。静かな村の温泉は秘湯といってもよい。ぜひ一浴してもいい(火・木・土・日の14時~20時営業)。

(平成12年10月20日歩く)

△コースタイム▽

チェーン止め(15分) 林道分岐(45分)

藤根峠(25分) 林道分岐(10分) 洞山

△地形図▽

5万1江住、2万5千1三尾川

大森山(点名・枳山)

(★)

一般コース(★)

古座川を通ると七川貯水池に到る。ここで国道は古座川と分かれ平井川沿いのびる。湯の花温泉を通ぎ、平井の村で北海道大学の事務所に立ち寄る。大森山は北大の演習林で、入山するには許可が必要である。入林簿に記入し、入林証と車に付ける表示板をもらう。下山後は返還する必要がある。地図で登山ルートの確認をする。当日の造林作業の状況で、どこまで車で入れるかを訊ねる。作業の都合では林道の通行が制限されることになる。

演習林内は林道が縦横に走り、登山ル

とも何本もあるようだが、通常は平井川の大森橋を渡った所のゲートを入り、窪谷本線の林道から右手に分岐する峰越作業道を登る。休憩舎の建つ展望台からさらに林道を進むと、尾根の山道に取りつく。林道終点からも道はあるようだ。尾根広いに破線に出て、一つのピークを乗り越すと大森山(341・5分)の山頂である。

洞山を登った午後、事務所で許可をもらい、翌日登ろうとしたが、洪水警報が出たほどの豪雨に見舞われ登頂できなかった。そこで、山のコース案内は事務所で聞いた話を参考にして記してみた。

事務所は土・日・祝は休みで、休日には登山するには前日に許可を得てゲートの鍵を借りる必要がある。事務所の一室には演習林内の動植物が展示されていて見学できる。

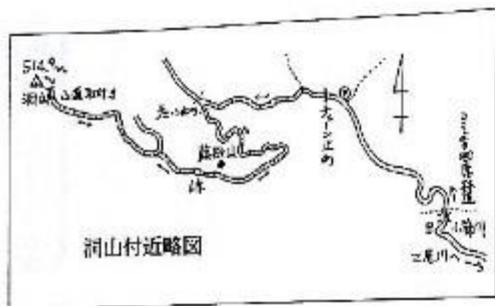
車で仮泊する時は、七色貯水池の佐田に広い駐車場と水洗トイレがある。

(平成12年10月20日行く)

△コースタイム▽

駐車地点にもよるが、山頂まで約1時間30分位だろう。

△地形図▽5万1江住、2万5千1下露



呂を少し大きくし、たぐらいで、45分も入れば満員だ。清潔で透明な湯はつるつると肌によさしく、美女湯の名を納得する。休憩室もあるが無

薄いのではと思われたが、ともかく2等三角点が存在するので訪ねてみた。

駐車地点にもよるが、山頂まで約1時間30分位だろう。

大峰前衛の静かな山

おとみやま きんぱんとか たかつか  
大峰山・三本桐・高塚

中級コース(★★★)

金谷 昭

大峰山脈、弥山と行者道岳との間にある一ノ坪より東に分かれる尾根の高まりの高塚(1363・5m)。その手前でさらに南へ分かれる尾根にある三本桐(1289m)と大桐山(1076・8m)は、いずれも大峰連峰の奥深い中央部にあるため、登山者も一部の愛好者に限られる。山頂部には露岩を混えたすばらしい原生林が温存され、静寂のなかに最も大峰らしさを満喫させてくれる。

交通手前はマイカーに頼らざるを得なく、京阪神からの日帰り登山の南限ともいえる。地元の上北山村により一部道標を設けられ、登山の安全を期している。



山名になった大桐

られているらしく、根元には小さな桐がまつられている。その木を中心にして林道が広がり、広場となっている。また、木の横には木の設けた一ノ坪への道標も置かれているが、車道を歩くように記されている。



大桐山・三本桐・高塚付近路図

国道169号線を伯母峰峠トンネルを抜けてさらに南下し、上北山村中学校より林道・小谷線に入る。この林道は小谷川右岸に沿って、大桐山と三本桐との1219m峰付近を乗越し、白川又川側を河合に抜けている。途中、標高1000m付近まで舗装されているが、現在この林道を利用しての森林作業が盛んに行われているので、登山者は駐車場所十分に注意したい。

右岸に行く林道が左岸に渡り、再び右岸に渡り返してジグザグに入ると間もなく、右に西山観音参道が分岐する。それを見送り、しばらく行くと小さな谷の手前に、山火事防止の古い看板とテープが出てくる。ちよつとわかりにくいのが、ここが大桐山への登山口である。林道脇の空地には二、三台駐車可能である。

取りつきは踏み跡がブッシュに隠れているが、すぐ杉林に入って下生えが少なく歩きやすくなる。右の小谷に沿って小さなジグザグを繰り返すが、やがて左に折れ、谷を離れて大きなジグザグになって山腹を捲くようになる。途中で大きな岩が現れるが、岩の手前を右に折り

大桐山はすぐ北に高くそびえ立っている。頂上へは稜線の急登のブッシュをこぐよりも、山頂をぐるりと西に捲いている林道をたどって北側から登るほうが楽である。

途中に木材搬出クレーンの残骸を見て登り着いた山頂は、三等三角点を中心とした小広場となっている。周囲の杉林によって展望は皆無。「新宮山登る」の山名板と、もう一つあるのみ、静寂そのものである。

これより三本桐への縦走は、かつては明瞭な踏み跡があったが、稜線西側(白

大桐山山頂と3等三角点



返し、次に出てくる間伐材の放置された手前を再び右に折り返す。

このあたりから踏み跡がはっきりしてくると、再び、先に分かれた谷に近づくと、ここで谷を離れると稜線まではおだやかな山腹の登りとなる。

飛び出した稜線には林道が来ており、山名になった大きな桐がすぐ左横に立ちはだかっている。大桐は神木として崇め

川又川側の伐採により歩きづらくなっている。東側(小谷川側)の杉林との境界を忠実にたどって三つのコブのアップダウンを繰り返すよりも、少し速廻りになるが、稜線の白川又川側に付けられている林道を行くほうが展望もよく歩行も楽である。

林道が白川又川側より小谷川側へ乗越す付近からは、ブナを始めとする原生林が出現する。なお、林道の峠部分には三、四台の駐車可能な空地があり、ここまでは車を利用して、大桐山・高塚を往復するのも一方法である。ここにも道標があり、下山の際には車道を歩くように記されている。

林道乗越よりよく踏まれた道を1219m峰の西面を捲いてゆるやかに登って行く。すぐ分岐があり、道標の示す通り右に折れ、1219m峰の西北面を捲いて尾根にのる。

このあたりからブナなどの巨木が出てくる。枯れているササのなか、ゆるやかな斜面を登りつめると、三本桐である。大きな桐など巨木が多く、山名となった三本桐はわからないが、山名表示板がある。展望はここも皆無である。

熟年世代におけるイキイキクラブの旅情報

# 世界を歩く

トレッキング・ハイキング・フラワーウォッチング

- イキイキクラブの旅は
- 8名様から催行、15名様限定
  - ベテラン添乗員が同行
  - ユネスコ世界遺産基金に協賛
  - 中国コースは会話講習会付

**黄山三峰ハイキングと上海6日間**  
世界自然遺産の黄山 蓮華峰・光明頂・天都峰を時間をかけてたっぷり歩きます

**四姑娘山麓フラワーハイキング8日間**  
ブルーポピー等が咲くお花畑をハイキング、世界のナチュラリスト憧れの地です

**武陵源ウォーキングと長江三峡クルーズ8日間**  
奇峰・怪石の武陵源をウォーキングし、世界が注目の三峡を巡るハイライトコース

**九寨溝・黄龙・臥龍ハイキング10日間**  
夢幻仙境、神のような世界といわれている今話題の地をハイキングで楽しみます

**東南アジア最高峰キナバル山登山6日間**  
昨年世界自然遺産に登録されたキナバル山を、ゆったりとした行程で登山します

**桃源郷フンザの里とカラコルム山麓ハイキング9日間**  
ナンガパルバットやラカポシ峰など憧れの巨峰が眼前に、ガンダーラ美術の魅力も

イキイキ講演会「熟年世代の山歩き」 藤田健次郎氏講演

- 日時 5月12日(土)午後2時から
  - 場所 雑波 OCATホール
- 入場無料です。  
旅行の説明会ではありませんので気軽にお越しください  
会場の都合がありますので電話で予約をお願いいたします

主催

**日通旅行**

日本通運(株)大阪旅行支店

国土交通大臣登録旅行業第1号  
日本旅行業協会正会員  
大阪市中央区北浜 1-1-6

■お問い合わせは・・・

日本通運(株)大阪旅行支店

イキイキデスク

TEL 06-6201-1954

FAX 06-6201-1769

〒541-0041 大阪市中央区北浜 1-1-6

E-mail: ke-yoshinaga@nitsuu.co.jp

\*旅行費用・条件などはパンフレットをご請求ください



高塚山頂と3等三角点

これよりいったん急な下りとなり、次の登り返しになると、道はジグザグとなり踏み跡は乱れる。幸い下生えがなく見通しがきくので、ともかく上に向かって登ればよい。

登りつめた尾根分岐(1418分岐)は明るい日だまりで、休憩に適した所である。少し西の露岩に登ると、大昔野舌から一の坪の主稜線と、その山腹に付けられた天川村への国道等の展望がきく。逆

大台ヶ原、その南の紀伊山地が望める。ここより高塚に向かったの縦走路は、かつて「わかき国体」の山岳競技ルートとなった稜線で踏み跡があり、所どころに「大一商会」の赤い境界杭もある。

踏み跡を見失っても、下生えがなくどこでも歩ける。露岩が点在する原生林で、最も大峰らしさを漂嘆する尾根である。すぐに露岩のやせ尾根となり、いったんゆるやかな下りとなって、次に出てくる露岩からも大昔野舌の眺望が良い。さらに出てくる露岩も共にやせているが南側に踏み跡がある。これを過ぎると急な下りとなって最低鞍部に達する。落ち葉のカーベットを敷いたアナ・ヒメシヤラ・ツガ・クスギ・ナラ等の原生林のなか、野生動物の臭いのする所である。

ゆるい登りとなって、再び尾根がやせてくると間もなく高塚の頂上である。3等三角点を中心に細長い台地状となっている。展望は北側の木の間越しに大昔野舌が望める程度であり良くない。訪れる人がほとんどいないということ、文字の消えかかった古い山名板が物語っている。

下山は林道長谷まで忠実に往路をたどる。以後林道を伝い、大台ヶ原や付近の山々の眺望を楽しむながら戻ればよい。

（注意）  
①大樽山と林道乗越間の11224分岐には、コクワ谷小屋を経て小谷川にくだる作業道が分岐するが（道標あり）、現在は使用されておらず、中腹部に間伐材が放置され、道が途切れているので入らないほうがよい。

②大峰主稜の一の坪より高塚へは尾根を忠実にたどれば問題なし。踏み跡程度であるが、ササが枯れているので見通しはきく。一の坪(1時間20分) 高塚(1時間30分) 一ノ坪。  
(平成10年11月1日、平成12年10月14日歩く)

▲コースタイム▼

林道小谷總登山口(1時間) 大樽木(25分) 大樽山(35分) 林道乗越(40分) 三本梅(30分) 尾根分岐1418分岐(40分) 高塚(50分) 尾根分岐1418分岐(25分) 三本梅(15分) 林道乗越(1時間15分) 登山口  
△地形図▽2万5千1弥山・釈迦ヶ岳







(植物観察ほか) (パードウオックス) (武蔵野) (パードウオックス) (細川) (比谷) (八雲) (原) (コージ) (解説) (参加予約込) (参加費10000円) (申込先) (比良) (ロープウェイ) (事業課) (077) (596) (0516)

**神戸電鉄**

▽神戸ハイキング「北神戸スポーツ公園と一之宮神社ハイイク」 5月3日(雨)中止(集合) 横山駅10時35分(コース) 横山駅―一之宮神社―道場―北神戸スポーツ公園―一之宮(約8.5km) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

▽神戸ハイキング「犀風谷と大地聖天ハイイク」 5月20日(雨)中止(集合) 五社駅9時50分(コース) 五社駅―八多―犀風谷―出合―天下辻―大地聖天―大地駅(約12.5km) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

**山陽電車**

▽山陽ハイキング「中尾治水公園・明石海浜公園ハイイク」 5月13日(雨)中止(集合) 江井ヶ島駅下車江井ヶ島海岸10時(コース) 江井ヶ島海岸―住吉公園―中尾治水公園―明石海浜公園―アサヒ飲料イベント会場―東三田駅(約10.5km) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

▽山陽ハイキング「明石原人と浜の散歩道ハイイク」 5月27日(雨)中止(集合) 山陽魚住駅下車住吉公園10時(コース) 住吉公園―江井ヶ島海岸―明石原人塚―見立地―明石象化石発掘地―林崎海浜公園―明石望海浜公園―西新町駅(約10.5km) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731) 2520

▽山陽ハイキング「林崎海岸・野々池ハイイク」 6月10日(雨)中止(集合) 中八木駅下車北西0.5km(大久保浄化センター)公園10時(コース) 大久保浄化センター公園

**三岐鉄道**

▽鈴鹿の山を歩こう「花の御池岳」 5月3日(雨)中止(集合) 近鉄富田駅8時22分(三岐鉄道乗車(コース) 富田駅(電車) 西藤原駅(バス) コグルミ谷―カタクリ峠―丸山(御池岳)―鈴北橋―鞍掛峠(バス) 西藤原駅(約11.5km) 参加予約込(3月12日から受付) 参加費2000円(バス代1000円別途) (申込先) 三岐鉄道鉄道部運輸課0593(64) 2143

▽鈴鹿の山を歩こう「山野草の原原岳」 5月12日(雨)中止(集合) 近鉄富田駅8時22分(三岐鉄道乗車(コース) 近鉄富田駅(電車) 西藤原駅 聖堂寺道―藤原岳―聖堂寺道―西藤原駅(約9.5km) 参加自由・参加費2000円(三岐鉄道乗車(コース) 近鉄富田駅(電車) 西藤原駅(バス) 聖堂寺道―藤原岳―聖堂寺道―西藤原駅(約9.5km) 参加自由・参加費2000円(交通費別途) (64) 2143

▽鈴鹿の山を歩こう「初夏の宇賀深砂山」 6月24日(雨)中止(集合) 近鉄富田駅9時0分(三岐鉄道乗車(コース) 近鉄富田駅(電車) 大安駅(バス) 宇賀深―宇賀深―長尾滝―砂山―遊歩道―宇賀深(バス) 大安駅(約8.5km) 参加自由・参加費2000円(交通費別途) (64) 2143

**三岐鉄道**

合 近鉄富田駅8時22分(三岐鉄道乗車(コース) 近鉄富田駅(電車) 大安駅(バス) 朝明キャンプ場―藤原谷―朝明キャンプ場―朝明キャンプ場(約11.5km) 参加予約込(3月12日から受付) 参加費2000円(バス代1000円別途) (64) 2143

▽鈴鹿の山を歩こう「新緑の竜ヶ岳」 5月26日(雨)中止(集合) 近鉄富田駅8時22分(三岐鉄道乗車(コース) 近鉄富田駅(電車) 大安駅(バス) 宇賀深―宇賀深―ホタガ谷―電ヶ所―中道―砂山道―宇賀深(バス) 大安駅(約13.5km) 参加自由・参加費2000円(交通費別途) (64) 2143

▽鈴鹿の山を歩こう「初夏の宇賀深砂山」 6月24日(雨)中止(集合) 近鉄富田駅9時0分(三岐鉄道乗車(コース) 近鉄富田駅(電車) 大安駅(バス) 宇賀深―宇賀深―長尾滝―砂山―遊歩道―宇賀深(バス) 大安駅(約8.5km) 参加自由・参加費2000円(交通費別途) (64) 2143

# せせらぎ

**題字・小林玻璃三**

きょうも一人で山に向かっている。傾斜地の畑が山裾まで広がっていて、風もない青空の下、鳥のさえずりが聞こえてとても静かだ。軽トラックがや々と通れるほどの作業道を、すでにかなり登ってきている。道端の花を眺め、蝶を見ながらゆっくりと山に向かう。このような時間もいいものだ。

山を回り込むときらに奥へと畑は続いていて、気がつくとも畑のなかの若い女性が一人立っている。すらりとして背が高くしかも美人のようだ。

「一瞬ドキッとして立ち止まったが、すぐに歩を進めた。女性との距離はどんどん縮まっていく。私はついに畑のなかへ入っ

て行った。その女性はマネキン人形で、浴衣を着せて畑のなかに立たせたカカンだったのだ。ここへ来る途中にもバイク用フルフェイスのヘルメットをかぶった変なヤツが立っていたが、この地域では悪品正利用の考えが浸透しているのだろうか。浴衣一枚で立っている彼女は、服装が乱れて尻方のチチがもろに出まわっている。人形でもかなり色っぽ

今オレはだれもいない畑のなかでこの女性と向き合っている。一対一で、妙な緊張感が走る。そして、ついに彼女の浴衣にオレの手がかかった。そっと肌を直し帯をキュッと絞め直し

て、もう一度周囲を見廻した。だれもない。だれにも見られなかったのだ。よかったよかった。(山形 明)

11月11日、京都府立大学農学部付属久多演習林の秋のウォッチングに参加した。久多ノ町から久多川沿いの林道に入る。マイクロボスは上ノ町のゲートまで。演習林の許可を得れば、昭文社エリアマップ「京福北山2」の457地点、岩屋谷と滝谷の出发点までなら普通車の進入可能だが、約20分程度の歩きは足惜しによい。その出发点には管理用のログハウスが建ち、トイレの設備もある。

出発時での秋晴れが、あいにく花折れあたりから細かい水滴が落ち始め、北山時雨の歓迎と風流に解釈していたが、久多では本降りになった。京都市内では一週間程度遅れている紅葉も、ここではやっと見頃直前まで進み、地道には落ち葉が敷きつめられては、付近の樹木はミズナラ・カヤ・ブナ・トチ・カシワ・ホウ・ウチ

○新ハイ関西サービステーション

|                                                                                                                      |                                                                                                              |                                                                                                                                      |                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>名所・二岐山 小白雲―大白森―甲子・新頭への精進道 1名でも最寄り駅まで現行(徒歩) 露天風呂と内湯</p> <p>福島・二岐温泉 大和館</p> <p>〒091-0000 福島市大和館 電話 091-255-1111</p> | <p>富士登山・富士五湖 奥平自然歩道 (石川山・ヘリキ・神林) 三回山の壁</p> <p>ペンション コットンテール</p> <p>〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 電話 05555-6515</p> | <p>大分県津久井町から温泉街分岐点 温泉・岩屋谷 (R) 中安駅(山下) 下下下タクシ10分 バス20分(山下) 下下下タクシ10分</p> <p>山小屋 福ちゃん荘</p> <p>〒091-0000 山形県山形市上区東沢 電話 091-255-1111</p> | <p>京都府 平谷温泉と約りの山小屋 山形県山形市上区東沢 電話 091-255-1111</p> <p>清四郎 小屋</p> <p>はなもの手打そばと店は</p> <p>〒945-0000 新潟県北水 電話 095-1255-1111</p> <p>明神(11月14日) 電話 0257-91215</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

ワカエナなどで、芦生杉もある。雨滴を重く宿した黄・赤の葉は落ち着きを見せている。

参加者は尾根コースと深流コースに分かれた。深流コースは、直進すると約2時間で三回岳(960m)に達する。川が増水し危険も予想されるので、三ノ岩尾(洞穴)まででやめた。尾根コースは、晴天の日は750mあたりより三回岳や演習林全般が見渡せるが、途中から引き返すことになった。

登山者の利用は少ないが、管理のための道行があり、道標も確かである。

芦生は最近商業ツアーを始め、入山者が増し、原生林の風格や趣が次第に失われているようだ。

久多は、芦生から三回岳・天狗峠の稜線を東へ越えた一帯であるが、交通不便から訪れる人も少なく、熊笹等の野生が静かに保たれている。芦生や北山に興味深い方の訪問を大いにおすすめる。(芝野泰明)

山行短歌  
11月25日 伯耆深山

まさされたものだ。  
岩の上では時々ガスが晴れ、急に視界が広がって、岩肌と紅葉湿りの雄大で幻想的な風景が目に見え込んできて楽しませてくれる。それにしてもヒカゲツツジの多いところだ。次回来る時は好天のツツジの時期だ。

箱野と高敷を結ぶ峠を越えた地点は、ずっといたいような雰囲気の良い所だ。  
P572から進み、さらに円錐形のP443・5とのコルで左に入る尾根道に入るはずだが、P443・5に登っているようだ。あわてて戻り、道を探すがない。パスの時間から逆算しP443・5にゴリ押しに登る。ヤブのなかを転がり落ちるようにして五坂谷池をめざし、パス道に出るとこの記憶に残る山行となった。

農作業していた人にバス停の方向を聞き、栗柄口よりお寺(福徳貴寺)の方が近いと教えてもらう。バスを待っている間にズクズクに濡れた靴下を絞って、ホカロンを靴に入れ帰路についた。  
それにしても縦走というのは

木の階を暗くして槍ヶ峰に着けば  
白き大山道りくる巨峰  
12月7日 美濃巻老山  
流音の絶えざる水流を抱くゆえ  
海の色よりも青き峰つづく  
12月12日 六甲駒水山・鍋釜山  
吊橋のむこうは深河越えの森で  
街道あたかも凍り越えて行け  
12月29日 北摂高岳  
重積れる尾根を単独行のぼくは  
あなたにあこがれひとと年終る  
1月3日 六甲天狗岩南尾根  
岩に座し流れる雪を目で追えば  
新世紀のシンフォニー開くゆ  
1月8日 石切宮山・生駒山  
あちははは眠る白金の宮明けて  
わが幼年の山河そのままに  
1月15日 湖架荘にて新年会  
湖更けゆきて呑み交す仲間らと  
明日は登ろう雪の呼ぶ比良へ  
1月16日 比良巻菜山  
雪原をラッセルし進むわが旗に  
黒き汽罐車奔り過ぐごとく  
2月5日 台高山見山  
強く君を思う雪上をひと行く  
楽譜の道にフォルテシモ叩き  
2月12日 台高三峰山  
革命機詩に酔いしれた日の遠く  
生きたきものを雪水よ同志よ  
(木村太郎)

達成感があり、このコースはコブの好きな方にはたまらない縦走となること請け合いです。  
(湯浅康夫)

12月木、湖北・小谷山へ行っ  
た。雪道の林道をたどり、一汗かくと望岳峠だ。眼下に琵琶湖と竹生島、遠くに白い野坂山地が眺められる。  
山道に踏みこむと、長政と於市の方の悲運が雪に封じられてる気がした。一人で歩いていると、パスと木から雪が落ちる音にさえドッキリする。  
尾根に出ると急に目前が開けた。急いで地図を出して見た。ひととき高いのが熊野白山。そして三周ヶ岳や蕎麦粒山、貝月山だ。うか。500m程に満たない山からの見事な展望である。  
清水谷出合から山頂を往復し、天候の要わらないうちに、この谷を一气にくだった。「ここはカモシカの特別保護区です。熊と間違わないように」との看板があった。尾根筋には、カモシカの足跡がたくさんあった。  
(栗津浩二)

11月26日、中庄谷直「日帰り縦走」(ナカニシヤ出版)のコース、西多紀アルプス(三尾山・鏡峠・銀岳・紫岳)の縦走を行った。  
JR福知山線黒井駅よりタクシーを使い、三尾山登山口からカッパ山行となる。地形図上の群界線上のピークをルーペで克明に読むと38個ある。露岩の散在するやせ尾根通しで、何回も登り返しをさせられる。三尾山の東峰、西峰もきっちり押え、主峰を過ぎる。そこからはテープに従い、ほぼ真東に進むということを念頭に置けば、まず間違うことはないと思っていた。コブの数を地形図通り数えていたが、十何個目かで地図が雨と泥で汚れ始め、コブ読みはおきらめた。  
鏡峠を過ぎて分かれ道があり、左にとると松森方面に向かう道と確認し、反対の右にとり少し行くくと、右手に小ピークが出てくはずが出てこない。東に行くはずが磁石は南を指していた。すぐ戻り、早めの修正ができた。地形図の破線の曲がりは微妙なU字形で、われながらうまくだ

新世紀は寒波襲来で明けた。雪のない所へと、峠間・八高山へ向かった。大井川鉄道福用駅に駐車し、妻と歩き出す。川根茶畑の中を登って行くと馬正山に着く。そこからひと登りで山頂だった。頭が赤く塗られた一等三角点標石を無た。  
翌日は高塚山へ向かった。林道南赤石線に入ると雪が出てくる。ウッドハウス「おろくぼ」からは積雪も増え、中は林道分岐で通行止。膝までのラッセルで山犬殿へ。寒風でも進まず、やっとならした中川根町立無人小屋で積雪喪失。春になって土砂崩れの林道が修復されたら、再び来ることを誓って下山した。  
大丸山へ向かい北尾根をラッセルする。穏やかな起伏のアップダウンを繰り返すと山頂に着く。眺望は一級で、南ア深南部の山々、東に七ツ峠と富士山の展望が広がる。  
下山後は雪山の残れを癒した川根温泉「ふれあいの泉」で一浴し、相良牧ノ原インターへ車を走らせた。  
(栗津浩二)

汗をたっぷり拭き止せる温泉と  
笹ヶ峰牛のシヤブシヤブ  
日本海の鮮魚と山の幸  
ハイカーの宿  
ナガサキロッジ  
〒049121000 新潟県中  
頸城郡妙高高原町池の平温泉  
025518612261  
〒049121000 新潟県中  
頸城郡中頸城郡妙高高原町  
池の平温泉 ナガサキロッジ  
025518612261  
高山の花 湿原の花  
妙高山を二つ登れる山小屋  
百名山を二つ登れる山小屋  
黒沢池 ヒュッテ  
〒049121000  
新潟県中頸城郡妙高高原町  
池の平温泉 ナガサキロッジ  
025518612261  
休館日 食入浴も歓迎  
10名以上マイクロボスで送迎  
箱根仙石原温泉  
福 島 館  
〒25010631 神奈川県足  
柄上町箱根町仙石原  
0466014183041

四季織りなす美濃高原のハイイク  
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー  
けやき宿り味の宿 日鏡連  
温泉旅館 けやき山荘  
〒33911500  
長野県南安曇郡安曇野村乗鞍高原  
026319312555  
さわやか信州  
霧天風呂 山吹の湯  
湯田中温泉(霧天)  
日野屋旅館  
〒33810400 長野県下  
高井郡山ノ内町湯田中温泉旅館  
0269133578  
標高2000m以上の温泉  
湯田丸高峠自然休養林  
ハイキングにXCSキー  
高 峰 温 泉  
〒35410000  
長野県小諸市高峰温泉  
026712512000  
ハイキングにノスキーにノ  
志保高原 石の湯ロッジ  
バス 熊の湯温泉2421  
〒026913412421  
東京本社・東京都新宿区新宿3  
丁目1-5(新光ビル)  
03133410211  
電 03133410211

毎年冬になると、近所の川に

ユリカモメがやって来ます。正月には百二十羽を数え、壮観でした。

- ゆり幽霊立つ川面に
- 影映す古里富士の姿良き哉
- 冬枯れの林は寂し
- 語りたる山古昔に姿を見せよ
- 日記又て食談したるう梅の花
- 只一つようやく咲けり
- 草木灰作りし屑のかたわらで
- 細強りを生く鶴羽まし

冬は街中でもけっこう鳥が見られて楽しいですね。新緑の季節には、山でいろいろな鳥に出会いたいと思う、冬通りなかの私でした。(数木伸人)

1月、奥二河に大雪が降った日、ひよんなことから、故郷である愛知県豊田市の六所山(611m)を歩きました。同市に在住していた当時は、山歩きに興味を持っていなかったため、同山へのハイキングは今回が初めてのことでした。山麓には野外活動センターがあり、山頂に向けていくつもの遊歩道も整備されているのですが、ゆっくり登っていくとアカガシ(ブナ科)などの大木が生き続ける原生林

歩いたので、標石に気がついて。昨年の10月に登った白山東の三方前山にも、4等三角点が登山道横に設置されていた。事前に地図に載っていない三角点が登山道横に設置されているのは知っていたので、気をつけて登って見つけられた。

この三角点はコンクリートの柱の上に銅製プレートが埋め込まれて、三角点地も彫り込まれているユニークなものだった。鈴鹿の獅子岳山頂には三角点はないが、図根点なる標石があるのを聞いて、一度しか行っていなかった。今度行く時にはよく確かめようと思っている。

ちなみに京都の「菱石山」にも同じ図根点があると、織部氏から聞いている。(山田明彦)

山麓に広がる山里の雑木林は、里人にとって大切な燃料や山の幸を得るための林であった。戦前までは、無断立ち入りがあったために、村間で血を流す争いがあったという。今はどうだろう。多くの山が

に遭遇したのです。こんな里山に大木が生き続けている森があることに、驚くと同時に嬉しくなりました。

2月には、新八刈例登山行で、豊田市の里山(3000m)を縦走しましたが、そこでも、ツブラジイ(ブナ科)、ヤイヌツゲ(モチノキ科)、ヤブツバキ(ツバキ科)、シロダモ(ツクスノキ科)などの原生樹に出会うことができました。

ツブラジイの大木を見上げると、樹冠の枝葉は互いに重なり合わないよう、ジグソーパズルのごとく見事な模様を描いています。イヌツゲは、ふだんの低木を見慣れた眼にはほとんど信じられないような大木となって、群生林を形成していました。

こうした樹木たちが本来の姿で生き続ける森に佇むと、儼かな空気に包まれるながら、何かとても懐かしい情感到満たされま

美濃地方に暮らす身では、常緑樹の原生的な森を歩く機会はごく限られており、このように他の土地の里山で自然の歴史の生き証人に出合えるのは、とても

も幸せなことです。(鷲見守康)

小生は三角点にどくに興味をもっているわけではないのだが、山の高さから三角点には一応注意を払っている。

鈴鹿の御在所岳(1241.2m)で、平成12年12月に東京からのグループが、12時12分に記念写真を写したと聞いたが、御在所岳の上等三角点(1209.8m)で、正確には望湖台が1211.95mで1212mと地図に表示されている。

三角点は山頂(尾根のピーク)やその近くに設置される場合が多く、尾根の途中にも設置されている。ピークではないので見付けることは難しく、登山道以外では見ることがなかった。

1月21日の山行で、偶然尾根上の三角点を確認した。場所は菱老山の北北東、三方山の東尾根(一般登山道ではない地帯)にあった3等三角点で、標高は513.4mだった。

以前にも同じコースを歩いているが、相道の少し上の尾根にあるので、前回は気がつかなかった。今回は地帯を外れて尾根を

放置され、松枯れが蔓延している人の寄りつかないのが実情である。

里山には、村人とともに刻んだ歴史があったのに、人々が山に思いを寄せなくなるにつれ、その歴史も記憶から消えかけている。

このようなことを危惧されている先達、慶安次郎一さんが「兵庫丹波の山」に続いて、記録を残す新しい挑戦をされていると聞く。一日も早く、われわれの目に触れることを期待するものである。

われわれも、この雑木林で精気をおらい生まがいを得ている。そのお返しに、雑木林を守る手だてを考えているのだが、浅智恵ゆえ、多くの仲間智慧を借りたいものである。

(須藤岡 蔵)

山行短歌  
1月8日 鏡ヶ口  
霧深く風吹きつる南峰が  
瞬時に見せた冬の山肌  
絶景の鈴鹿の山の展望台  
鏡ヶ口の東峰に立ち  
1月11日 夜登山

坂の道 千両街道  
百八十七俵「親善原」  
ホテル  
白馬ブランチエ  
〒399-9300  
長野県北安曇郡白馬村いわたけ  
0261-7214452

八ヶ岳南北縦走の中心地  
59年新築増築完全個室  
木の香匂う新築豪華大浴場  
オーレン小屋  
1泊2食付き 6000円  
〒399-0213 4月末・11月末開設  
長野市豊平2720 小車泊大  
0266-6721279

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー  
1R新築・北八ヶ岳登山口まで送迎します  
ブチホテル カナール  
〒399-0301  
長野市北山麓新築温泉丸草55  
13の1  
0266-672258

日本百名山の宿  
信州戸隠山  
森の宿めるへん  
高梨山・黒龍山登山口まで送迎  
クワン・コースと案内  
〒381-4100  
長野県戸隠村越水ヶ原  
0266-125412061

九州の最高峰・日本百名山  
宮之浦岳に一番近い宿  
屋久島安房屋山荘  
〒899-1431  
鹿児島県屋久島郡久良岐町  
0999-74163021

日本唯一の女人禁制の山「大  
米山」(白馬山)の登山口  
温泉・名水の里  
旅館 紀の国屋甚八  
1泊2食付 2,000円から  
〒690-0433  
奈良県宇陀郡天川村桐  
074761410309

御在所山に  
愛知川沿い歩きに  
山と温泉の集う宿  
朝明茶屋  
山小屋 朝明茶屋  
〒560-1251  
三重県新湊町千草  
0593-9311788

群衆山麓の近くに広がる大木  
二百名山の木ノ山・志保山あり  
三ツ石山 那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-1307  
岡山県瀬戸郡会通町岡  
0868-13614154

群衆山麓の近くに広がる大木  
二百名山の木ノ山・志保山あり  
三ツ石山 那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-1307  
岡山県瀬戸郡会通町岡  
0868-13614154

群衆山麓の近くに広がる大木  
二百名山の木ノ山・志保山あり  
三ツ石山 那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-1307  
岡山県瀬戸郡会通町岡  
0868-13614154

群衆山麓の近くに広がる大木  
二百名山の木ノ山・志保山あり  
三ツ石山 那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-1307  
岡山県瀬戸郡会通町岡  
0868-13614154

群衆山麓の近くに広がる大木  
二百名山の木ノ山・志保山あり  
三ツ石山 那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-1307  
岡山県瀬戸郡会通町岡  
0868-13614154

春がきた精彩可憐分草  
 替んないとして今年も公えて  
 (若野 明)

滋賀県立図書館で中島伸男氏のまとめられた旗振り通信ルートに関する抜き刷り小冊子を見つけたのは平成11年の夏のことだった。他の文献を探して、偶然、手にしたものだ。だが、この論文をきっかけに、中島氏のまとめた三重ルートの論文も入手でき、翌年3月には二石山の場所を解明することができ、本誌51号で報告した次第である。

中島氏からは、滋賀県外の旗振り通信ルートはまだ解明されていないようなので、ぜひ調べてほしい旨を伝えられた。6月から西日本一月のルート調査に着手し、文献の発掘と、市町村等への問い合わせを平行して進めていった。

その成果は、本誌の連載で順次、報告している通りだが、こういつた悉皆調査が昭和期に行われていたら、もっと正確な情報を得られたはずである。文献を探し出すためには相当な手間

が必要であり、旗振り地点を全国的にまとめた資料は皆無に等しい。

西宮市の吉井正彦氏(旗振り通信保存会)によって、昭和56年12月に岡山ルートの再発見が行われた。その準備段階で、現地の古老への聞き取り調査が行われ、その成果は当時の多数の新聞に報告されているが、まとまった報告書は作成されていない。吉井氏は、筆者への平成12年9月の手紙のなかで、岡山までのまとめを「歴史と神戸」に書かなければならないが、多忙であり、いまだにまとめる時間がなく、とおっしゃる。当時のメモ、聞き取りテープ・資料等はキヤベネットの引き出し一杯に眠ったままなのである。

「歴史と神戸」22巻3号(昭和58年6月)の編集後記に「御着付近の旗振り通信」は寺脇氏から報告を得たが、吉井正彦氏がいま熱心にやっている。多くの人の協力を得なければならぬ、今という時を失ったら永久にわからなくなるであろう」と落合重信氏が書いているが、そのことが、まさに現実の

ものとなりつつあることを感じさせられるのである。連載でも、神戸・姫路・岡山ルートのまとめからもう、20年間あたたためた調査のまとめが公表されることを待ち望んでやまない。

本誌52号で相湯桑山の小字名を報告したが、「野洲の部落史 通史編・史料編 別冊参考資料集」(野洲町、2000年)に掲載された明治期の絵図によると、「津登路山」でなく、「ホトロ谷山」、「砂山田中山」でなく、配水池一帯が「田中山」、その南(吾神社の北東)が「砂山」の字名になっている。明治以降に字名の変更が行われたのかも知れない。

本誌50号のコースガイドで「ダス原峠」について考察したが、語源は明らかにできていなかった。「當麻町史」(昭和51年)の「葛城」の地名考証(池田末則氏による)で、ダス・タズ(田鶴)はツル(蔓)のこと、ダス原・タズ原・ダス原はツル(葛)草の自生地域という。鶴でなく、葛蔓とは意外であった。(柴田昭彦)

小出良春氏は毎週のように例会を組んでおられ、なんと、1月は2日・4日・6日と続けてあった。その超人的・精力的な活動には敬意を表する。

1月2日に参加した時、ある人から「1月28日は小出さんの山行が百回を迎え、ささやかなパーティを考えています」とのお誘いを受けたが仕事で参加できなかった。

3月4日、小出リーダーの播磨アルプス「高御位山」に参加した。曾根沢に降りたのは雨予報のため参加希望5人中3人。先頭のサブ吉條孝次氏の軽快な足取りに合わせて気持ちよく歩けた。

鹿島神社を取り囲むような岩山は全方位展望よく、黒崎奥山・大谷山、鹿島神社から来た道と合流し展望石、六つ目のピークは捲き百間岩の岩登り、鎌の果山(食事)、右に馬の背を見て高御位山・小高御位山(ピストン)・北山奥山と縦走を滑走した。十六のゴブをクリアーして宝殿駅に向かう。雨は一粒も降らず最高の山行日和となった。(淺津康夫)

## 山行計画 (5・6月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と表記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のはかに参加費以外の他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点までの保険料月額50円と救済対策費月額100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(安山火災海上保険会社と契約)

|             |        |
|-------------|--------|
| 死亡・後遺障害保険金額 | 1000万円 |
| 入院保険金       | 5000円  |
| 通院保険金       | 2500円  |

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散まで係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④前泊場所内の事故 ⑤病発の場合(注釈は係まで)

(記入例)

(注)ハガキを使用

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 山行き申込み書         |             |
| 山行名 (正確に記入すること) |             |
| 期日              | 住所 〒        |
| 氏名              | 氏名          |
| 会員番号            | 会員番号        |
| (会員でない方は会員外と記入) |             |
| 電話番号            | 電話番号        |
| 生年月日            | 生年月日        |
| 緊急時の連絡先 TEL     | 緊急時の連絡先 TEL |
| (山行中の連絡先を記入)    |             |

返信ハガキの宛名欄にご自分で住所氏名と「職」を記入してください。

## 播磨・河合利山と高橋

(一般向き)

|     |                  |
|-----|------------------|
| 期日  | 4月28日(出)・29日(帰)  |
| 集合  | 1泊2日             |
| コース | バスターミナル9時30分     |
| 集合  | ①28日 JR姫路駅南口     |
| コース | ②28日 姫路駅(バス)     |
| コース | 阿合利集落・阿合利山       |
| コース | 阿合利集落(バス) 福知     |
| コース | 深谷休養センター(夕食)     |
| コース | 家原古代村(泊)         |
| コース | ②29日 家原古代村上高     |
| コース | 峰登山口・高峠・草木峠      |
| コース | 家原古代村(バス) 姫      |
| コース | 路駅(解散16時30分頃)    |
| 費用  | 約8000円(宿泊・バス代等)  |
| 地図  | 2万5千1神子畑・音水      |
| 地図  | 湖                |
| 装備  | 寝袋・食器・防寒着        |
| 係   | ◎須藤 昭            |
| 申込み | 〒671-1262        |
| 申込み | 姫路市余部区上余部町の      |
| 申込み | 2の11 須藤 昭 様まで    |
| 申込み | 復元された古代屋敷で泊ります   |
| 申込み | 昔の生活が体験できる世帯な    |
| 申込み | チャンスです。また「しろう、緑  |
| 申込み | と神林の祭典」に協賛しています。 |
| 申込み | 雨天決行             |

## 山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けた後、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事故が発生するかも緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなく記入ください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からです。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

一 記載のグレードは、當日登山歩きに親しんでおられることを前提にしています。  
 (初心者) やさしいコース  
 (初級) となたでも歩けます  
 (一般) ハイキングの標準コース  
 (中級) かなり経験者のコース  
 (やや進級) (健脚) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。



集合 ①JR関ヶ原駅8時20分  
②三枝鉄道大安駅9時00分

コース 各集合駅(甲)子買深駐  
車場―林道―中尾村―ク  
ラ―静ヶ岳―竜ヶ岳―中  
津―林道―水谷深駐車場  
(重) 各集合駅(解散17  
時頃)

費用 約500円・1000円  
(東大田から車代)

地図 2万5千ニ電ヶ岳  
◎山田朝男 ○高尾秀彦  
申込み 〒503-0635

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く。

期日 5月13日(日) 日帰り  
集合 熊野鉄道日生中央駅9時  
30分

コース ①19日(大垣駅(バス))  
西濃谷出合―林道終点―  
登山口―五蛇池畔―五蛇  
池山―登山口―林道終点  
―四保谷出合(バス)坂  
内村(沼)

期日 5月20日(日) 日帰り  
集合 西濃谷出合―林道終点―登  
山口―村尾―根―蕎麦畑  
山―村尾根根―登山口―  
林道終点―西保谷出合  
(バス)大垣駅(解散17  
時頃)

費用 約1600円(大垣駅  
から貸切バス・宿費代等)  
地図 2万5千ニ美濃沼  
◎鷲見守康  
申込み 〒504-0828

コース 日生中央駅(バス) 銀山  
口―多田銀山―ソニエ空持  
満福寺―JR武田原駅  
(解散16時00分頃)

費用 約1500円(大垣から)  
◎須藤岡 備

地図 昭文社「北摂の山々」  
申込み 〒671-1262

コース 京都北山歩き6  
寺山峠から旧花背峠・天狗杉  
(一般向き)

期日 5月13日(日) 日帰り  
集合 京都府山科町山科バス  
ターミナル8時30分

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 三重の山脈(一般向き)  
尾張・美濃(一般向き)

期日 5月22日(日) 日帰り  
集合 JR山陰線園部駅8時45  
分

コース 三重の山脈(一般向き)  
尾張・美濃(一般向き)

期日 5月24日(日) 日帰り  
集合 京阪出町駅・京都バス  
のりば7時35分

コース 出町駅(バス) 朽木橋  
生―コメカイ道―地蔵峠  
―ニコタ峠―ボボフダ峠  
―蛇谷ヶ峠―猪ヶ馬場―  
桑野峠(バス) 出町駅  
(解散18時20分頃)

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121

コース 伊勢市駅(バス) 注連指  
登山口―尾根取付―シン  
若―静ヶ岳―小秋―出  
合橋(バス) 伊勢市駅  
(解散15時40分頃か17時  
50分頃)

費用 約4500円(名古屋から  
車)

地図 2万5千―脱出  
◎小出良香  
申込み 〒610-0121



じくる」で有名な、種まき権兵衛の里、「便ノ山」から登ります。雨天決行

丹後・由良ヶ岳(初級向き)

期日 5月26日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条西口近鉄改札口付近8時00分

コース 京都駅(バス)丹後山良一東峰一西峰一丹後山良(バス)京都駅(解散19時頃)

費用 約5500円(バス代)

地図 2万5千1丹後山良・西

係 ①妻籠町女子 ○岡山昇

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大陣10の10

新ハイキング関西まで

定員26名(会員に限る)

東峰から青葉山、西峰から天橋立が望めます。青い海を見ながらゆっくりとランチタイムをとりま

す。雨天決行

週末ハイイク31

比良・白滝山からクロトノハゲ

期日 5月26日(日) 日帰り

集合 JR湖西線堅田駅8時40

(バス) 頓原町 琴引山

ハイキング(バス) 三瓶

温泉(さんべ井法)

三瓶山一子三瓶山一男三瓶

山一女子三瓶山一三瓶温泉

(入浴・バス・中医学)

費用 約21000円(バス・

地図 5万1三瓶山

係 ①井上保

申込み 〒674-0057

明石市大久保町高尾3の

1・20の14井上保まで

男三瓶山頂からの眺めは良く

足下に女三瓶・子三瓶・孫三瓶や

火口跡が見え、晴れていれば比

山連峰が、そして大山をも見るこ

とができます。雨天決行

奈良

分(14分免のバス乗車)

コース 堅田駅(バス)坊村一伊

藤新道一白滝山一夫編流

一木戸峠一クロトノハゲ

一志賀駅(解散)

費用 約3300円(大久保から)

地図 昭文社「比良山系」

係 ①笠野真彦 ○加藤元彦

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大陣10の10

新ハイキング関西まで

今回は、ルートをはずれてニリ

ンノウヤマシヤクヤクも訪ねて

みます。雨天中止

鈴鹿を歩く119

期日 5月27日(日) 日帰り

集合 国道477号徳元越谷林

道入手前広場8時30分

コース 広場(車)武平峠 鎌ヶ

岳一水沢岳一大岩一仏峠

一小岐須峠一猪足谷林道

一広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ

岳」

係 ①岩野 明 ○山田澄三

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大陣10の10

一志賀峠一荷坂分岐一室

生寺一門斎峠一室生口大

野駅(解散16時頃)

費用 約4000円(名産屋か

ら・室生寺拝観料とも)

地図 2万5千1大和野

係 ①小出長春

申込み 〒610-0121

新ハイキング関西まで

マイカー山行

大パノラマの眺ヶ岳から新緑の

尾根を水沢岳、大岩、小岐須峠ま

で縦走し、猪足谷林道をくぐるロ

ングコースです。雨天中止

京都北山・八ヶ峰(中級向き)

期日 5月27日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口南側

(新都ホテル前) 8時00

分

コース 京都駅(車)八ヶ峰自然

林養村一八ヶ峰一五波谷

峠一自然休養村(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「京都北山2」

係 ①山本久雄

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大陣10の10

新ハイキング関西まで

定員10名(会員に限る)

マイカー山行

10人程度のパーティで皆でル

トを考えながら歩く。八ヶ峰は3

60度ささえるものない北山の

展望台です。コンパス必携。

雨天中止

村田智俊まで

ロッククライミングしている人

もいる岩盤の雪彦山。信仰の山と

しても名高い。小雨決行

平日水曜ハイイク41

比良

木戸峠から比良岳と烏谷山

期日 6月6日(日) 日帰り

集合 JR湖西線志賀駅8時40

湖北・七尾山(一般向き)

期日 5月27日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札

口7時30分/②JR長浜

駅9時30分

コース 長浜駅(タクシーかバス)

南池一炊道一七尾山一南

尾根一野神神社一南池

(タクシーかバス)長浜

駅(解散15時30分頃)

費用 約4000円(名産屋か

バス)

地図 2万5千1虎御前山・長

浜

係 ①小出長春 ○山本英雄

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大陣10の10

新ハイキング関西まで

集合 ①2日 JR西明石駅新

幹線出口8時30分(出

発)

コース ①2日 西明石駅(バス・

中国道)一三次インター

鳥根の名峰・三瓶山(一般向き)

期日 6月2日(日) 3日(日)

1泊2日

集合 ①2日 JR西明石駅新

幹線出口8時30分(出

発)

コース ②日 西明石駅(バス・

中国道)一三次インター

高山性の植物を観察し、奥美濃

のジャングルとも称される名峰

の山頂から大展望を楽しみます。

自然観察と写真撮影に伴う不規則

な歩み方が苦にならない方が参加

費用 約4500円(名古屋から)

地図 2万5千円博見

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

美しい雑木林を歩く。雨大流行

鈴鹿を歩く120

水無山・綿向山・奥山・野子

係 ◎尾藤尚(尾藤尚)

申込み 〒610-0121

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 大河原「かもしか荘」広

場8時30分

コース 広場(車)熊野水無林道

終点―尾根―水無山―綿

向山―ブナの木平―大久

のガレ―P811―奥草

山―政子―野洲川ダム―

かもしか荘(解散)

費用 交通費各日

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ

係 ◎岩野 明 ○山田景三

申込み 〒610-0121

期日 6月14日(木) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

集合 神鉄石馬温泉駅9時00分

コース 有馬温泉駅―ロープウェー

有馬温泉駅―湯涌谷分岐―

紅葉谷分岐―口湯温泉分岐―

小川谷―鏡谷―湯涌谷―

味―湯涌谷山―灰形山―

紅葉山―有馬温泉駅(解散

15時頃)

費用 約2000円(飯沼橋田

駅起点・交通費等)

地図 昭文社「六甲・摩耶・

有馬」

係 ◎大村太郎 ○中村友昭

申込み 〒610-0121

期日 6月16日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

道分岐―黒河村―三田山

―明王ノ禿―赤坂山―

初野―マキノ高原(バス)

マキノ駅(解散)

費用 約3000円(京都から)

地図 2万5千円(京都から)

係 ◎岩野東雄 ○加藤元彦

申込み 〒610-0121

期日 6月17日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

千刈ダム堰堤―JR武田尾

駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂の山々」

係 ◎須藤尚 輯

申込み 〒671-1262

期日 6月10日(日) 日帰り

集合 JR武田尾駅9時30分

コース JR武田尾駅(バス)前

田橋―自然休養センター

―波豆八幡宮―千刈湖―

費用 交通費各自  
地図 昭文社「霊仙・伊吹・  
藤原」

③磐石野 明 ○山田豊三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
約五百年前まで、湖東の名刹百  
濟寺の山中修行として行者が押立  
山や日本コバ馬道を修行していた。  
不明だが「磐石の丘」が最近発  
見され編纂されている。いにしへの行  
者が歩いたルートをとります。  
雨天中止

尾張・岩屋山から山屋山  
(一般向き)

期日 6月24日(日) 日曜日  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
7時20分  
コース 名古屋駅(地下鉄)栄駅  
(名鉄)尾張瀬戸駅(タ  
クシ)岩屋山→正有果  
→岩屋山→元石屋→巨岩  
→熊見橋→宮川峠→山屋  
山→高根山→JR定光寺  
駅(電車)名古屋駅(解  
散16時頃)  
費用 約1800円(名古屋か

ら)  
2万5千→鳩坂山・多治  
見・高城寺  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合駅を明記ください  
東海自然歩道の二コースを歩  
きます。低山ですが山登りのコース  
です。雨天中止

北山ちよつと歩き22  
期日 6月27日(日) 日曜日  
集合 JR山崎線馬場駅7時10  
分  
コース 馬場駅→みずき山→王  
辻→谷田山→阪急上桂駅  
(解散15時30分頃)  
費用 約1500円(大阪から)  
地図 昭文社「京都西山」  
申込み 〒510-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
2月に計画し、雨天中止になっ  
たコースです。雨降の晴れ間を鑑  
て再度挑戦します。雨天中止

### 山行報告 (1・2月)

新ハイキングクラブ関西

北山・比叡山

1月2日(日) 晴れ時々曇り  
JR比叡山坂本駅集合9・15・30  
1日吉大社9・48・55→八高林道  
分岐10・57・11・05→車道11・25  
→根木中堂11・30(昼食)12・22  
→大谷駅(元月12・引く)スキー  
場12・23→29→ケイブル北数13・  
37→45→東山トネル13・54→寒  
母分岐14・20→30→車道15・00  
→飯尾学院駅15・25(解散)  
日吉大社にお詣りする人が多い  
かと思つたが、寒いのは許かな  
い歩道歩き出す。鳥雲あたりには  
雪が残っていた。根本中堂はさ  
すが初詣で客が多く、馬房のき  
いた休所で昼食。1等三角点での  
展望はなかつた。赤山塔をくだ  
りた。(記録・新井洋子)  
(参加者)高島嘉己 高島頼子  
田中幸子 藤原明美 橋本實二郎  
杉本 高 渡水 保 藤 晴代  
森本 勝 森本淳子 田中三恵子

鈴鹿・明星ヶ岳

1月4日(日) 晴れ  
JR串山駅集合8・55・9・00  
(タクシ)上白木9・10→20→  
関分寺9・47→57→明星ヶ岳  
10・47→52→西峰11・00→10  
道11・40(昼食)12・10→龍音山  
13・20→30→関駅14・05(解散)  
風の強い日だったが、西峰から  
の展望はまさに絶景。しばし風の  
強さを忘れて御衣式。鈴鹿の山々  
を見ていた。帰路は関の町並を見  
ながら歩いた。  
(参加者)藤 晴代 加納由紀子  
大村修子 大谷中次夫 岡本孝子  
木下初子 東中次夫 広田不佐子  
森本幹雄 若本健二 松上英子  
相本由生 若本彩子 光川二美子  
小松泰信 若本孝子 石田貞由美  
多賀川二 多賀久子 伊藤 真  
伊藤訓男 坂 文字 落合ひろ子

和匠園樹 西村正春 ○森 昌好  
○小山良香 (計27名)

南山城・笠置から滝坂の道  
1月6日(日) 晴れ  
JR笠置駅集合8・55・9・20→  
笠置10・10→阿部の石仏15・40  
→上杉杉11・00→陣屋11・20  
(昼食)11・50→砲塔地蔵11・57  
→おんじの井戸12・20→開明寺12・  
27→山口神社13・05→円成寺13・  
45→峠の水屋14・50→言切地蔵15・  
17→JR奈良駅16・25(解散)  
20数々のロングコースでも、史  
跡のくりを兼ねた道で渡れたと言  
う人もなかった。むしろ歩き足り  
ずに、波石町バス停から奈良駅ま  
でかなりの人が歩いた。  
(参加者)中川正敏 橋本賢一 師  
岩本彩子 黒河内英洋明  
飯田和洋 速水 保 岡本孝子  
木村 豊 森 晴代 中尾美穂子  
若本健雄 木村正弘 木村千代子  
高野 弘 小田清子 櫻田隆一  
伊藤訓男 市野博文 入江武史  
大河俊子 ○中村英彦 (計22名)  
○小山良香

1月7日(日) ○村田智俊  
\*雨天のため中止しました。

三子山・四方堂山・北山(麓山)  
(鈴鹿市山13)

1月7日(日) くもりのち曇り  
JR関原駅集合8・45(車)鈴鹿ト  
ネル上広野野原9・05→26→  
鈴鹿峠分岐9・30(昼食)9・48→  
三子山三峰岩10・00→二峰10・  
14→一峰10・27→四方堂山南麓11・  
24→四方堂山三角点11・35→北  
山12・00(昼食・休憩時間)北山  
往復)13・05→坂下の林道13・50  
→片山神社14・50→鈴鹿峠15・05  
(20(解散)  
展望良く雨乞・平屋・雨引・  
明星が眺められ、動物たちの足跡  
をたくさん見た。ケルトやガレ  
畑も驚く通り抜けてランギョク  
歩いた。午後3時があったがみな小  
犬のようによるこびで遊んだ。  
(記録・湯浅孝夫)  
(参加者)後藤慶幸 武村千鶴  
原 光一 原 幸子 森 晴代  
吉村 昭 原 文字 的場たか子  
西内正弘 大石繁美 佐古田文字  
五田明子 三井誠一 猪野英枝子  
若原信吾 石坂倫子 山野志保江  
若田吉士 井上 光 伊藤英孝子

奈良陣子 丹、白子 松本浩三  
岩本彩子 大河俊子 上田啓子  
本下初子 湯浅慶夫 山村英男  
○山村芳彦 ○山田明男(計26名)

鎌子ヶ口(鈴鹿を歩く100)  
1月8日(日) くもり  
神前橋広原集合8・50→35→中峰  
11・50→南峰12・00(昼食)12・  
45→獅子ヶ口13・00→東峰13・20  
→風鈴谷林道14・05→神崎川林道  
14・35→神崎橋広原15・10(解散)  
昨日の雨で山は深いガス。山頂  
付近につれて雪も深くなり、  
交替しながらのラッセルが続いた。  
獅子ヶ口北側面の袖道から中峰に  
登り、南峰の草原で昼食。東峰に  
着く。ガスが吹れて大層強風だっ  
た。モノレールにつかまりながら  
風櫃谷林道にくだる。今年もまた  
鈴鹿の四季を十二分に楽しもうと  
誓った。  
(参加者)後藤慶幸 吉村 昭  
中澤昭夫 森本 勝 森本淳子  
高野明美 今井武司 武田十郎  
谷 守 加藤国計 石田眞由美  
櫻田隆利 岡野 明 若原信吾  
信田信臣 河辺哲男 網本孝子  
大河繁美 池田繁夫 猪野孝允

○奥野 明 (計24名)

美濃・貝目山(自然観察山行24)  
1月13日(日) くもり時々雪  
大垣駅8・45(バス)採集広原ス  
キ→初雁ハイランドホテル10・35  
→40→登山口12・00→15→尾根上  
ブナの樹13・00→15→登山口13・  
35→パンケル14・13・45(昼食)  
14・30→ホテル14・50→15・00  
(バス)大垣駅16・50(解散)  
登山口までの林道からラッセル。  
山は積雪の山にも達し、トレース  
のない雪面を交替でラッセル。多  
量の新雪に阻まれ、時間切れのた  
めコース半ばで撤収。松原が舞  
うなか、静かな雪の世界を楽しん  
だ。  
(参加者)上田久子 岡田直樹  
沖 伸 小田沙子 藤野英枝子  
余養節子 夏山香子 松上英子  
松村雅子 森 昌好 山田 彰  
山本吉治 吉村 昭 ○若田吉士  
○廣見守康 (計15名)  
三重・浅間山(3000m山23)  
1月13日(日) 晴れ時々曇り  
津市三津山集合9・00(車)大  
宮町役場→下山子定の坂取に車  
の半分を回送→坂取(車)林道

滝ヶ河内線入口駐車場9・30―浅間山登山口9・40―鉄塔10・15―浅間山11・15(昼食)12・00―板取13・30(車)七保峠(車)林道滝ヶ河内線入口13・50(車)流原宮14・00(解散)

標高733・5m。流原宮あたりから見たら、あつという間接感でしましそうな感じだが、ゆるやかな尾根は意外に長くけっこう歩きがよいのある山だった。

★(おまじ) 山行計画で「一等三角点のある山」と書きましたが、2等三角点の間違いでした。お詫び致します。一等三角点研究会々員の山形蔵様から御指摘いただき、なかつた貴重な資料も送っていただきました。また、国土地理院中部測量部の中川様からもいろいろ教えていただきました。お一人のこ親び、身に染みて感謝しております。ありがとうございます。

(文責 福屋)  
〔参加者〕小柳出男 武藤由美子 平 孝子 平 龍一 石田眞由美 森 時代 森 美香子 岡本孝子 ○福屋逸夫 ○新町幸夫 ○尾崎英五(計11名)  
西播・小野アルプス総走

1月14日(日) 晴れ  
JR小野町駅9・40―無線塔10・50―新堀峠11・40(昼食)12・30―小野富士13・05―紅山13・50―福向峠14・50―小野町駅15・40(解散)

前夜の雨もすっかり上がり、風はあったが良い日和。鐵峯神社の上からは遠く小豆島も眺めることができました。岩場では怪真剣な顔で登りました。

〔参加者〕三井絃一 野口 修 小松志信 吉藤孝次 宮本真幸 宮本悦子 尾崎孝子 加納由美子 小川潤子 宮下海一 藤村勝彦 河崎妙子 小林優子 西尾俊弥 西尾裕子 高橋美智 岩田育二 中井 博 岡田 昇 岡田恵美子 渡辺靖子 三来昌子 山下小夜子 中村博香 三輪浩子 森本 勝 森本淳子 船越利明 船越みよ子 藤原忠男 秋田桐郎 前田喜久子 今村 真 三輪直文 八木八重子 山本武臣 山本立子 田中三恵子 森 隆代 東山澄夫 瓜原清明 湯浅康夫 大村優子 岡本英樹 加藤孝彦 石田豊美 福井英樹 佐田次男 狩野東彦 相原繁紀子 島田孝子 木全正秀 山本京子 石田賢二 原 文字 砂原恵美子

1月14日(日) 晴れ  
JR小野町駅9・40―無線塔10・50―新堀峠11・40(昼食)12・30―小野富士13・05―紅山13・50―福向峠14・50―小野町駅15・40(解散)

前夜の雨もすっかり上がり、風はあったが良い日和。鐵峯神社の上からは遠く小豆島も眺めることができました。岩場では怪真剣な顔で登りました。

〔参加者〕川島勝美 前川和佳子 中川正敏 永島律子 中嶋日出男 川中 保 長塚孝子 中尾美智子 本間 隆 本間繁子 松上美代子 並木孝子 蓮井洋子 中谷嘉孝 有本富子 榊川富雄 中西淑枝子 木村 豊 石原順次 真田明子 吉田 遼 入江武史 渡辺美代子 魚本廣治 魚本秀子 中村佳代子 小谷和子 福原 章 北川史枝 遠見香織 ○高岡勇男 ○市野博之 ○小出良春(計39名)

1月17日(日) 晴れ  
阪急高槻市駅北側広場集合8・20―30―雙蓮寺9・05―20―金澤寺10・25―35―若山神社11・35(昼食)12・20―尺代乙女の滝12・50―ランドリー(登山工場)14・45(見学)16・00(解散)―長山神社・阪急大山崎駅へ

大園酒蔵下の展望を堪能した。若山神社からは、尺代「みなせ渡谷歩き」を「新春歌会ハイク」と題して次々にわか名句を披露、「サントリー」はやる気を極く眺めてつらら道」詠み人知らず。

〔参加者〕奈良邦子 小山 輝 小西麗雄 東山澄夫 中嶋日出男 谷 守 山下恒三 波多野恵子 加藤園計 加藤孝子 相原繁紀子 本間 隆 安良陽子 中上代子 速水 保 藤田春美 井筒秀子 南 淳子 村上雄 眞藤百合子 妹尾正 橋上 明 和田直樹 白根恵子 石原君子 細井初子 福 久子 舟岡 武 光川二美子 小谷和子 ○湯浅康夫 ○真山雄二 (計32名)

岐阜・金華山

1月21日(日) 晴れ  
JR岐阜駅集合10・00―38(バス)岐阜公園10・50―11・00―百間川11・05―金華山12・05(昼食)12・40―古戸コース七曲り13・40―45―梅林コース―梅林公園14・20(30―岐阜駅15・10(解散)

前日の大雪で金華山は雪の中となつた。さすが岐阜市民の山で、アスガしっかり付いていて歩きやすかった。朝りに繁華街の柳々湖を見て岐阜駅まで歩いた。

〔参加者〕渡邊 甲 森 美香子 稲本芳雄 木下朝子 東 よね子 櫻田康一 櫻田光子 古戸喜久江 藤澤孝子 川島隆夫 光川二美子 福澤 章 川北東英子 ○遊楽 邦 ○小出良春(計15名)  
福向山・フナの大雪  
(お路を歩く100)  
1月21日(日) くもり  
熊野バス停集合8・30―50―海山林道一文三ハゲ10・15―水掛原10・50―熊向山11・40―フナの木平12・10(昼食)13・00―大朝のガレ13・45―鞍部分岐14・30―海山15・00―熊野15・15(解散)  
前日の雪で道路はアイスバンの

状態。しかし、山荘たち18名は寒風の吹く白い壁の文三ハゲから樹氷の花吹く熊向山へ深雪のラッセル。朝顔面の雪原を一気にくだり、秘境フナの木平で焚火を囲んで樹氷の新年会。大朝のガレを左に見て尻セードで一気にくだった。南尾根の新しいトレイルは感嘆で、すばらしい一日だった。

〔参加者〕後藤康幸 吉村 昭 山田賢三 今井武司 武藤由美子 武村千鶴 谷 守 奥野太一郎 信田信広 磯部 純 高野孫三郎 神野孝允 整田勝利 網本美恵子 露野 明 永戸秋治 石田眞由美 ○岩野 明 (計18名)

紀泉・山中溪から雲山峠  
(空口水車ハイク36)  
1月24日(日) 晴れ  
JR山中溪駅集合9・20―30―東の峰第一バノラマ台10・15―雲山峠11・40(昼食)12・35―ヤマモモの樹林13・40―六十谷駅14・30(解散)  
近江琵琶湖の自然林のなか、日だまりをのんびり歩いた。  
〔参加者〕吉藤孝次 小山 輝 渡辺靖子 若林文夫 若太彩子 大村 豊 馬部忠男 野里マツヨ

東山澄夫 榊 豊司 榊 美栄子 眞田久子 角江朝子 光川二美子 紀平龍雄 妹尾正 川上久盛 魚本廣治 栗岡克子 松崎千佳子 湯浅康夫 並木孝子 井上由紀晴 岩野孝子 山本京子 成川みさお 島田京子 木村太郎 小林伊子子 宮野孝次郎 南 マヤ子 ○鈴木一雄 ○湯浅康夫(計30名)

北山・金華山から雙蓮寺山  
(週末ハイク36)  
1月27日(日) 晴野東雲  
\*雨天のため中止しました。

生駒・信貴山  
1月28日(日) 晴れ一時小雨  
近鉄鹿部川駅集合10・00―15―五祖神社10・43―水谷地蔵11・20(昼食)12・10―12時12・35―高安山13・30―高安山集結13・47―信貴山14・15―近鉄信貴山下駅15・35(解散)  
100回日の興山山行を全員の方に祝ってもらい、とても幸せな気持ちになった。コースに富むなな「信貴山の寺院には多くの人が参拝に訪れ続けた。

和山田樹 武部 剛 武部美美子 小林 裕 辻村幸祐 中村恵子 石田豊美 大谷孝子 山本まき子 吉野 房 吉本貞子 広田不枝子 佐藤信江 高木 晋 中尾美智子 森 時代 岩園園 岡本孝子 白根恵子 原 文字 砂原恵美子 占部信廣 中島 隆 名倉マヤ子 ○山口英雄 ○遊水 保 ○市野博之 ○小出良春(計30名)

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く1  
1月28日(日) くもりのち晴れ  
阪急梅田駅8・10(電車) 熊野池 妙真口駅9・13―25―ケールト 駅9・45―55(クープル) 山上駅 10・40―10時自然歩道起点10・35(妙真寺参拝)11・00―クープル下駅11・45―50―朝明キャンプ場12・10(昼食)12・50―湖畔公園(依願茶会)14・50―熊野15・15(一日中央駅15・50(解散))

昨日の寒天大朝も皆の顔が通じてますますの天気。雪の積る山上の妙真寺に詣で、このシリーズの完歩を願う。山田樹のコースの起点から妙真寺まで歩き始め、冬枯れの朝明キャンプ場で昼食。湖野を歩いて公園で交歓会をした。知明々

ムを経て日生中央駅解散。

- (参加者) 川中 保 中村野香
- 保田 正 秋出博師 八木八重子
- 森本幹雄 住出源隆 高津智美
- 木村 豊 三輪浩子 小山 柳
- 藤村勝彦 野田 昇 岡田忠美子
- 小田朋子 野口 修 前田寛久子
- 加来昌子 船橋利明 船越みよ子
- 森本 勝 森本淳子 野里マツコ
- 狩野東彦 今村 真 森 瑞代
- 河崎妙子 真田久子 山本武臣
- 山本合子 松本忠雄 村上春代
- 岩城豊子 小杉 浩 宮下洋一
- 野間社夫 尾上太輔 今森慶子
- 甚田直美 中村和江 島 進
- 木全正秀 楠部和代 平敦英子
- 美村孝治 津田幸子 松尾千佳子
- 野村孝子 今治吉司 金田千恵子
- 松下和馬 野村美代子

(計53名)

西山・金蔵寺からボンボン山

(平日ふれあいハイク24)  
1月30日(祝) 晴れ  
阪急東向日駅集合8:30~39(バス)  
南春日町8:58~9:15(御  
陵道)小塚山分岐10:12~20(金  
蔵寺)10:35~45(蓮坂)11:10(  
鉄壁道の峠)11:40(最初の鉄壁)11:  
45(昼食)12:25(自然歩道)に合

流12:48(ボンボン山)13:05~25  
(釈迦所)13:55~14:05(善降寺)  
14:55~15:05(八幡前)15:40(一  
灰)15:55~16:00(バス)東向  
口駅16:15(解散)

晴天、無風にめぐまれた。蓮坂  
峠から鉄壁道に入るあたりから残  
雪が現れ、一部凍結していた。ボ  
ンボン山では四方の風景を楽しん  
だ。

- (参加者) 近藤 恭 吉橋孝次
- 馬淵忠男 岩本彰子 木下旬子
- 徳田暢子 東山浩夫 積木敏子
- 谷 守 楠 健司 楠 美英子
- 本尚 隆 本間慶子 栗田 京
- 安良園子 南 寛子 広田不生子
- 森 瑞代 大谷幸子 真島百合子
- 妹尾正一 松尾慶子 横川ゆり子
- 石原君子 大塚英造 岩城豊子
- 若松 寛 市原幹夫 南 ミヤ子
- 森澤照子 保田 博 木本恭子
- 上田久子 加藤園計 湯浅康夫
- 寺本善男 血原清男 下西 航
- 前上 明 菅生幸子 辻 嘉一郎
- 樺木金三 木下恵子 松尾千佳子
- 辻 寛子 松山みつ 相原悠行子
- 中山光郎 大森正美 奥山英三
- 辻垣調子 青木一雄 (中村英雄)
- 寺井恒夫 (川上久登) (計55名)

伊勢・青峰山

2月4日(祝) 晴れ  
近鉄松原駅10:25(登山口)10:35  
(正福寺)11:35(昼食)12:10(一  
燈明台)12:20(青峰山)12:35~45  
(鉄塔)13:15(五知駅)13:25(解  
散)

古刹正福寺へは車が入るので参  
道を歩く人は山歩きの人だけになっ  
たようだ。シダが繁茂して歩いて歩  
きづらい所もあった。正福寺から  
青峰山へ、初級の山なのでのんび  
りの山行だった。

- (参加者) 高岡信男 松上美代子
- 岩田晋士 栗田明子 前川和佳子
- 藤本桂吉 渡辺瑞子 永富徳子
- 上田久子 菊池桂子 山野幸高江
- 森 明代 多賀久子 中尾美智子
- 中西玉枝 (藤原 邦) (計17名)
- 小出良春

奥三河

神石山から石巻山  
鞍掛山から岩宮山  
(自然観察山行55)  
2月10日(中)11日(祝) 1泊2日  
10日(祝)くもり時々晴れ JR豊  
橋駅10:00(車)森毛温泉10:40  
~50(一足)11:15(神石山)12:  
00(昼食)13:00(多米峠)13:45

大知波田峠14:50(石巻神社)15:  
35(石巻山)15:50(石巻神社)16:  
20(車)湯谷温泉18:00(泊)  
(11日) 晴れ 湯谷温泉7:30  
(車)梅津温泉(天神旅館前)8:20  
~30(一階上右のゴルフ)9:10~25(一  
階)10:40(一階)子岩のゴルフ10:  
00(御殿台)10:45~55(ミヨジ峠)  
11:20(若山)12:25(昼食)  
13:20(若山)登山口(バス停)14:  
20~30(車)豊嶺駅16:20(解散)  
1日目は3000m級、2日目は  
8000級の低山ながら、厳しい  
アップダウンの連続する長いコー  
ス。イヌゲなど常緑樹たちの原  
生木に感動し、巨大な安山岩塊が  
つくる見事な景観に圧倒され、奥  
三河の山々を見晴らすかして、充実  
した2日間でした。\*この山行は  
伊豆・天城山から都合で変更しま  
した。

淡路島・駒形山

(近畿百名山に登る24回)  
2月11日(祝) 晴れのち雪

2月11日(祝)12日(祝) 1泊2日  
11日(祝) JR新大阪駅集合  
8:00(バス)先山登山口11:30  
~40(先山頂)先光寺12:30(昼  
食)13:30(先山)14:30(バス)  
麓野松原15:40(分岐)

12日(祝)くもり 麓野松原8:  
00(バス)駒形山登山口8:  
35~45(駒形山)9:50~10:15  
(駒形神社)10:25~30(湯水  
仙)11:30(バス)うすしお温泉  
(ゆとりっく)12:30(入浴)13:  
30(バス)尾瀬原(型市)14:10  
(昼食)14:15(バス)14:10  
(大阪駅)17:40(解散)

初日に予のしずくが落ちて出来  
たといえ、神話の先山に登った  
駒形山からの登路ではシカ一  
頭を見た。下山道ではタヌキが横  
になって死んでいた(タヌキが横入  
りだったかも)。温泉と山、海  
の幸とスライムの香りが、淡路島の  
冬の山旅をほのぼのと楽しんだ2  
日間だった。

- (参加者) 宮本真幸 宮本悠子
- 中山正敏 宮下洋一 井林秀英子
- 石田朋子 栗比路美 武部美智子
- 岩田晋士 青木一雄 田中真知子
- 秋田福郎 田中幸子 鈴木美代子
- 林 陽子 鈴木敏彦 中原美智子

2月11日(祝) 晴れ  
日本コバ(鈴鹿を歩く1-1)  
永源寺町停車場集合8:30(車)も  
ろじ荘8:40(シキロの池)8:45  
~15(尾根分岐)12:00(昼食)永源  
寺山門15:45(永源寺町)16:  
20(解散)

絶好の雪山登山日和。シキロの  
池を見て笠松根を登ると雪山  
山になり、カンジキをかける。登  
るにつれ眺望も開け、白く輝く鈴  
鹿の山々や湖東平野。そして長大  
な破堤、雪の日本コバの模様を歩  
く。下山は水溜り山門に続く屋根  
を一気にくぐった。

- (参加者) 後藤康幸 山田英三
- 藤 光一 原 孝子 武藤由美子
- 大石幹夫 高野智美 奥野太一郎
- 森本 勝 森本淳子 石田真由美
- 谷 久雄 池田繁夫 中森昭夫
- 武村千鶴 水戸鉄治 堀越武敏
- 信田信彦 杉山能久 谷 守
- 神野幸允 西内正弘 瀧木美智子
- 堀田勝利 河辺牧男 (宮野 明)
- (計26名)

湖南・阿星山

2月11日(祝) 晴れ  
JR石巻駅集合8:00~10(長野  
寺)9:15~32(登山口)10:20(阿  
星山)11:00(昼食)11:50(展望  
広場)12:15(常楽寺)13:03(石巻  
駅)14:30(解散)

雪を期待しての山だったが、阿  
星山には雪はなく、やっと展望  
の峠付近から雪道になった。下山  
は比良・三上山・十二坊を見なが  
ら常楽寺へくぐった。

(参加者) 柳川富雄 堀山暢子  
北村 正 福本秀雄 中西茂新好  
森本幹雄 高橋舞治 野田マツコ  
萬代 登 笠原香織 中村佳世子  
中村善香 松尾敏子 東 美智子  
川上久堅 木本恭子 岩城豊子  
中西玉枝 本間 隆 野々山 寛  
松本 博 速水 保 中嶋日出男  
高岡信男 栗田明子 宮野孝次郎  
吉本百合子 吉野 房 長沢佑美  
白根恵子 小谷桂子 加藤元彦  
加藤浩二 森 昭代 渡辺美代子  
角田一江 市野博文 徳田暢子  
栗生 哲 中谷幸子 名取マサ子  
西村文男 小山 柳 藤原厚子  
中島 隆 (中村英雄)

駒ヶ岳(鈴鹿百名山)  
2月11日(祝) 晴れのち雪  
近鉄総の山温泉駅集合9:25(車)  
尾崎キャンプ場上広場9:45(長  
坂道)10:00(行着道合流点)10:20  
~尾高山)10:33(駒ヶ岳八合目  
付近)12:10(昼食)12:30(駒ヶ  
岳(登山口)20~40(尾高山)16:  
27(混合林道)15:50(キャンプ場  
上広場)16:00(車)湯の山温泉駅  
16:15(解散)

昨年は大雪で山頂まで行けなかつたが、今年再挑戦して今昔山頂に  
立った。山頂部で1層の積雪、樹  
水もわずかに見られた。他のグルー  
プも羽鳥峰から来ていた。

(参加者) 山本久雄 岩下祐夫  
鎌刀由子 丹下由子 伊藤美智子  
山村善男 池田隆一 高橋智彦  
佐藤孝一 奈良淳子 宮野孝へ子  
大村敏子 徳元 進 佐田田文字  
中山誠司 中山中江 吉村 昭  
(計18名)

京都トレイル補強山から銀閣寺  
(平日水曜ハイク37)  
2月14日(祝) 晴れ  
京阪伏見駅集合8:20(種荷大社  
8:45(四ツ谷)9:10(清水山)10:  
50(一階上インクライン)12:00(昼

倉 12・40 大文字山分岐 13・56  
— 銀閣寺道 15・00 (解散)  
古郡の山道で、神社・仏閣・御  
陵が多く、それぞれ歴史をしのび  
ながら心地よい疲れの17までし  
た。

(参加者) 近藤 恭 羽田野弘三  
堀田輝子 中村和江 松野千佳子  
馬籠忠男 石澤厚子 石澤雅世  
小西輝雄 木村 豊 小林伊代子  
谷 守 中村啓香 山十紀代子  
辻 富子 岡田里子 松上紀代子  
岩城豊子 木本美子 相原悠紀子  
木間 隆 木間繁子 舟岡 武  
乙原伸雄 長島保江 小野しげ子  
松本忠雄 緒万由子 岸本由美  
浦上 明 森本寿子 高津智美  
妹尾一正 中村英雄 山本千鶴子  
白根清子 行子 成川みさお  
小山 輝 金森勸子 岩木いすく  
隣 勇子 市野博文 砂原恵美子  
安良陽子 神野孝允 波多野恵子  
川原勝恵 山口喜弘 辻 嘉一郎  
血原清男 寺本幸男 萬谷由美子  
小嶋和子 片山慶子 北澤スマ子  
志知鈴子 本落惠天 北澤登博子  
高松雅子 朝見春美 井林美奈子  
竹田美英 岡田春美 堀 久子  
○眞田久子 ○吉藤孝次  
○東山浩夫 ○光川 英子

50 近江高見山 13・00 市峠 13・  
40 今知 14・40 寺院広場 15・15  
(解散)

山頂部は樹氷の花。「鹿だー」  
の大声、右下大洞谷の樹氷のなか  
を15〜16頭が西南尾根に移動して  
いった。雄大な山頂部は白一色。  
食後は雪道の下で尻セードを楽し  
む。大展望と樹氷の続く西南尾根  
をくぐり、今知では樹氷と節分  
草の花が出現してくれた。

(参加者) 後藤康幸 吉村 昭  
山田英一 今井武司 武藤由美子  
大角博美 森本 勝 森本寛子  
高津智美 小林 裕 中森昭夫  
武村千鶴 河辺敦男 神野孝允  
鈴木 甫 谷 久雄 瀬木美恵子  
横井 徹 横井美子 石山眞由美  
永戸鉄治 藤田勝利 小林 実  
小林 修 ◎谷野 明 (計25名)

湖東・雪野山から瓶割山  
2月25日 晴れ時々雪  
JR近江八幡駅集合 9・15〜30  
(六) 川守 9・50 蓮王寺 10・  
03 一乗野山 10・55 大和神社 11・40  
(昼食) 12・20 瓶割山 13・13  
15 瓶割山 13・25 37 大谷 13・  
55 武佐原 14・15 (電車) 近江八  
幡駅 14・30 (解散)

○青木一雄 ◎湯浅次男 (計17名)  
美濃・池田山 (白紙朝霧山) 9  
2月17日 晴れ  
近鉄大垣駅 8・40 (電車) 池野駅  
9・00 (タクシー) 富岡ヶ原 9・  
15 25 池田山の森 11・25 (昼食)  
12・05 池田山 12・50 13・10 池  
田の森 14・20 富岡ヶ原 16・15  
25 (タクシー) 池野駅 16・35  
47 (解散・電車) 大垣駅

頂部部は1層の積雪、ノウサ  
ギ・リス・テンの足跡、葉や食痕  
など哺乳動物のフイールドサイン  
がいっぱいの林間を遊び、トレレ  
スのない雪原のコースを自由に歩  
くスノーハイキングを満喫した。  
池田の森からの展望も素晴らしいた。

(参加者) 石浜倫子 岩本彩子  
大角良子 岡田 昇 岡田恵美子  
木下朝子 近田智子 荻野美紀恵  
夏山春子 西村正春 小崎由利子  
堀田輝子 柳 礼子 船本裕二子  
松上美代子 宮村大次郎  
吉村 昭 ◎鷺見守康 (計18名)  
三河・衣笠山から頼荷山  
2月18日 晴れ  
新豊橋駅 9・02 (電車) 田原駅 9・  
15

杉本高さんのコース説明で古墳  
と城跡の歴史ある山を歩いた。普  
通の低山と思っていた二つの山も  
歴史に輝いている。

(参加者) 小松志信 加納由紀子  
柳川常雄 稻本芳雄 松上美代子  
堀田輝子 川島勝美 加地信成  
若林文夫 山本隆夫 若城豊子  
原 幸子 本間 隆 若城豊子  
坂本 博 北村 正 渡辺靖子  
松尾麻子 市野博文 高岡富美子  
大谷英子 辻村美裕 広田不佐子  
大藤光造 小杉 浩 小坂きぬ子  
登田 晃 藤尾健治 砂原由美子  
若本健一 岩本彩子 五十畑陽子  
若田明子 藤原 邦 山本すま子  
福原 章 中谷繁子 辻 行子  
白根清子 松尾正敏 入江武史  
佐野信江 三井敏一 中尾美智子  
森 現代 人見正信 岩本いすく  
西田美津子 ○杉本 高  
○山村英雄 ◎小田良春 (計25名)

比良・蛇谷ヶ峰  
2月25日 曇りのち雪  
JR近江高見駅集合 8・55 (六) 高  
見 9・20 30 赤坂峠 10・47  
55 蛇谷ヶ峰 12・10 17 P 8  
17 12 30 (昼食) 13・00 高  
坂口 15・10 (解散) 16・24 (六)

50 衣笠山 11・05 流石山 11・50  
(昼食) 12・20 藤尾山 12・47  
— 瓶割山 13・23 瓶割山 13・50 1  
田原駅 14・15 (電車) 新豊橋駅 15・  
10 (解散)

春の訪れを予感させるような暖  
かな日。三河湾と太平洋を望む  
湿美半島の山を縦走した。次から  
次にとピークが出てくる楽しい山  
だった。

(参加者) 中尾和子 中村幸子  
中西玉枝 徳田陽子 六戸喜久江  
奥田隆夫 森 時代 岡本美千子  
川原勝美 鈴木 雨 前川久枝  
三井千鶴子 ○藤原 邦 (計14名)  
◎小田良春  
台高・高見山  
(近畿百名山を歩く25回)  
2月18日 晴れ  
近鉄藤原駅集合 8・40 50 (六) 高  
見 登山口 9・40 小峠 10・40  
11・00 大峠 11・30 (昼食) 12・  
30 高見山 13・20 50 核分分岐  
14・30 高見平野 15・40 50 (パ  
ス) 藤原駅 16・40 (解散)  
急に春めいて暑いくらいの良い  
天気だった。山頂では360度の  
景色が堪能できた。さすが冬の高  
見山は人でいっぱいだった。\*村

近江高見山へ  
結った雪の上は、さらさらの新  
雪が20センチという厚さのコンパイン  
。約1時間早く登頂できた。下  
りの寛坂尾根は予想を超える40  
50分の新雪で、全員輪カンを着け  
雪まみれになって降りた。

(参加者) 長尾一令 岩田育七  
石田豊美 武部 剛 森脇貞義  
二原利明 杉山龍久 大須賀 實  
山藤勝美 中川光郎 池田隆一  
多賀久子 則定保夫 光川一孝子  
大東 哲 ○江田光一  
○松見 昭 ◎兼 康夫 (計18名)

京都河原町  
文祥堂書店  
各種の山の本をたくさん補  
えています。ぜひお立ち寄り  
ください。  
〒604-1803  
京都市河原町通三条下ル  
(西側)  
075(211)1002

田は都合が悪く、リーダーは安倉  
に、サブリーダーは野村に委ねた。

(参加者) 三井敏一 沖 伸  
渡部 幸 遠藤和子 青木一雄  
福原 章 小林 裕 木村正弘  
木村 豊 武部 剛 武部美恵子  
東山隆夫 中村啓香 藤原 邦  
西村善行 辻村幸裕 高坂きぬ子  
山田幸子 藤野 明 高岡富美子  
角川幸子 岡野 明 稲原大太郎  
眞田久子 森脇貞義 光川一孝子  
瓜原利明 船越孝子  
山口喜弘 眞田明子 多賀久子  
神野孝允 谷 守 ○狩野東彦  
◎安倉正勝 (計36名)

西山・赤松嶺  
(北山ちよっと歩き18)  
2月21日 晴れ  
\*雨天のため中止しました。  
雲仙山西南尾根  
(鈴鹿を歩く112)  
2月25日 晴れ  
\*河内の風(八)手前寺院広場集合  
8・10 (車) 入谷広場 8・25 1落  
合 8・40 汗ふき峠 9・20 見晴  
台 10・10 雲仙山 11・20 (昼食)  
12・10 散居 12・20 雨雲 12・

山行例会参加の場合は、新  
ハイキングの想定があります。  
(91ページ山行計画欄)。これ  
を十分にご理解のうえ申し込  
んでください。規定に反しま  
すと、係や参加の他の人にも  
迷惑をかけることになりまし  
ます。気分よく山行するため、みん  
なでルールを守りましょう。  
特に次の2点をよろしく。

★計画を早目に決め、必ず7  
日前には申込先に到着するよ  
う、往復ハガキに必要事項を  
すべて記入のうえ申し込んで  
ください。直前や飛び込みは  
お断りします。また電話やファ  
クシミリでは、名簿作成や山  
行案内の返信に回ります。  
★雨天に歩くのが嫌な方は始  
めから小雨決行・雨天決行の  
計画には申し込まないでくだ  
さい。また、当日の決行が中  
止の場合は、案内の降確立を見  
て、必ず前夜の気象情報で確  
認してください。

例会参加の注意点

# 新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編  
改訂2版/上製本/日6判 350頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 **花の山を行く** 松本雪枝 著  
3刷発売中/上製本/日6判 356頁/定価1835円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 **山旅素描** 足立真一郎 著  
3刷発売中/上製本/A5変型判/定価1035円 山道画家足立真一郎の珠玉の画文集
- 第8巻 **旅がらすの山** 富田弘平 著  
3刷発売中/上製本/日6判 368頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を収めた
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著  
3刷発売中/日6判 335頁/定価1632円 一等三角点100山の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山** 小林経雄 著  
改訂2版発売中/日6判 360頁/定価1680円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著  
2刷発売中/上製本/日6判 360頁/定価1885円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド〈東日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和彦 共著  
9刷発売中/A5判 320頁/定価1680円 新ハイキングの精鋭5氏実地踏査のガイド
- 第16巻 **日本300名山ガイド〈西日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和彦 共著  
8刷発売中/A5判 320頁/定価1680円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著  
2刷日6判 354頁/定価1385円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著  
2刷A5判 340頁/定価1600円 一等三角点の山100山の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編  
日6判 320頁/定価1890円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/森樹生雄/川越はじめ/岡村実邦 共著  
A5判 310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80山の登山コースを紹介
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著  
A5判 286頁/定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編  
A5判 387頁/定価1800円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13  
電話/Fax 03-3915-8110 印刷 03-3915-1468/15  
●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担

## 新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。  
この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情報豊かで健康な山歩をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。  
「新ハイキングクラブ」は昭和55年発足以来、東京を中心に50年間好評のうちに活動してきました。関西は平成3年発足で10年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。  
会員には当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。  
リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。  
会員には毎月「新ハイキング関西の山」をお送りします。四季の自然に触れながら歩き、

## 新入会員紹介

若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。  
年会金 5000円(バジジ代)  
入会費 3000円(送料共)  
年会費 3000円(送料共)  
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずに記入してください。  
なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけますと、毎号雑誌にお手元が届きますので便利です。  
切手5000円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊お送りします。  
○山行リーダー募集  
リーダーは2ヶ月に1回程度、山行例会を計画・実施していただきます。  
無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必読」を送ります。

- 【東京】 矢野 克
- 【福井】 上木和彦
- 【愛知】 川島徹也 去戸喜久江
- 【三重】 筒井とも子
- 【滋賀】 近藤美子 西村八重子
- 【京都】 平塚明美 花房真理子
- 【大阪】 橋本 進 藤瀬非 典
- 【京都】 山田幸子 石澤厚子
- 【三河】 正 若林和人 村井吉和
- 【松本】 松田輝子
- 【大阪】 山口 孝 山口光子
- 【松本】 松尾正敏 宮西和子 大森正美
- 【小倉】 小倉文天 田口康子 佐々木敬明
- 【東京】 潮見宏隆 潮見春美 中山博司
- 【中山】 中山史江 小池一郎
- 【奈良】 清水一彦 田口芳一
- 【山口】 田口富子 松原久美子
- 【兵庫】 清水良一 中村啓子
- 【兵庫】 平田紀男 平田節子
- 【大阪】 岡本桂子 谷口俊男 塚本みどり
- 【大和】 大和 紘 坂口英雄 五十畑豊子
- 【河本】 河本幸子
- 【広島】 萩原有明 (48名)

## 訂正とお詫び

57号(第2巻)グラビア(A7ページ)の写真は、上が「イブネ北端より御在所岳」、下が「クランより釈迦ヶ岳」です(説明が逆になっていました)。  
57号(第2巻)19ページ略図「水谷登山口」は「北谷登山口」が正しい。  
57号(第2巻)40ページ下段20行目「たどり着いた。」は「たどり着く。」が正しい。  
57号(第2巻)55ページ写真の説明「明文」馬の跡を「く」は「馬の背を「く」が正しい。  
57号(第2巻)88ページ上段本文1行目「可憐」は「最」が正しい。又同コースガイド69ページ下段1行目から2行目の「愛宕山」は「愛宕山」が正しい。  
57号(第2巻)90ページ「石巻山」の説明「方」は「お」が正しい。「い」が「わ」が正しい。(編集室)  
毎号お求めになりたい方へ、前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。毎月の20日ごろ(隔月刊)の発売です。